

神奈川県海老名市

すぎく ぼいせき  
杉久保遺跡発掘調査報告書

— 第7・8次調査 —

2022

海老名市教育委員会



神奈川県海老名市

すぎく ぼいせき  
杉久保遺跡発掘調査報告書

— 第7・8次調査 —

2022

海老名市教育委員会



## 例 言

1. 本書は海老名市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書であり、杉久保遺跡（海老名市No.10遺跡）第7次、第8次調査について収録している。
2. 発掘調査は神奈川県海老名市杉久保北四丁目1903番2及び杉久保北四丁目1903番5における、ともに個人専用住宅の建設に伴う事前の記録保存調査として実施したものである。
3. 現地調査及び出土品等整理作業は平成28、29及び令和2年度に「国宝重要文化財等保存整備費補助金」、「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」及び「神奈川県市町村事業推進交付金」を受け、発掘調査報告書刊行にあたっては令和3年度に「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」及び神奈川県の「指定文化財保存修理等補助金」を受けて実施した。
3. 発掘作業から報告書刊行までの期間及び出土品等整理作業場所は次のとおりである。

発掘調査期間	第7次調査 平成29年1月11日から平成29年2月10日
	第8次調査 平成29年2月6日から平成29年2月10日、 平成29年4月14日から平成29年5月29日
出土品等整理作業期間	平成29年6月1日から令和2年3月31日 (遺物洗浄及び注記、分類、図面整理)
	令和2年6月18日から令和3年3月5日 (遺物実測、観察表作成、写真撮影等整理作業委託)
報告書刊行期間	令和3年4月1日から令和4年3月25日
出土品等整理作業場所	海老名市教育委員会事務室（神奈川県海老名市中新田377） 有限会社アルケーリサーチ（東京都板橋区中台1-47-3）
4. 発掘調査は、第7次調査は今野まりこ（海老名市教育委員会教育総務課文化財係 ～令和2年度）が担当し、向原崇英（海老名市教育委員会教育総務課文化財係 ～令和元年度）、押方みはる（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が補佐した。第8次調査は今野が担当し、向原が補佐した。出土品整理作業は今野が、報告書編集作業は押方、和田山千暁（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が担当した。
5. 整理作業のうち、出土品の整理作業、実測、遺物写真撮影は有限会社アルケーリサーチに委託し、出土品注記、分類、図面整理、デジタルトレースは今野、押方の指示のもと市川由希子（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）、園部理恵（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が行った。本書の執筆は今野の記録および概要報告に基づき和田山、押方が以下のとおり分担し、全体の編集は押方が行った。

押方みはる	第1章、第3、4章、第5章遺構部分、第6章
和田山千暁	第2章、第5章遺物部分
6. 写真撮影は遺構を主に今野が、遺物は有限会社アルケーリサーチが行った。
7. 本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系平面直角座標系（第IX系）を用いた。
8. 本発掘調査に係る出土品及び図面、写真等の記録類は、一括して海老名市教育委員会で保管している。

9. 本発掘調査にかかる出土品の注記については、遺跡名を「杉7」、「杉8」と記した。
  - ・第7次調査中・近世2号溝状遺構は整理作業時に遺構番号を変更したため、注記はSD1となっている。
  - ・第8次調査No.1調査区については現地調査時にA区と呼称したため、注記はA区となっている。
10. 本書の遺構、遺物の挿図の指示は次のとおりである。
  - ・遺構（調査区）実測図の方位は真北を示し、水系高は海拔高度を指す。
  - ・土層観察の色調は『新版標準土色帖』2001年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修に準拠している。
  - ・挿図の縮尺は各図に示す。
  - ・挿図中の×は土器出土地点、●は石器出土地点を示し、数字○○-○○は図-遺物Noを示す。
11. 発掘調査及び整理作業に際し、次の諸氏、諸機関よりご協力、ご教示賜った。（順不同、敬称略）

寺谷和浩、樋口航、株式会社アーク・フィールドワークシステム、公益社団法人海老名市シルバー人材センター、有限会社アルケアーサーチ

# 目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査等体制	3
第2章 遺跡概観	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	6
1. 周辺の遺跡	6
2. 杉久保遺跡調査歴	8
第3章 調査経過	12
第1節 調査区の設定と調査の方法	12
第2節 調査経過	12
第4章 基本層序	17
第5章 発見された遺構と遺物	19
第1節 第7次調査	
1. 中・近世	19
1) 溝状遺構	
2) 土坑	
3) 性格不明遺構	
2. 縄文時代	22
1) 住居跡	
2) ピット	
第2節 第8次調査	46
1. 中・近世	46
1) 溝状遺構	
2) 土坑、ピット	
2. 縄文時代	46
1) 住居跡	
2) 土坑	
3) ピット	
第6章 まとめ	91

## 挿 図 目 次

第1図 調査地点位置図…………… 4	第32図 第8次調査No.2調査区縄文時代遺構 平断面図 …… 53
第2図 周辺地形分類図及び杉久保遺跡位置図… 5	
第3図 周辺の主要な遺跡…………… 7	第33図 第8次調査1・2号住居跡埋甕 平断面図 …… 57
第4図 杉久保遺跡調査履歴図…………… 9	
第5図 試掘調査状況図…………… 13	第34図 第8次調査1・2号土坑平断面図…………… 58
第6図 試掘調査写真…………… 14	第35図 第8次調査ピット断面図(1)…………… 59
第7図 調査区設定図…………… 14	第36図 第8次調査ピット断面図(2)…………… 60
第8図 第7・8次調査中・近世遺構全体図 …… 15	第37図 第8次調査ピット断面図(3)…………… 61
第9図 第7・8次調査縄文時代遺構全体図 …… 16	第38図 第8次調査1号住居跡出土遺物(1) …… 63
第10図 基本層序…………… 18	第39図 第8次調査1号住居跡出土遺物(2) …… 64
第11図 第7次調査中・近世遺構平面図…………… 20	第40図 第8次調査1号住居跡出土遺物(3) …… 65
第12図 第7次調査中・近世遺構断面図…………… 21	第41図 第8次調査1号住居跡出土遺物(4) …… 66
第13図 第7次調査縄文時代遺構平面・ 遺物出土状況図…………… 24	第42図 第8次調査1号住居跡出土遺物(5) …… 67
第14図 第7次調査土層断面図…………… 25	第43図 第8次調査2号住居跡出土遺物(1) …… 68
第15図 第7次調査2号住居跡埋甕平断面図 …… 26	第44図 第8次調査2号住居跡出土遺物(2) …… 69
第16図 第7次調査ピット断面図(1)…………… 27	第45図 第8次調査2号住居跡出土遺物(3) …… 70
第17図 第7次調査ピット断面図(2)…………… 28	第46図 第8次調査3号住居跡出土遺物(1) …… 71
第18図 第7次調査1号住居跡出土遺物(1) …… 29	第47図 第8次調査3号住居跡出土遺物(2) …… 72
第19図 第7次調査1号住居跡出土遺物(2) …… 30	第48図 第8次調査3号住居跡(3)・土坑・ ピット出土遺物…………… 73
第20図 第7次調査1号住居跡出土遺物(3) …… 31	第49図 第8次調査遺構外出土遺物(1)…………… 74
第21図 第7次調査1号住居跡出土遺物(4) …… 32	第50図 第8次調査遺構外出土遺物(2)…………… 75
第22図 第7次調査1号住居跡出土遺物(5) …… 33	第51図 第8次調査遺構外出土遺物(3)…………… 76
第23図 第7次調査2号住居跡出土遺物…………… 34	第52図 第8次調査遺構外出土遺物(4)…………… 77
第24図 第7次調査ピット・溝状遺構出土遺物 …… 35	第53図 第8次調査遺構外出土遺物(5)…………… 78
第25図 第7次調査遺構外出土遺物(1)…………… 36	第54図 第8次調査遺構外出土遺物(6)…………… 79
第26図 第7次調査遺構外出土遺物(2)…………… 37	第55図 第8次調査遺構外出土遺物(7)…………… 80
第27図 第7次調査遺構外出土遺物(3)…………… 38	第56図 杉久保遺跡中世溝状遺構全体図…………… 93
第28図 第7次調査遺構外出土遺物(4)…………… 39	第57図 杉久保遺跡第1次調査縄文時代 集落展開図…………… 94
第29図 第7次調査遺構外出土遺物(5)…………… 40	
第30図 第8次調査No.2調査区中・近世遺構 平断面図 …… 47	第58図 第7・8次調査 縄文時代主要遺構・出土土器図…………… 95
第31図 第8次調査No.1調査区縄文時代遺構 平断面図 …… 52	



## 表 目 次

第1表	発掘調査に係る調整及び届出等の文書	2	第12表	第8次調査縄文時代土器観察表(1)	81
第2表	杉久保遺跡調査歴一覧	10	第13表	第8次調査縄文時代土器観察表(2)	82
第3表	第7次調査縄文時代ピット計測表	26	第14表	第8次調査縄文時代土器観察表(3)	83
第5表	第7次調査縄文時代土器観察表(1)	41	第15表	第8次調査縄文時代土器観察表(4)	84
第6表	第7次調査縄文時代土器観察表(2)	42	第16表	第8次調査縄文時代土器観察表(5)	85
第7表	第7次調査縄文時代土器観察表(3)	43	第17表	第8次調査縄文時代土器観察表(6)	86
第8表	第7次調査縄文時代土器観察表(4)	44	第18表	第8次調査縄文時代土器観察表(7)	87
第9表	第7次調査縄文時代土器観察表(5)	45	第19表	第8次調査縄文時代土器観察表(8)	88
第10表	第7次調査縄文時代石器観察表	45	第20表	第8次調査縄文時代土器観察表(9)	89
第11表	第8次調査縄文時代ピット計測表	62	第21表	第8次調査縄文時代石器観察表	90

## 写真図版 目次

写真図版表紙	第8次調査風景	写真図版7	1. 2号住居跡埋甕炉(北から)
写真図版1	調査地点周辺空撮		2. 2号住居跡確認状況(東から)
写真図版2	1. 昭和31(1956)年 杉久保遺跡周辺 空撮(国土地理院所蔵)		3. 2号住居跡遺物出土状況(南から)
	2. 第7次調査地点調査前近景(北から)		4. 2号住居跡掘り方、土層堆積状況 (北から)
写真図版3	1. 1・2号溝状遺構(北から)		5. 風倒木痕(東から)
	2. 1・2号溝状遺構(南から)	写真図版8	1. 調査区東壁、風倒木痕土層堆積状況 (西から)
	3. 2号溝状遺構ピット調査状況 (東から)		2. 縄文時代ピット完掘状況全景 (北から)
	4. 2号溝状遺構土層堆積状況(北から)	写真図版9	第7次調査1号住居跡出土遺物(1)
	5. 1・2号溝状遺構土層堆積状況 (北から)	写真図版10	第7次調査1号住居跡出土遺物(2)
写真図版4	1. 1号土坑(南から)	写真図版11	第7次調査1号住居跡出土遺物(3)
	2. 2号土坑土層堆積状況(西から)	写真図版12	第7次調査1号住居跡出土遺物(4) 第7次調査2号住居跡出土遺物
	3. 1号住居跡遺物出土状況(南東から)	写真図版13	第7次調査ピット出土遺物 第7次調査2号溝状遺構出土遺物
写真図版5	1. 1号住居跡遺物出土状況(南西から)		第7次調査遺構外出土遺物(1)
	2. 1号住居跡遺物出土状況(南から)	写真図版14	第7次調査遺構外出土遺物(2)
写真図版6	1. 1号住居跡付近ピット確認状況 (南から)	写真図版15	第7次調査遺構外出土遺物(3)
	2. 1号住居跡完掘状況(南から)	写真図版16	第7次調査遺構外出土遺物(4)
		写真図版17	第7次調査遺構外出土遺物(5)

写真図版18	1. 第8次調査No.1 調査区近景(西から) 2. No.1 調査区調査状況(西から) 3. 3号住居跡埋甕(南から) 4. No.1 調査区東側遺構(4号住居跡 確認状況) 5. 3号住居跡遺物出土状況(南から)	写真図版23	1. 1号土坑(東から) 2. 1号土坑遺物出土状況 3. 1号土坑完掘(西から) 4. 2号土坑(西から) 5. 縄文時代ピット完掘状況(東から)
写真図版19	1. 第8次調査No.2 調査区近景(南西から) 2. 2号溝状遺構調査状況(南から)	写真図版24	第8次調査1号住居跡出土遺物(1)
写真図版20	1. 中・近世1号土坑、ピット(南から) 2. 1号住居跡遺物出土状況(北から) 3. 1号住居跡埋甕(南から) 4. 1号住居跡石器出土状況 5. 1号住居跡完掘状況(東から)	写真図版25	第8次調査1号住居跡出土遺物(2)
写真図版21	1. 2号住居跡埋甕調査状況(南から) 2. 2号住居跡埋甕(南から) 3. 2号住居跡炭化物出土状況(南から) 4. 2号住居跡出土土器 5. 2号住居跡土層堆積状況(西から)	写真図版26	第8次調査1号住居跡出土遺物(3)
写真図版22	1. 2号住居跡完掘状況(南東から) 2. 2号住居跡推定入口施設付近完掘 状況(西から)	写真図版27	第8次調査1号住居跡出土遺物(4) 第8次調査2号住居跡出土遺物(1)
		写真図版28	第8次調査2号住居跡出土遺物(2)
		写真図版29	第8次調査2号住居跡出土遺物(3) 第8次調査ピット出土遺物
			第8次調査3号住居跡出土遺物(1)
		写真図版30	第8次調査3号住居跡出土遺物(2) 第8次調査1号土坑出土遺物
		写真図版31	第8次調査遺構外出土遺物(1)
		写真図版32	第8次調査遺構外出土遺物(2)
		写真図版33	第8次調査遺構外出土遺物(3)
		写真図版34	第8次調査遺構外出土遺物(4)
		写真図版35	第8次調査遺構外出土遺物(5)

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯（第1表）

杉久保遺跡第7次調査、第8次調査はともに個人専用住宅建設に伴うものであるが、今回の住宅建築の計画以前の平成27年度に、当該区域において切土を伴う宅地造成計画が予定され、埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。このことから平成28（2016）年4月25、26日に海老名市教育委員会（以下、「市教委」という。）で試掘調査を実施したところ、設定した試掘坑4か所から、縄文時代のピットおよび遺構覆土、縄文土器が多数出土した。この結果を受け、その後この宅地造成の事業計画は中止され、造成は行わず、個人専用住宅敷地として販売された。

その後、敷地南側の杉久保北四丁目1903番2において個人専用住宅が建設されることとなり、平成28（2016）年12月12日付けで、事業主から市教委に対して同地における埋蔵文化財の試掘調査に関する照会があった。市教委は計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地海老名市No.10遺跡（杉久保遺跡）に該当し、また当該地は既に試掘調査により、埋蔵文化財が存在することが確認されていることから、住宅建設に伴って行われる駐車場切土部分について、「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準 別表1(1)」に該当し、本格調査を要する旨回答した。

平成28（2016）年12月12日、事業者より文化財保護法第93条に基づく土木工事の届出がなされ、同年12月22日付けで神奈川県教育委員会より事業者の本発掘調査についての通知がなされたことから、文化財保護法第99条に基づき杉久保遺跡第7次調査として市教委が発掘調査を行うこととなった。調査範囲は駐車場切土部分とし、本発掘調査は平成29（2017）年1月11日から2月10日にかけて実施した。住宅部分については、建物基礎の掘削が浅く、埋蔵文化財に影響を与える恐れはないと判断し、地中に保存することとなった。

また、敷地北側の杉久保北四丁目1903番5においても個人専用住宅が建設されることとなり、平成29（2017）年1月6日付けで事業者から市教委に対して同地における埋蔵文化財の試掘調査に関する照会があった。市教委は計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地海老名市No.10遺跡（杉久保遺跡）に該当し、また当該地は既に試掘調査により、埋蔵文化財が存在することが確認されていることから、住宅の深基礎部分と住宅建設に伴って行われる駐車場切土部分について、「神奈川県内における開発事業等に伴う埋蔵文化財の取扱基準 別表1(1)」に該当し、本発掘調査を要する旨回答した。平成29（2017）年1月13日、事業者より文化財保護法第93条に基づく土木工事の届出がされ、同年1月20日付けで神奈川県教育委員会より事業者の本発掘調査についての通知がなされたことから、文化財保護法第99条に基づき市教委が発掘調査を行うこととした。

発掘調査はまず、計画建物の深基礎掘削範囲を行うこととし、平成29（2017）年2月6日から2月10日にかけて実施した。調査深度は建物基礎の掘削にあわせ、埋蔵文化財に影響を

与える、現状地盤から深さ1.2mまでとし、深基礎部分以外の基礎掘削は埋蔵文化財に影響を与える恐れはないと判断し、地中に保存することとした。その後、駐車場切土部分については同年4月14日から5月29日にかけて調査を実施した。

第1表 発掘調査に係る調整及び届出等の文書

文書種別・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
1 埋蔵文化財所在有無の確認					
埋蔵文化財試掘調査に関する照会		平成28年3月29日	事業者	海老名市教育委員会教育長	
同回答	海教総収第588号	平成28年3月31日	海老名市教育委員会教育長	事業者	
2 試掘調査					
試掘調査の依頼		平成28年3月29日	事業者	海老名市教育委員会教育長	
調査結果に基づく回答	海教総発第11号	平成28年5月10日	海老名市教育委員会教育長	事業者	
3 出土品の手引き(試掘調査)					
埋蔵物発見届		平成28年5月9日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成28年5月9日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第52014号	平成28年5月25日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	海老名市教育委員会を經由
出土文化財の譲与について(申出)	文遺第784号	平成29年3月3日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第629号	平成29年3月15日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(通知)	文遺第75号	平成29年4月26日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
4 文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出(第7次調査)					
届出		平成28年12月12日	事業者	神奈川県教育委員会教育長	
通知	文遺第61083号	平成28年12月22日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
5 出土品の手続き(第7次調査)					
埋蔵物発見届		平成29年2月22日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成29年2月22日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第51034号	平成29年2月28日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	海老名市教育委員会を經由
6 文化財保護法第93条に基づく埋蔵文化財発掘の届出(第8次調査)					
届出		平成29年1月13日	事業者	神奈川県教育委員会教育長	
通知	文遺第61093号	平成29年1月20日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
7 出土品の手続き(第8次調査①)					
埋蔵物発見届		平成29年2月22日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成28年2月22日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第51035号	平成29年2月28日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
出土文化財の譲与について(申出)	文遺第480号	平成29年12月12日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	7次と同通知
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第514号	平成29年12月21日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	7次と同通知
出土文化財の譲与について(通知)	文遺第527号	平成30年1月19日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	7次と同通知
8 出土品の手続き(第8次調査②)					
埋蔵物発見届		平成29年6月1日	海老名市教育委員会教育長	海老名警察署長	
出土文化財保管証		平成29年6月1日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第51011号	平成29年6月27日	神奈川県教育委員会教育長	事業者	
出土文化財の譲与について(申出)	文遺第666号	平成30年3月2日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(回答)	海教総収第617号	平成30年3月8日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財の譲与について(通知)	文遺第712号	平成30年3月22日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	

## 第2節 調査等体制

### 【発掘調査】（平成28・29年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康  
教育部長 岡田尚子  
教育部次長 金指太一郎  
教育総務課長 吉川浩  
文化財係 係長 押方みはる  
担当 主査 今野まりこ  
主任主事 向原崇英  
臨時職員 市川由希子

### 【出土品整理・報告書作成】

（平成30～令和3年度）

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康  
教育部長 岡田尚子（～平成31年3月末）  
伊藤 修（平成31年4月～）  
教育部次長 金指太一郎（～平成31年3月末）  
萩原明美（平成31年4月～、  
令和3年1月～教育部専任参事）  
澤田英之（令和3年1月～）  
教育総務課長 中込紀美子  
文化財係 係長・文化財担当課長 押方みはる  
担当 主査・副主幹 今野まりこ  
（～令和3年3月末）  
主事補 和田山千暁  
（令和2年10月～）  
臨時職員・会計年度任用職員  
市川由希子、園部理恵

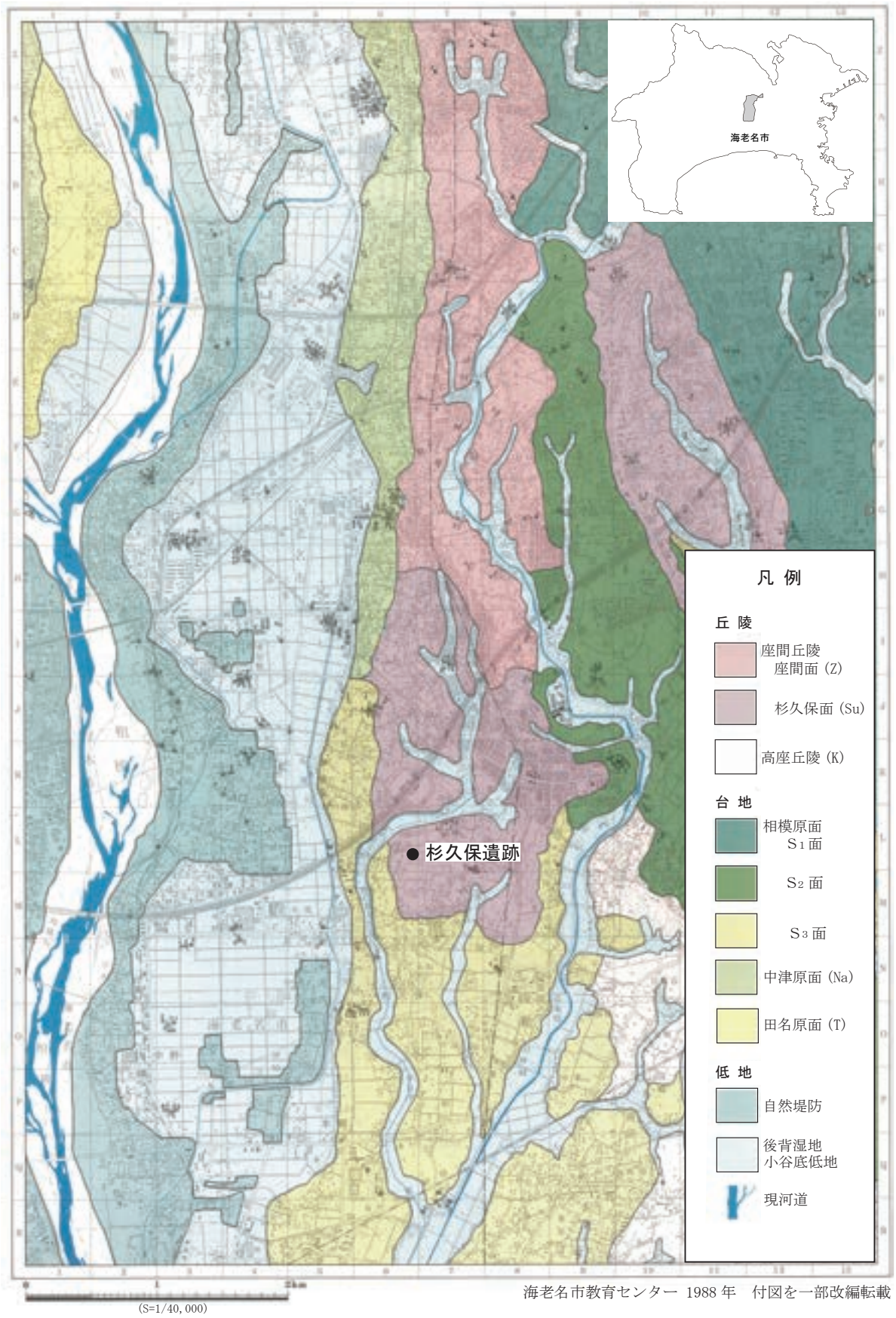
## 第2章 遺跡概観

### 第1節 地理的環境（第1、2図）

神奈川県ほぼ中央に位置する海老名市は、相模川の左岸に存在する。市域の地形は大きく分けると、西側は相模川の浸食、堆積によって形成された沖積低地、東側は相模野台地、座間丘陵から成り立っている。杉久保遺跡は、海老名市の南東にあたり、相模鉄道、小田急小田原線海老名駅からは南南東約3km、東名高速道路海老名サービスエリア（下り線）から300mほど南にある。地形的には座間丘陵杉久保面の南端に位置するが、東方を流れる目久尻川の支流である釜坂川により、丘陵北側は大きく開析され、杉久保遺跡中心付近を頂点とした独立的な台地状を成している。丘陵頂部は平坦で、標高52mを頂点とし、四方に緩やかに傾斜する。第7次、8次調査地点は丘陵の西側にあたり、標高は47～46mを測り、西に向け緩やかに傾斜している。



第 1 図 調査地点位置図



第2図 周辺地形分類図及び杉久保遺跡位置図

## 第2節 歴史的環境

### 1. 周辺の遺跡（第3図）

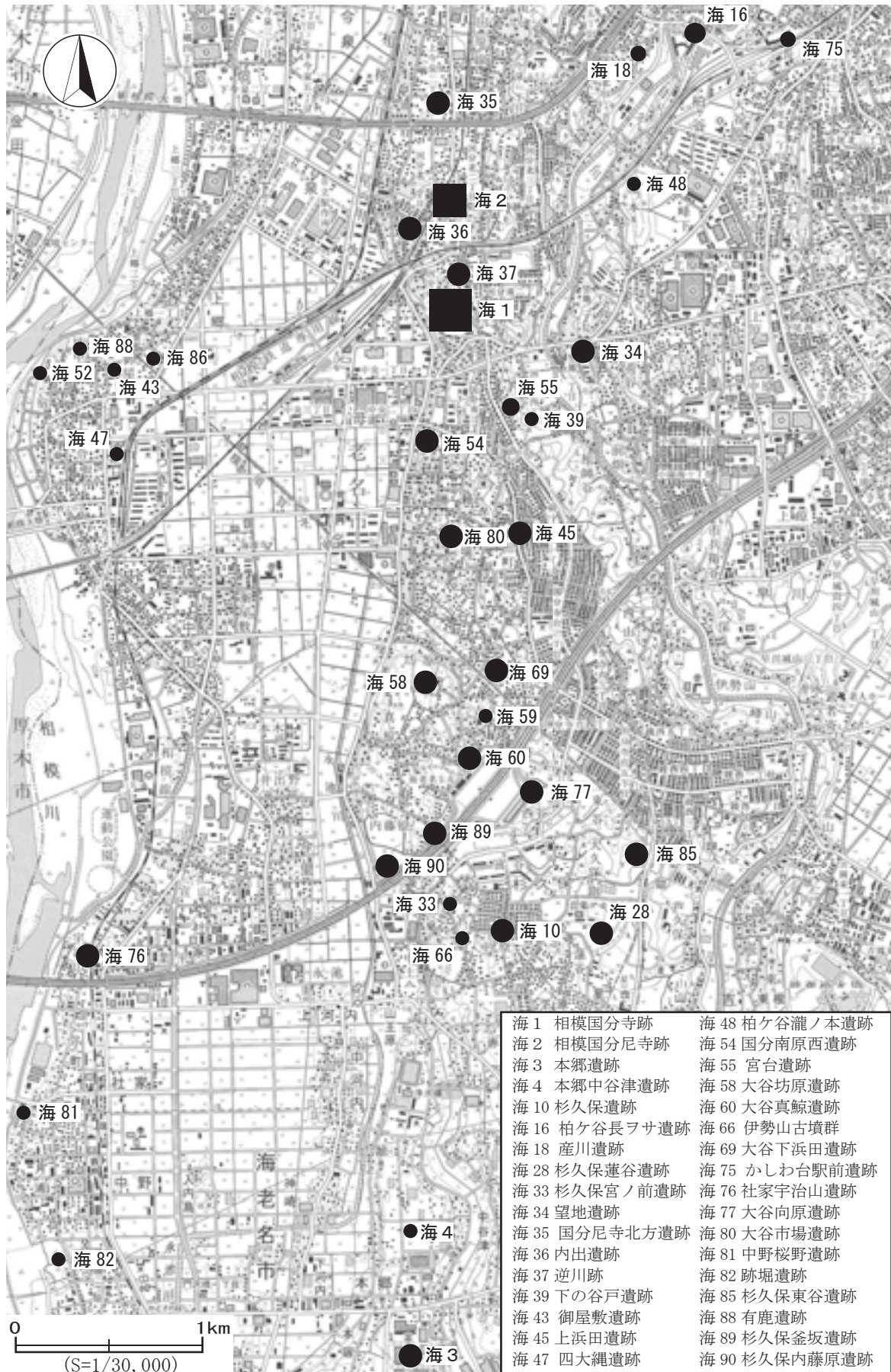
市域には旧石器時代から近世に至るまで各時代の遺跡が台地、丘陵、相模川河岸の自然堤防上を中心に多く確認されている。ここでは本遺跡の調査歴と、主な時代である縄文時代、並びに中・近世の遺跡について概観する。

市内の縄文時代の遺跡は、台地上に位置しており、早期から中期の遺跡が多く分布している。分布は大きく分けて3つに区分することができ、一つは北部の上今泉、産川台地区で、この地区は目久尻川上流部で三本の谷が合流する地形的変化に富んだ地点である。谷の合流地点に臨んだ台地の縁に柏ヶ谷長ヲサ遺跡（海16）、産川遺跡（海18）などを中心に遺跡が集中している。そのうち、柏ヶ谷長ヲサ遺跡では、23基の集石遺構と、小竪穴遺構8例および黒曜石群が検出されている。焼礫集積遺構は被熱を受けた破碎礫で構築され、東西約200mの台地縁辺に弧状に散在分布している。小竪穴のうち2基は落とし穴状である。遺物としては滑石製腕輪状装飾品1組、滑石製垂飾り1点、早期から中期の土器片、石器が出土している。産川遺跡は、県央地域では数少ない縄文後期から晩期の遺跡である。遺構は竪穴建物跡2軒が重複して検出されたのみではあるが、遺物としては堀之内1・2式、加曾利B1・B2・B3、曾屋式、安行1・2・3a～3d式にいたるほぼ連続した型式の土器片が出土した。東北、東関東、東海等の他地域系の土器も出土している。滑車型耳飾、石鏃等の石器、黒曜石なども出土している。上今泉中原遺跡（海21）では、中期の竪穴住居跡11軒、敷石住居跡等が検出され、中期の土器片、石器、礫が出土している。また、かしわ台駅前遺跡（海75）では、竪穴住居跡1軒、ピット9基、落とし穴状土坑50基を含む土坑70基が検出された。遺物としては、前期から中期の土器片、石器が出土している。

二つ目は、中央部の大谷から杉久保にかけての一帯で、釜坂川の谷が三本に分岐する地点であり、地形的に上今泉、産川台地区と共通している。大谷向原遺跡（海77）、杉久保東谷遺跡（海85）を中心に遺跡がまとまっている。大谷向原遺跡では、落とし穴状土坑5基を含む土坑10基、焼礫で構成された集石1基が検出された。遺物としては撚糸文土器群の夏島式、稻荷台式を主体とする土器片と、石鏃等の石器が出土した。杉久保東谷遺跡では、集石2基と落とし穴状土坑31基を含む土坑121基が検出された。集石遺構の覆土からは焼土、炭化物の検出はなく、また土坑壁、底面の被熱は見られなかったものの、集積された礫はすべて被熱した状態であった。遺物としては早期・中期の土器片、尖頭器等の石器、礫などが出土しているが、遺構からの出土は被熱礫のみでは包含層からの出土である。また、杉久保蓮谷遺跡（海28）は、落とし穴状土坑12基を含む土坑42基、炉穴7基が検出されている。遺物としては土器片、石器、焼礫と少量の黒曜石碎片が出土している。土器片はほぼ早期末の条痕文土器群のなかでも前半期のものにほぼ限られる。

三つ目は、前述の二地区の中間地点である国分南～望地、浜田町周辺である。ここは前二地点と違って支谷の合流点ではなく、釜坂川の谷の最奥部と目久尻川の谷が近接している程





第3図 周辺の主要な遺跡

度ではあるが、望地遺跡（海34）、上浜田遺跡（海45）などの遺跡がまとまっている。望地遺跡では、小竪穴16基、竪穴住居跡4軒、墓坑1基が検出された。遺物としては土器片、石器、黒曜石剥片等が出土した。上浜田遺跡は、土坑、炉穴が検出された。遺物としては、Ⅵ区の土坑3基から、それぞれ滑石製球状耳飾が対になって土坑の西端から出土した。また早期～後期にわたる土器片や石器も出土している。

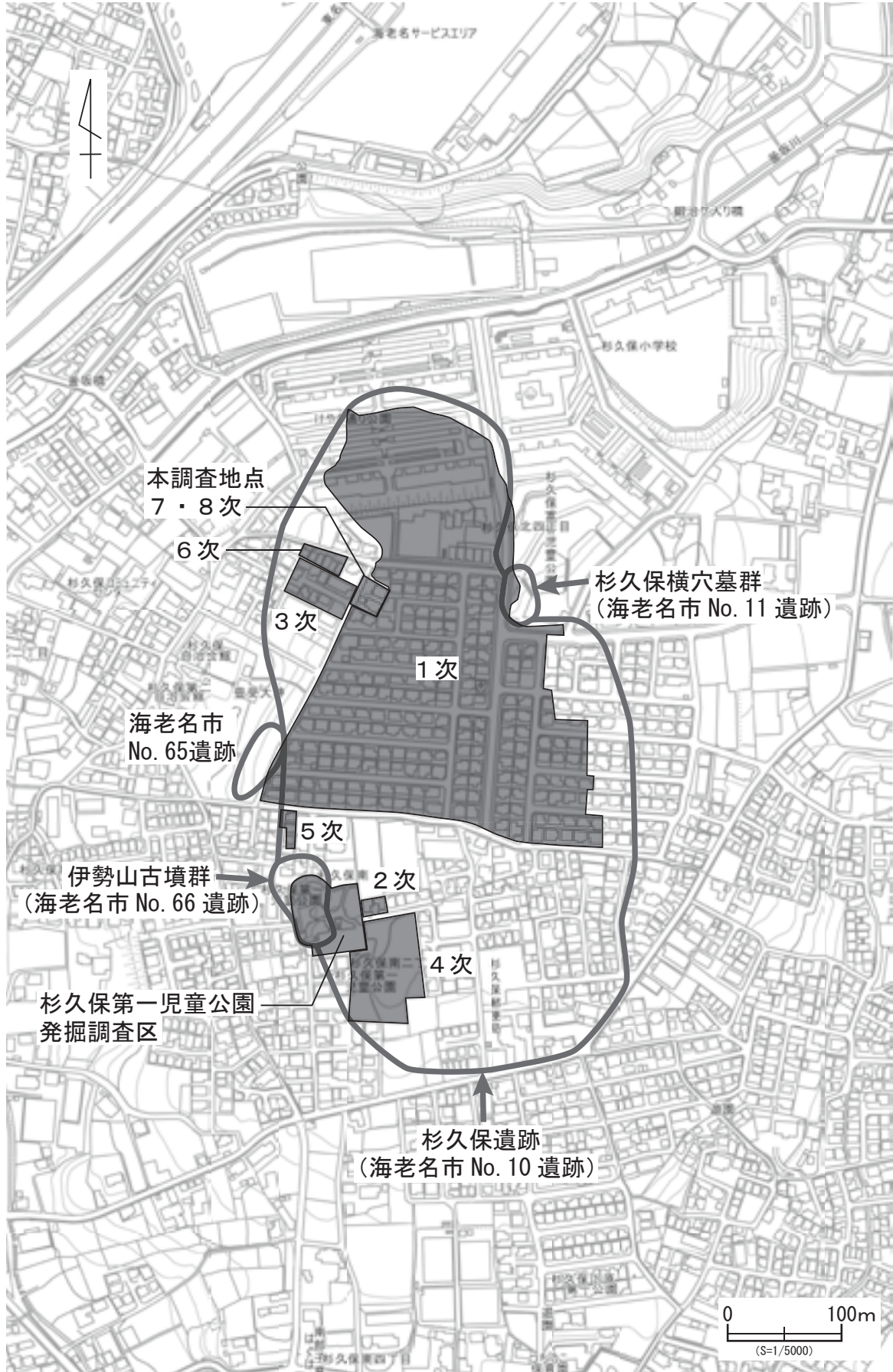
中世の遺跡については、低地から台地、丘陵上と市内全域に及ぶ。著名なものとしては神奈川県指定史跡「上浜田中世建築遺構群」（上浜田遺跡）が挙げられる。丘陵東側の斜面を二段に造成、庇付掘立柱建物跡5基、井戸跡1基などが確認された。遺物としては瀬戸や常滑の瓶子、壺、舶載品の青磁や青白磁なども出土しており、鎌倉時代～室町時代の武士の屋敷とみられている。同様な屋敷跡は中野桜野遺跡（海81）、社家宇治山遺跡（海76）でも確認されている。中野桜野遺跡では、14世紀前半以降の掘立柱建物跡8棟、竪穴状遺構9条、溝状遺構22条、井戸跡17基などが確認された。中世前期に遡る陶磁器、金属製品、木製品が比較的豊富に出土しており、青磁や、白磁などの舶載磁器、嘉祐通寶なども出土した。社家宇治山遺跡では中世から近世の掘立柱建物跡56棟、竪穴状遺構39条、道状遺構4条、溝状遺構238条、井戸149基などが発見されている。溝状遺構からは、13～14世紀代の舶載磁器、13世紀後半から14世紀初頭と15世紀後半～17世紀初頭にかけての瀬戸緑釉皿、常滑片口碗などが発見されている。本郷遺跡（海3）でも小規模ながら掘立柱建物跡4基、井戸状遺構4基、土坑墓2基などが発見されている。

本遺跡にも近い杉久保蓮谷遺跡（海28）では、井戸跡1基、道状遺構1条、段切状遺構2か所、畝状遺構1箇所、溝状遺構12条、集石1基、地下室3基、土坑5基、ピット11基等が検出された。遺物としては、鉄製品、磁器、陶器、かわらけなどが出土している。杉久保内藤原遺跡（海90）では、溝状遺構1条、道状遺構3条、溝状土坑3基、土坑65基、ピット31基が検出された。遺物としては青磁碗片が1点確認されたのみである。杉久保釜坂遺跡（海89）では、溝状遺構4条、道状遺構3条、地業面1か所、畝状遺構4基、土坑52基、ピット34基が検出された。遺物としては銭貨が2点確認され、2号道状遺構から1点（腐食が激しく判別不明）、1号地業面から1点（寛永通寶）となっている。

生産遺跡としては河原口の四大繩遺跡（海47）が挙げられる。四大繩遺跡は弥生時代中期まで遡る水田耕作が示唆されるものの、水田跡で区画を伴うのは中世になってからである。水田跡や畦畔跡から、瀬戸・常滑・渥美などの国産陶磁器とともに、舶載陶器もわずかに出土している。

## 2. 杉久保遺跡調査歴（第4図、第2表）

杉久保遺跡では、これまで第1～6次調査と伊勢山古墳群・杉久保遺跡（杉久保第一児童公園発掘調査）調査が行われている。丘陵上平坦部、斜面及び縁辺部に縄文時代中期から後期を中心とする継続型の大集落跡が発見されている。第1次調査では、縄文時代中期住居跡246軒（勝坂式期52軒、加曾利E式期194軒）、諸磯b式土器片を伴った縄文時代前期住居跡1軒、



第4図 杉久保遺跡調査履歴図

早期炉穴、落し穴等16基、後期称名寺式期3軒、堀之内式期44軒が、第2次調査では、縄文時代中期住居跡6軒（勝坂式期1軒、加曽利E式期5軒）が検出されている。第1次調査で確認された縄文時代中期の集落跡は南側に展開しており、第2次調査の様相から、両調査区は同一の集落を構成するものと考えられる。第3次調査では東側に縄文時代住居跡1軒、中世溝状遺構1条が、また伊勢山古墳群・杉久保遺跡（杉久保第一児童公園発掘調査）では円墳2基の周溝を検出したほか、縄文時代住居跡2軒が検出されている。第4次調査では時代不明のピット4基が検出されたのみであるが、第5次調査では、縄文時代中期後半の竪穴住居跡7軒と近世の土坑8基が検出され、第6次調査では縄文時代のピットと中・近世の畠跡、土坑4基が検出された。

第2表 杉久保遺跡調査歴一覧

調査 回数	調査 年度	調査地番	目的	調査機関	内容	遺構等	主な時代	文献
1次	S55	海老名市杉久保字富谷1705-1他	土地区画整理 事業	日本窯業史研究所	範囲確認	〔近世〕 溝状遺構 〔中世〕 溝、土坑 〔古墳〕 横穴墓 〔縄文〕 竪穴住居跡、 土坑、集石、ピット	縄文・古墳、中世	1～3
	発掘調査							
2次	S63	海老名市杉久保字中原1869-2・3、 1870-1、1878	宅地造成	海老名市杉久保中原遺跡調査団	発掘調査	〔縄文〕 竪穴住居跡	縄文	4
3次	H 4	海老名市杉久保1842-2	宅地造成・ 共同住宅建設	海老名市No10遺跡調査団 北川吉明	確認調査	〔中世〕 溝 〔縄文〕 竪穴住居跡	縄文、中世	5
—	H 9	海老名市杉久保1865-1・7、1869-1	公園造成	海老名市遺跡調査会	範囲確認	〔古墳〕 古墳周溝、ピット 〔縄文〕 竪穴住居跡	縄文、古墳	6
4次	H 9	海老名市杉久保1865-1・7、1869-1	公園造成	海老名市遺跡調査会	発掘調査	ピット	縄文	7
5次	H23	海老名市杉久保南二丁目1845-1、1848-4	宅地造成	有限会社鎌倉遺跡調査会	発掘調査	〔近世〕 土坑 〔縄文〕 竪穴住居跡	縄文、近世	8
6次	H26	海老名市杉久保北二丁目1842-1及び 1842-34の一部ほか1筆の一部	宅地造成	株式会社アーク・フィールドワーク システム	発掘調査	〔中・近世〕 畠跡、土坑 〔縄文〕 ピット	縄文、中・近世	9
7次	H28	海老名市杉久保北四丁目1903-2	個人専用住宅 建設	海老名市教育委員会	発掘調査	〔中・近世〕 溝状遺構、 土坑、性格不明遺構 〔縄文時代〕 住居跡、 ピット	縄文、中・近世	
8次	H28	海老名市杉久保北四丁目1903-5	個人専用住宅 建設	海老名市教育委員会	発掘調査	〔中・近世〕 溝状遺構、 土坑、ピット、 〔縄文時代〕 住居跡、 土坑、ピット	縄文、中・近世	

## 参考・引用文献

1. 河野一也ほか 1983「杉久保遺跡」『日本窯業史研究所年報』Ⅱ 日本窯業史研究所
2. 河野一也ほか 1984「杉久保遺跡」『年報』Ⅲ 日本窯業史研究所
3. 大川清 1992『杉久保遺跡Ⅰ 勝坂期』日本窯業史研究所報告第42冊 日本窯業史研究所
4. 香村紘一 1991『杉久保中原遺跡発掘調査報告書 杉久保中原遺跡』杉久保中原遺跡発掘調査団
5. 神奈川県教育委員会 1994『神奈川県埋蔵文化財調査報告』36
6. 海老名市遺跡調査会 1994「伊勢山古墳群・杉久保第一児童公園発掘調査概要」『えびなの歴史－海老名市史研究 第6号』海老名市史編集委員会編
7. 海老名市遺跡調査会 1997『杉久保遺跡発掘調査報告書』
8. 三ツ橋正夫ほか 2015『杉久保遺跡(No.10)第5次調査発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会
9. 高杉博章 2014『杉久保遺跡発掘調査報告書－第6次調査－』(株)アーク・フィールドワークシステム
10. 産川遺跡調査団 1994「海老名市産川遺跡発掘調査概報」『えびなの歴史－海老名市史研究 第6号』海老名市史編集委員会編
11. 海老名市 1998『海老名市史』1 資料編 原始・古代
12. 海老名市 1998『海老名市史』2 資料編 中世
13. 海老名市 2003『海老名市史』6 通史編 原始・古代・中世
14. 海老名市 No.47遺跡発掘調査団 1997『四大縄遺跡』
15. 海老名市 No.47遺跡発掘調査団 1998『四大縄遺跡』
16. 柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団 1997『柏ヶ谷長ヲサ遺跡－相模野台地における後期旧石器時代遺跡の調査－』
17. (財)かながわ考古学財団 2001『杉久保蓮谷遺跡 公共発生日処分場整備にともなう発掘調査』かながわ考古学財団調査報告110
18. (公財)かながわ考古学財団 2009『杉久保内藤原遺跡 杉久保内藤原横穴墓群 杉久保釜坂遺跡－第一東海自動車道(東京～小牧)海老名SA減速車線延伸事業に伴う発掘調査－』かながわ考古学財団調査報告235
19. (公財)かながわ考古学財団 2009『中野桜野遺跡』かながわ考古学財団調査報告231
20. (公財)かながわ考古学財団 2011『社家宇治山遺跡』かながわ考古学財団調査報告264
21. 杉久保蓮谷遺跡発掘調査団 1993『杉久保蓮谷遺跡－第1・2区の調査成果』
22. 玉川文化財研究所 2003『大谷市場遺跡発掘調査報告書』
23. 林原利明・小池 聡 1987『かしわ台駅前遺跡』
24. 海老名市教育センター 1988『海老名その大地の生い立ち』海老名市教育委員会

## 第3章 調査経過

### 第1節 調査区の設定と調査の方法

当該地は、昭和55(1980)年から昭和58(1983)年にかけて杉久保北部土地区画整理事業に伴い本発掘調査(第1次調査)が実施された区域に隣接しており、当初より縄文時代遺構の存在が予想された。

第7次・8次調査の原因となった個人専用住宅建設事業以前に計画された、宅地造成事業に伴う試掘調査では、約730㎡の事業区域に試掘坑4か所を設定し、全ての試掘坑から遺構又は遺構覆土、縄文土器の出土が確認され、当該地には当初予測されたとおり全面的に埋蔵文化財が密に存在していることが確認された(第5・6図)。

本発掘調査にあたっては、埋蔵文化財に直接影響を及ぼす範囲を調査区として設定することとし、第7次調査は敷地西側の駐車場設置のための切土部分、東西9.6×南北13.7m、第8次調査は同様に敷地西側の駐車場設置のための切土部分130㎡(第8次調査No.2調査区)及び住宅の深基礎部分1×9.3m(第8次調査No.1調査区)とした(第7図)。

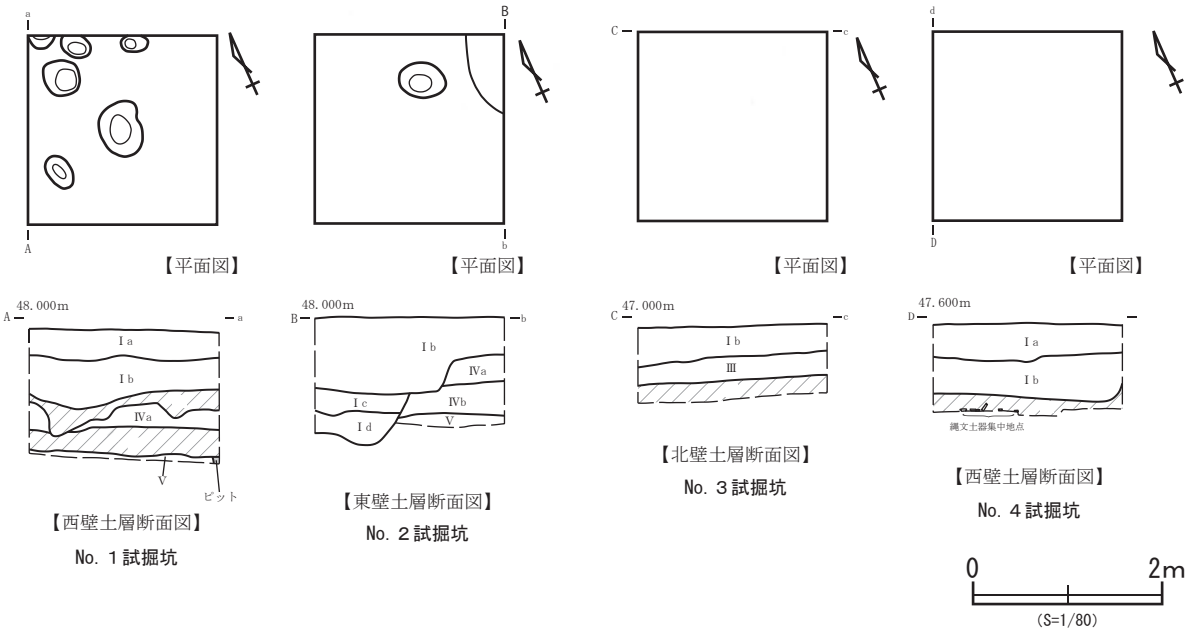
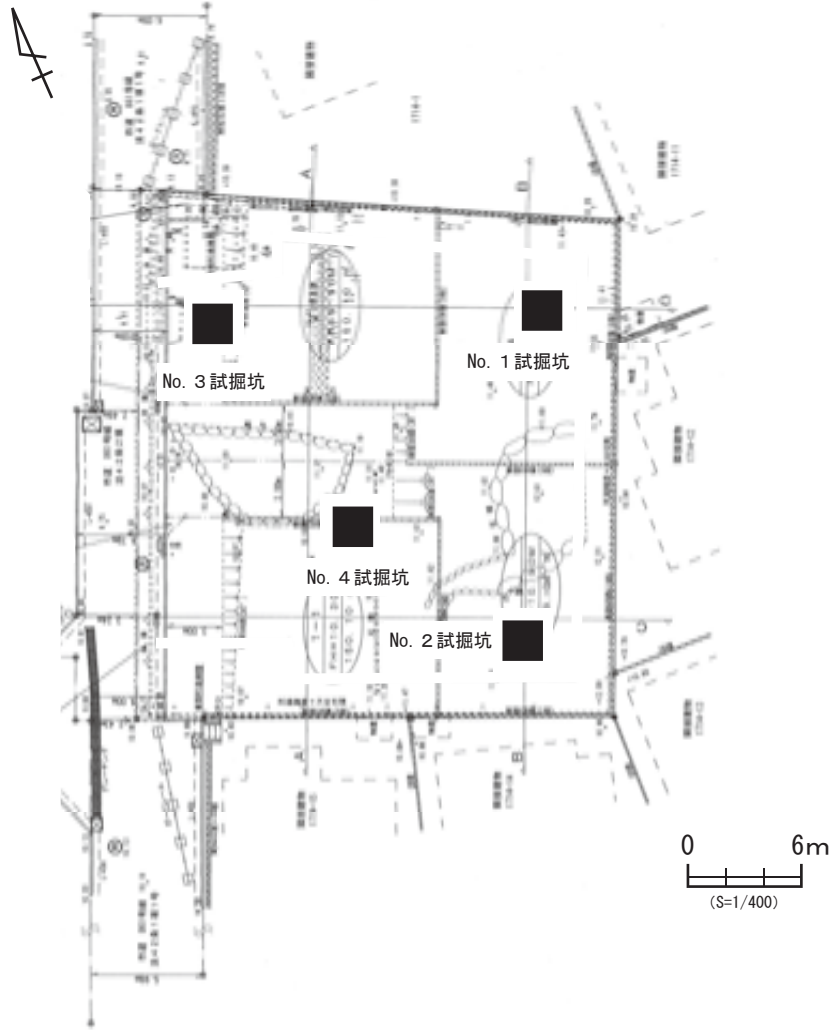
遺構番号は検出段階及び作図段階で付したが、新旧関係や本報告の図面整理段階で一部変更を行っている。遺物は遺物出土状況に応じ、遺構、層序ごとに1点ずつないし一括して取り上げた。記録図面作成は手実測と光波測距儀による3次元計測により作図を行った。


写真記録はデジタルカメラとフィルムカメラを併用し、遺構確認状況、遺物出土状況、土層堆積状況、完掘状況等を適宜撮影した。

### 第2節 調査経過

第7次調査は、平成29(2017)年1月11日から開始した。調査区は安全面を考慮し、南側既存擁壁から約1.0~1.5m、西側市道から約1mセットバックし設定した。作業は重機による表土掘削と併行し、人力による遺構確認作業を行った。表土除去を開始後、西側市道沿いに中世とみられる溝状遺構を確認、他にも近世とみられる土坑を確認し、覆土除去、記録作成を行った。その後1月23日から縄文時代遺物を包含する層を人力掘削により下げ、遺物の取り上げ、記録作成を行いながら縄文時代遺構の確認に努めた。遺構プランは黒色土(IV層)中では判別が難しく、概ね関東ローム漸移層で遺構確認を行い、覆土除去、記録作成、写真撮影を進め、2月10日に埋戻しを行い調査を終了した。最終的な調査面積は108㎡となった。

一方2月6日からは、8次調査のNo.1調査区1.0×8.3mの調査区を設定し、表土掘削、遺構確認を行った。No.1調査区では、基礎の影響を受ける深度1.2mまでの調査であり、埋甕を調査、遺構確認を行った。8次調査No.1調査区は西に1m拡張して調査を行った後、2月10日に埋め戻しを行い、7次調査とともに同日で一度調査を終了した。



 遺構覆土 (可能性も含む)

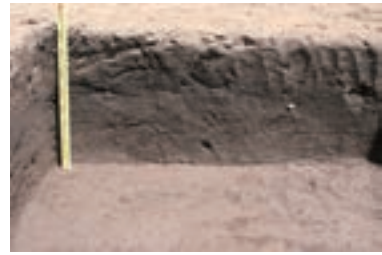
第5図 試掘調査状況図



No. 1 試掘坑 調査状況 (東から)



No. 2 試掘坑 調査状況 (東から)



No. 3 試掘坑 調査状況 (南から)

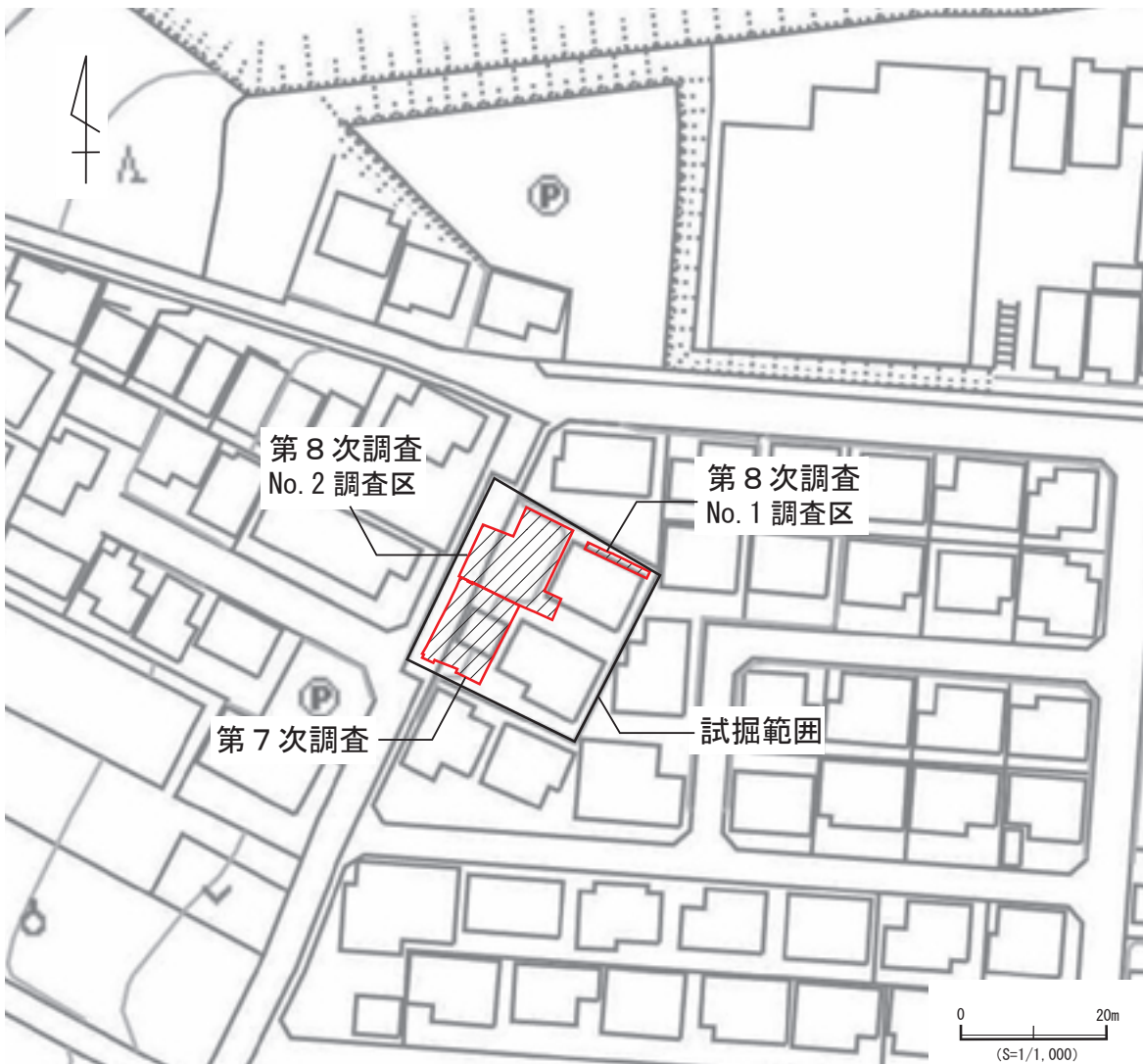


No. 4 試掘坑 調査状況 (東から)



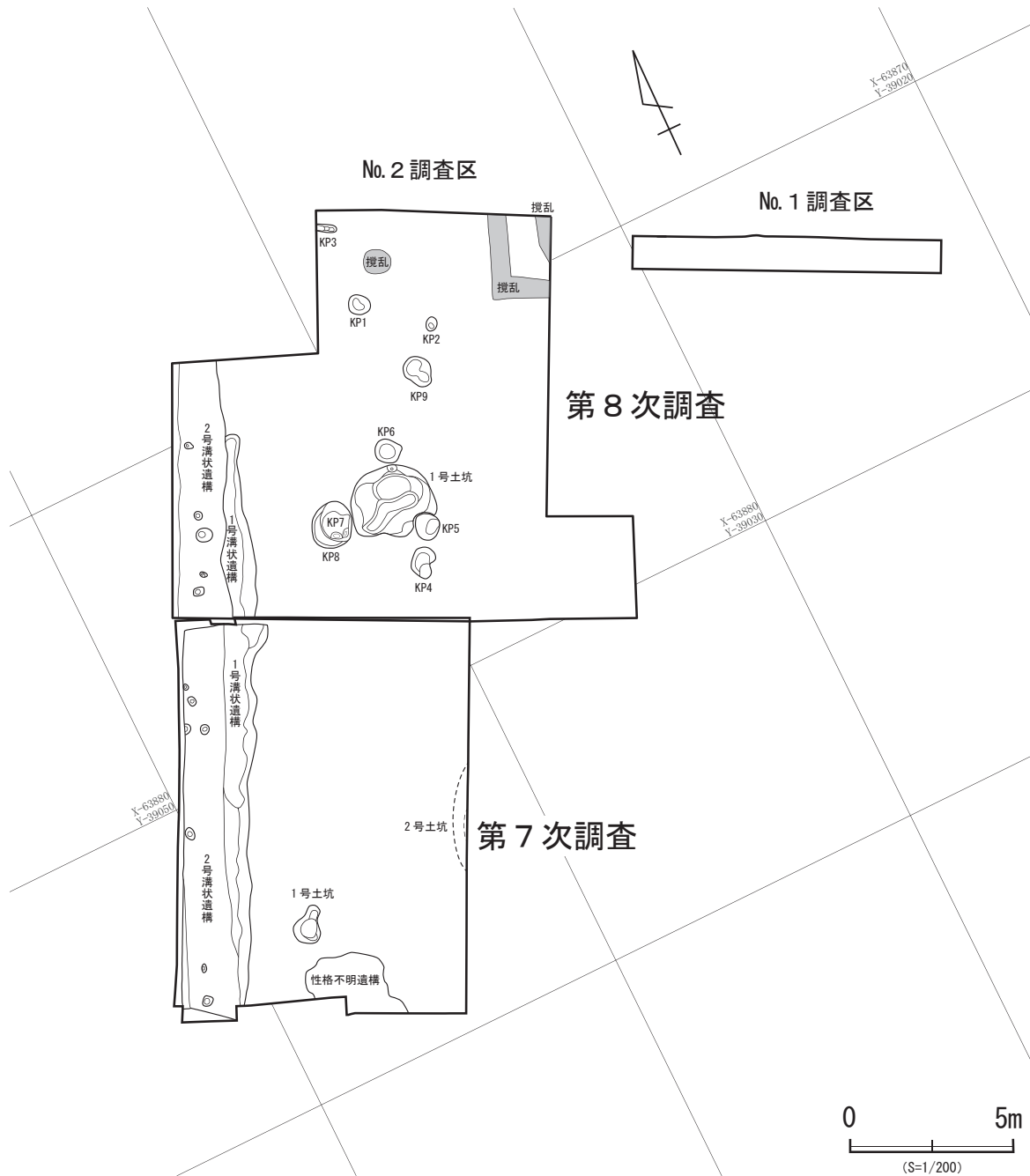
出土縄文土器の一部

第6図 試掘調査写真

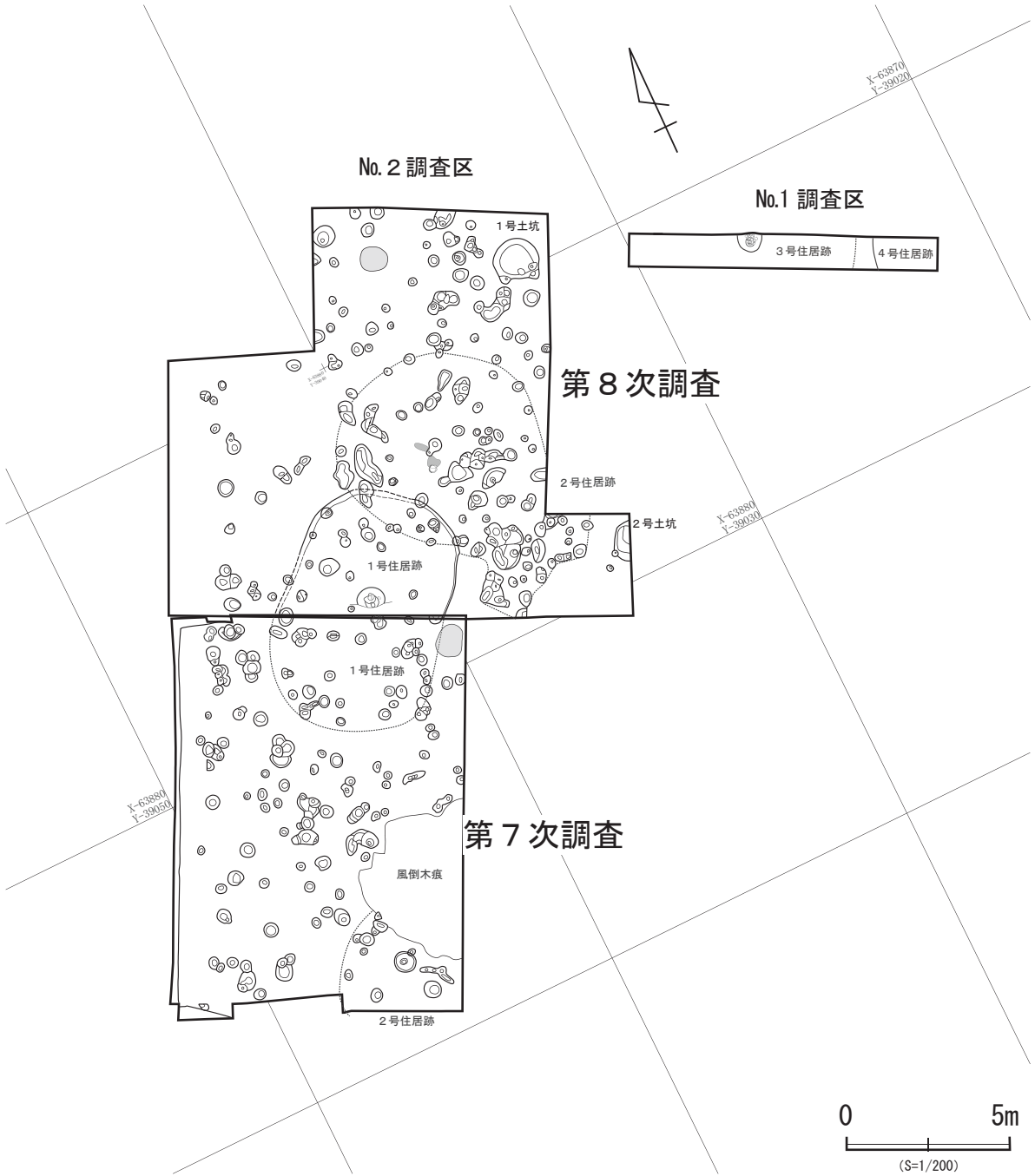


第7図 調査区設定図





第8図 第7・8次調査中・近世遺構全体図



第 9 図 第 7・8 次調査縄文時代遺構全体図

第8次調査No.2調査区は、市教委の予算及び事務の都合上、平成29年度に改めて実施することとなり、平成29（2017）年4月14日から開始した。No.2調査区は駐車場切土範囲を調査区としたが、北側既存擁壁や水道管、柵等がある部分約20㎡は除き、また西側市道から約1mセットバックし、設定した。作業は重機による表土掘削と併行し、人力による遺構確認作業を行った。第7次調査で確認した中世とみられる溝状遺構ほか中・近世遺構の調査を行い、その後縄文時代遺物を包含する層を人力掘削により下げ、遺物の取り上げ、記録作成を行いながら縄文時代遺構の確認に努めた。遺構プランは黒色土（Ⅳ層）中では判別が難しく、概ね関東ローム漸移層で遺構確認を行い、覆土除去、記録作成、写真撮影を進め、5月29日に調査を終了した（第8・9図）。

現地での発掘調査終了後、第7次調査は平成29（2017）年3月に概要報告書の作成、第8次調査は平成30（2018）年1月に概要報告書を作成した。第8次調査終了後、令和2（2020）年3月末まで断続的に遺物洗浄、注記、図面整理を行い、令和2年度に遺物実測、観察表作成、写真撮影等出土品整理作業委託を行い、令和3年度に図版作成、原稿執筆、報告書編集作業を行い、令和4（2022）年3月に発掘調査報告書を刊行した。

## 第4章 基本層序

造成土Ⅰa層及び旧表土（耕作土）Ⅰb層が50～100cm程あり、部分的に旧表土に宝永火山灰層が多く混入する層があり、Ⅰc層とした。以下中・近世のⅡ層、弥生～平安時代のⅢ層の堆積が残存するものの、Ⅱ層は第8次調査区ではほとんどみられず、第7次調査区ではⅢ層は薄く、ほとんど認められなかった。それ以下は富士黒色土層のⅣ層、ローム漸移層のⅤ層、ローム層が確認されている。当該地は丘陵の西縁辺部に位置し、土層の堆積状況からも東から西へ傾斜している状況が確認された。中世遺構はⅡ、Ⅲ層を確認面とし、縄文時代の遺構はⅣ層中からⅤ層を確認面として調査を行った（第10図）。

Ⅰa層 造成土

Ⅰb層 旧表土

Ⅰc層 旧表土に宝永火山灰を多く含む。

Ⅱ層 黒褐色土（7.5YR 3/2）赤褐色、黒色、黄褐色の小スコリアをごく少量含む。

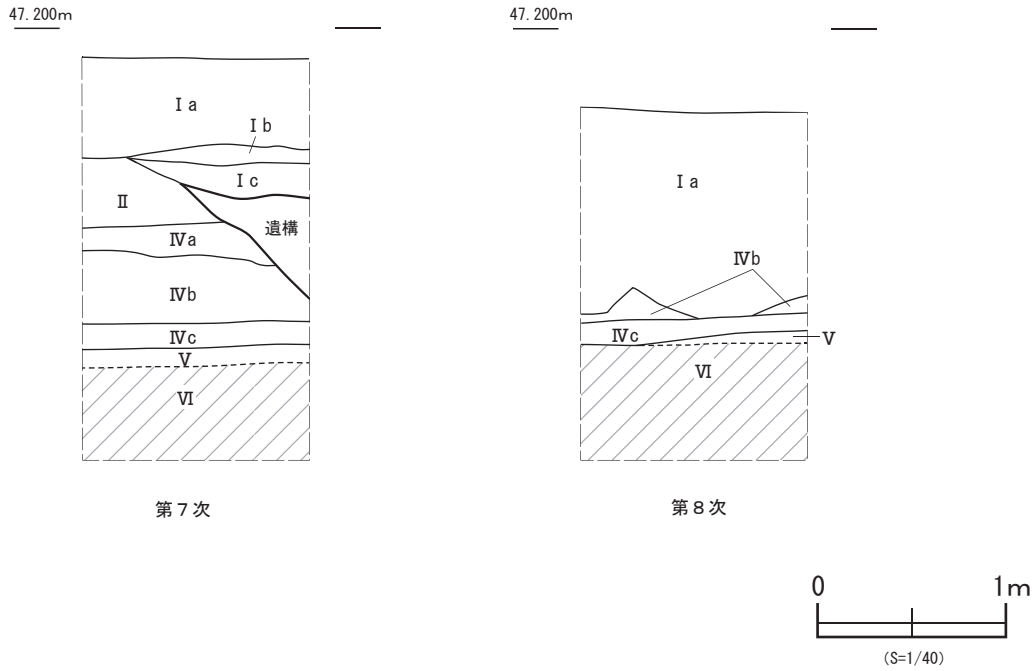
粘性やや弱い。

Ⅲa層 暗褐色土（7.5YR 3/3）赤褐色、黄褐色の中スコリアを15%含む。粘性やや弱い。

Ⅲb層 暗褐色土（7.5YR 3/3）赤褐色、黄褐色の中スコリアを10%含む。粘性やや弱い。

Ⅳa層 黒褐色土（7.5YR 3/1）赤褐色、黄褐色の中スコリアを5%含む。粘性しまりとも普通。Ⅳ層は富士黒色土層。

- IV b層 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 赤褐色、黄褐色の小スコリアを2%含む。しまりやや強い。
- IV c層 黒褐色土 (7.5YR 3/1) 赤褐色、黄褐色の極小スコリアを3%含む。しまり粘性ともやや強い。
- V層 褐色土 (7.5YR 4/4) ローム漸移層。粘性やや強い。
- VI層 褐色土 (7.5YR 4/4) ローム層。しまりやや強い。



第10図 基本層序

## 5章 発見された遺構と遺物

### 第1節 第7次調査

中・近世と縄文時代の遺構を確認した。中・近世の遺構としては、溝状遺構2条、土坑2基、性格不明遺構1基を検出した。縄文時代の遺構は南東壁際を中心に風倒木痕の影響により土層の乱れが見られたが、住居跡2軒、ピット54基を調査した。遺物は縄文土器、石器を主体とし、近世陶磁器もわずかに出土している。遺物の総量はコンテナ4箱で、縄文土器の総量は28,493g、石器4,652g、陶磁器40gであった。

#### 1. 中・近世

##### 1) 溝状遺構

###### 1号溝状遺構（第11、12図、写真図版3）

調査区西側において幅1～1.3m、深度約0.4mで南北方向に5.8m確認された。調査区の北側から中ほどまで確認されたが、南側までは延びてはいない。2号溝状遺構よりも新しく宝永火山灰層を含む覆土から近世の遺構と判断する。当該期の遺物は出土していない。

###### 2号溝状遺構（第11、12図、写真図版3）

調査区西側において、南北方向に約12m確認された。調査区内では、溝の中心から東側半分（幅1.8～2m、深度2.1m）のみの調査になり、西側半分は調査区外の現道路下面にあたる。溝底の幅は狭く、断面はV字形に近い、薬研堀状をなすものとみられ、上幅は約4mと推定される。遺構の壁面には直径10～40cmのピットが8基ほど認められたが、配置に規則性は認められない。覆土は黒褐色土で黒色・黄褐色、赤褐色のスコリアを含んでおり、中世の所産とみられる。

###### 遺物（第24図、第7表、写真図版13）

覆土中からは当該期の遺物は出土しておらず、縄文土器のみ出土している。土器は縄文時代中期から後期が混在するが、加曽利E式、堀之内式を主体とする。7は称名寺古段階の深鉢で、口縁部には沈線による弧状の文様。下部の文様は渦巻状になる可能性がある。10は堀之内2式の深鉢で、沈線による文様。沈線間に僅かに縄文が見られる。外面に黒色の付着物が少量見られる。13は眼鏡状の突起である。突起に僅かに刻みが見られる。

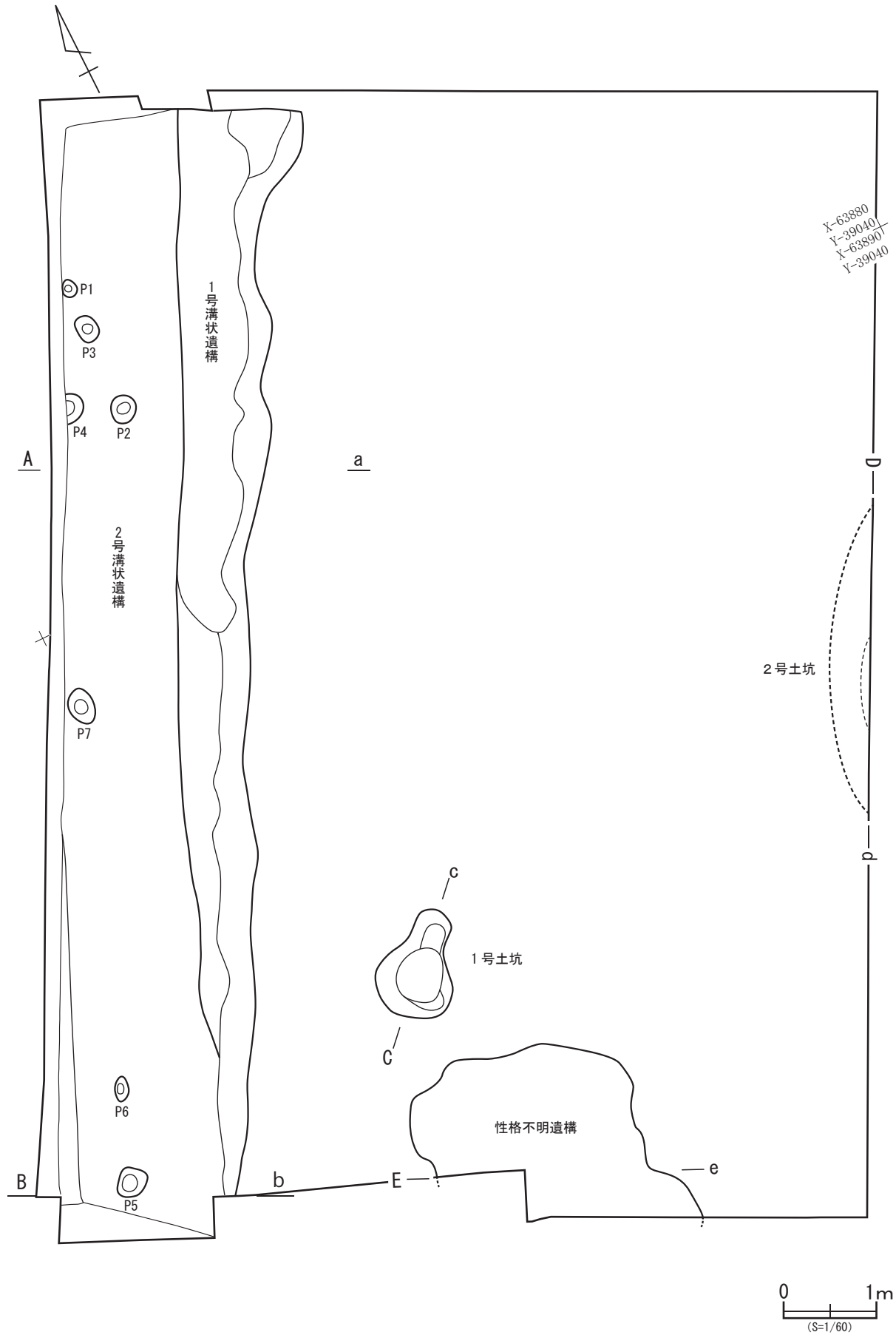
##### 2) 土坑

###### 1号土坑（第11、12図、写真図版4）

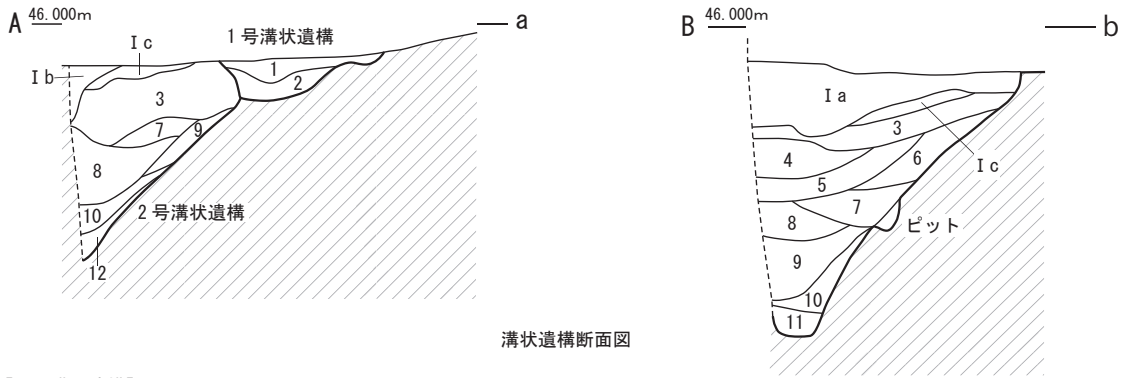
調査区中央よりやや南に位置する。覆土はしまり・粘性が弱い黒褐色土で、確認された状況から中世以降の遺構とみられる。

###### 2号土坑（第11、12図、写真図版4）

調査区東側壁面付近に位置する。土層断面での確認に留まり、8次調査区域の外に展開



第11図 第7次調査中・近世遺構平面図



溝状遺構断面図

【1号溝状遺構】

- 1層 黒褐色土 宝永火山灰を含む。小の黒色スコリアを5%、しまり弱く、粘性弱い。
- 2層 黒褐色土 小の黒色スコリアを3%含む。しまりやや弱く、粘性弱い。

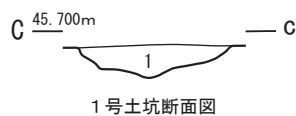
〔2号溝状遺構土層説明〕

- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。しまり普通、粘性普通。
- 4層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア1%、小の黒色スコリア1%、小の黄褐色スコリアを1%含む。しまり普通、粘性普通。
- 5層 暗褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 7層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、極小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 8層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 9層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 10層 極暗褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 11層 極暗褐色土 小の赤褐色スコリア1%、小の黒色スコリア1%、小の黄褐色スコリアを1%含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 12層 暗褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黒色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。しまり普通、粘性普通。

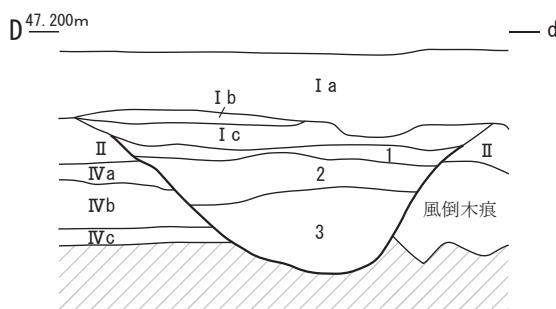
単位：cm

No.	長軸	深さ
P1	20	22
P2	30	35
P3	30	33
P4	32	12
P5	28	35
P6	26	20
P7	34	37

2号溝状遺構内ピット計測表

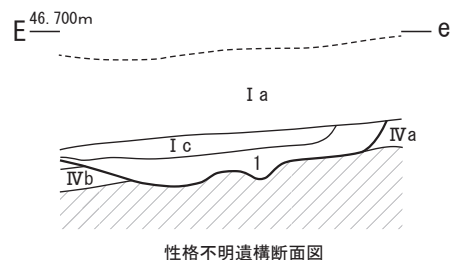


- 1層 黒色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黒色スコリア8%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまり、粘性弱い。



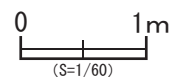
2号土坑断面図

- 1層 黒色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黒色スコリア8%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黒色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%を含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、小の黄褐色スコリア2%を含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。



性格不明遺構断面図

- 1層 黒色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黒色スコリア8%、中の黄褐色スコリアを8%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。底面に凸凹あり。



第12図 第7次調査中・近世遺構断面図

するものとみられる。規模は不明であるが、東方向に延びる溝状遺構の端部である可能性もある。覆土はしまり、粘性の弱い黒褐色土を主体とし、上層には宝永火山灰の堆積がみられた。覆土の状況から中世～近世前期の遺構とみられる。

### 3) 性格不明遺構 (第11、12図)

調査区南で確認された。覆土上部に宝永火山灰を含む土層が確認されている。深さは約0.2mで、平面及び断面形態が不整形で、底面に凹凸がある。耕作痕の可能性もあるが、性格付けは不可能であった。中～近世の所産とみられる。

## 2. 縄文時代

### 1) 住居跡

平面形態を明瞭には確認できなかったものの、遺物の出土状況及び土層の炭化物含有量等から遺構を確認した。出土した遺物の時期は中期中葉から後期で、勝坂式、加曾利E式、称名寺式、堀之内式、加曾利B1式に分類される。

#### 1号住居跡 (第13、14図、写真図版4～6)

調査区内の北側に所在し、住居跡の約半分程度が認められた。覆土は基本土層IV a、IV b層と極めて類似し、少量の炭化物を含む。北壁の土層堆積状況から、約20cmの掘り込みを持つ住居跡とみられる。炉址、壁溝は認められず、明瞭な貼床も認められなかった。調査区北壁沿いに、堀之内2式深鉢口縁から胴部(第19図27)を中心に土器片が集中して出土した。覆土上層から中層に縄文土器を多く包含する。覆土除去後、多数のピットが確認された。ピットは連結しているものもあり、主柱穴状のものは認められず、本住居跡に伴うものであるか判断できなかった。第7次調査では住居跡の形状は不明瞭ではあるが、北東-南西に長軸を持つ平面楕円形を呈するものとみられる。第7次調査で確認した規模は東西約5m、南北約3.5mである。

出土遺物から縄文時代後期堀之内式期と判断される。第8次調査No.2調査区で確認された1号住居跡と同一の遺構である可能性が非常に高い。

#### 遺物 (第18～22図、第5～7・10表、写真図版9～12)

出土した遺物は土器と石器である。土器は堀之内2式が全体量の58%を占めている。器形としては図化した101点のうち深鉢がほとんどを占め、注口土器が2点、器形不明なのが1点である。

2は勝坂式Ⅲ期の深鉢で、先端に眼鏡状突起が残り、突起から隆帯垂下し、隆線上に稜杉状刺突文が見られる。18は堀之内1式の深鉢で、縦位沈線を施す。27～81は堀之内2式である。27は、口縁に沿う1条の隆帯が見られる。隆帯上押圧施文。8字状貼付文が5単位残存しており、欠損が見られるが元は6単位と思われる。対面に1単位ずつ配置されている。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様がある。8字状貼付文の下は沈線が弧状に歪む。28は、内外面に文様のある突起が1単位残存。沈線による四角の文



様、上面渦巻文、内面に3つの中央に円形刺突文のある貼付文。口縁部に沿う1条の隆帯。隆帯上に浅い押圧施文。突起下に8字状貼付文があり、対面、90度右側にもみられる。胴部文様は沈線による対弧文。45～47は口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。2条1組の沈線間に縄文施文。53～59は複数の沈線による重なる菱形の文様。菱形文の周囲の沈線間に縄文施文。沈線による三角の区画内に縄文施文。80は堀之内Ⅱ期の注口土器で、沈線による三角の文様。一部縄文が見られる。95は加曾利B式の注口土器で、橋状把手。沈線による文様がある。石器1点はホルンフェンス製の打製石斧である。

## 2号住居跡（第13、14図、写真図版7）

調査区の南東角付近にあり、風倒木痕により遺構が大きく壊されている。東西約3.7m、南北約3mの範囲で住居跡が確認された。掘り込み、壁溝、床面は明瞭ではないが、埋甕1基が認められた。ピットは、深さのあるJP30、JP34が支柱穴の可能性はある。

埋甕は、胴部下半を欠いた勝坂式の深鉢型土器が正位の状態で見られる。掘方は径65cm深さ20cmを測る。覆土には焼土が含まれている。

遺構は調査区外に展開しているものとみられ、直径4～5m程の円形の竪穴住居跡の一部にあたるものとみられる。出土遺物から縄文時代中期勝坂期の所産と判断される。

### 遺物（第23・24図、第7・10表、写真図版12・13）

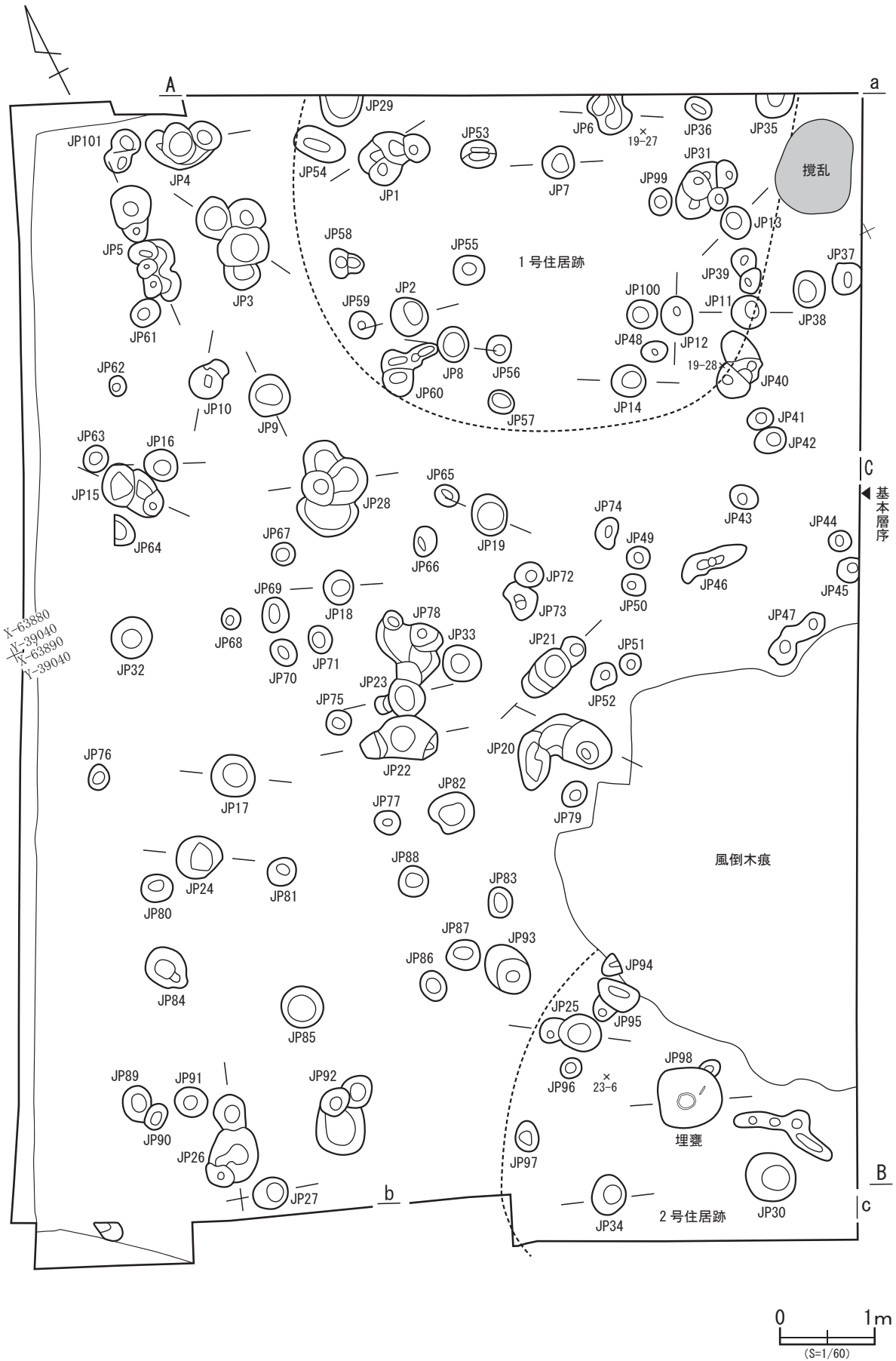
出土した遺物は土器と石器である。土器は勝坂2式が主体である。4～20は深鉢である。4は埋甕で、口縁に沿う幅広角押文、波状沈線がみられる。頸部には楕円区画が3単位残存し、欠損した区画が2単位ある。楕円区画の間からはキザミ施文の隆帯が1条ずつ垂下し、3条見られる。隆帯には幅広角押文と波状沈線が沿い、楕円区画の中央には横位の波状沈線が見られる。5は、平行沈線と隆帯による区画するパネル文。区画内は沈線を充填する区画、区画に沿ってキザミと爪形文が沿う区画が見られる。一部隆帯上に連続爪形文施文。6は、横位の沈線で区画し、区画内は斜位・縦位の沈線を充填。内側底面にはヘラ状の工具を刺したような痕跡が多数みられる。10は隆帯による区画。隆帯に沿う幅広角状の連続刺突。隆帯内部に波状沈線施文。胎土に雲母を多く含む。土製円盤の可能性もある。22は縄文中期の小形土器である。底部に網代痕はない。

石器はJP34から打製石斧（第24図1）1点が出土しているが、遺構外出土遺物として報告した石錘（第28図69）、磨石（第29図71、72）も出土位置から本住居跡に伴うものである可能性がある。

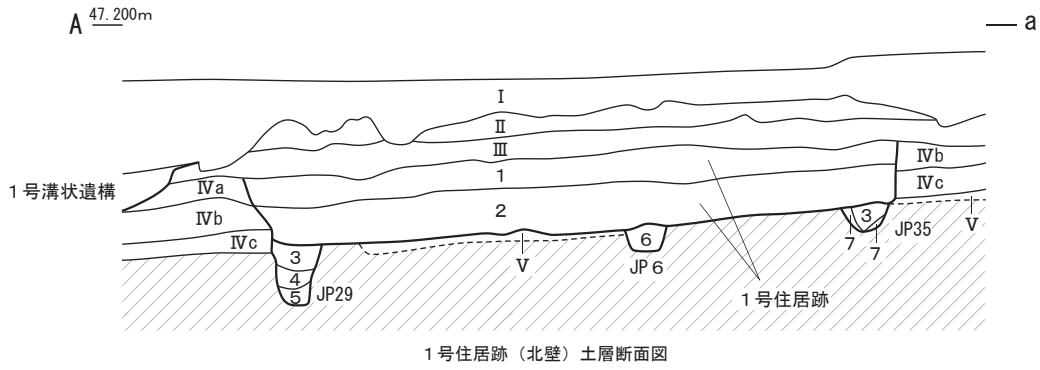
## 2) ピット（第16、17図、第3表、写真図版8）

101基のピットが確認された。規模は軸長14～130cm、深さは9～82cmであり、不整形なものもある。覆土は黒褐色土を主体とするものが多く、炭化物を含むものもある。配置に規則性は見いだせない。一部は住居跡に伴うものであった可能性がある。

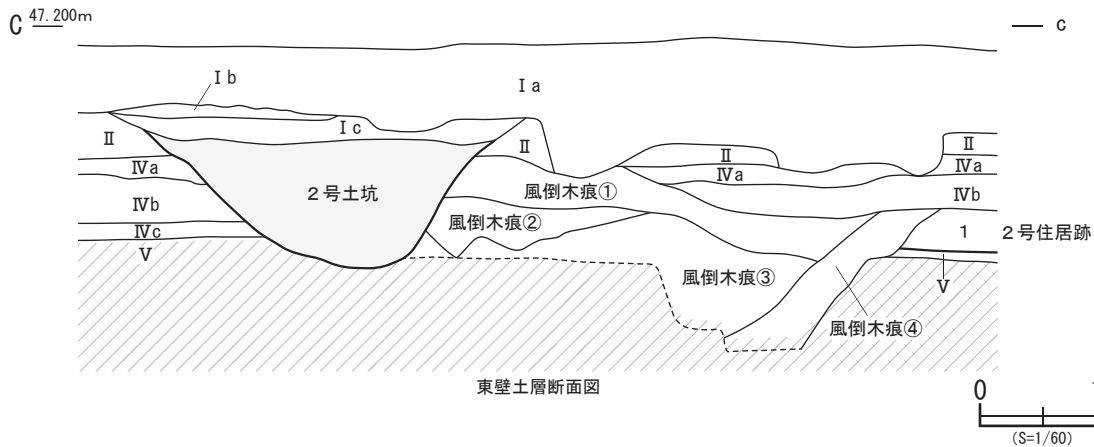
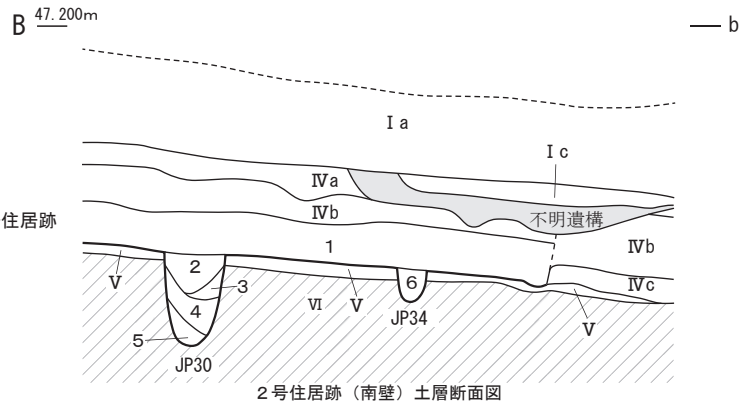
出土遺物 縄文土器の小片を伴うピットもあるが、大半は遺物を伴っていない。



第13図 第7次調査縄文時代遺構平面・遺物出土状況図



- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリアを2%含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまり普通、粘性普通。
- 4層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア1%、極小の黄褐色スコリアを1%含む。しまり普通、粘性普通。
- 5層 褐色土 ローム粒を含む。しまり普通、粘性やや強い。
- 6層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。
- 7層 褐色土 ローム粒を含む。しまり普通、粘性普通。



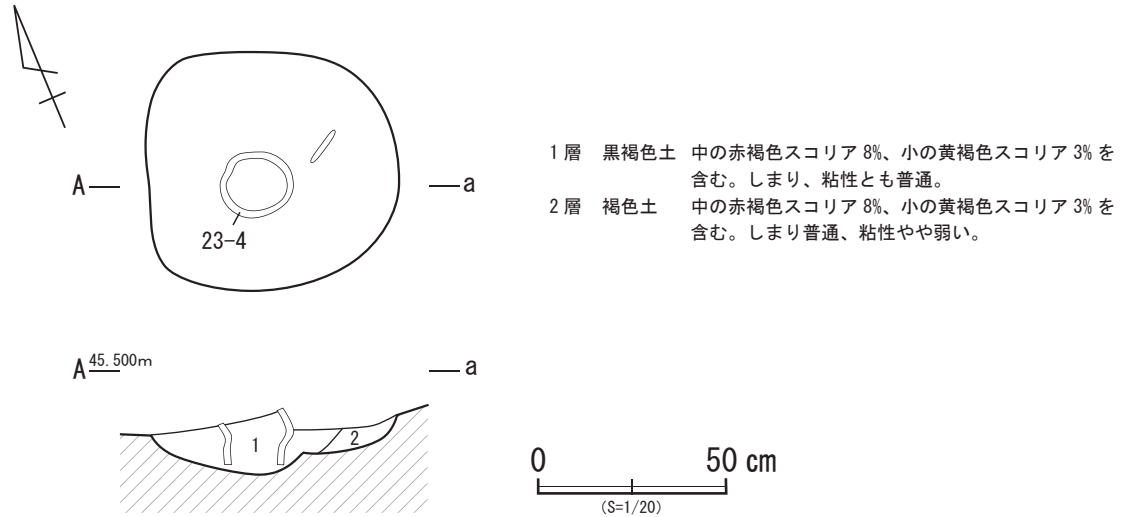
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまり普通、粘性普通。1号竪穴住居跡。縄文時代中期の遺物を多く含む、炭化物も含む。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む、ローム粒子を含む。しまり普通、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む、ローム粒子を含む。しまり普通、粘性普通。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリアを3%含む、炭化物を含む。しまりやや弱く、粘性普通。

- 風倒木痕① 黒褐色土 ローム粒子を含む。
- 風倒木痕② 褐色土 ローム粒子を含む。
- 風倒木痕③ 褐色土 ロームブロックを含む。
- 風倒木痕④ 黒褐色土 ロームブロックを含む。

第14図 第7次調査土層断面図

### 3) 遺構外出土遺物 (第25~29図、第7~10表、写真図版13~17)

図化を行った土器が61点、石器が16点である。土器の時期は中期、勝坂式、称名寺式、堀之内式、加曾利B式である。出土比率としては勝坂式が27%、堀之内1式が26%、堀之内2式が20%である。器形としては深鉢が9割を占めるが、注口土器が4点、浅鉢が1点出土している。石器は石斧、敲石、石錐、磨石等である。



第15図 第7次調査2号住居跡埋甕平断面図

第3表 第7次調査縄文時代ピット計測表

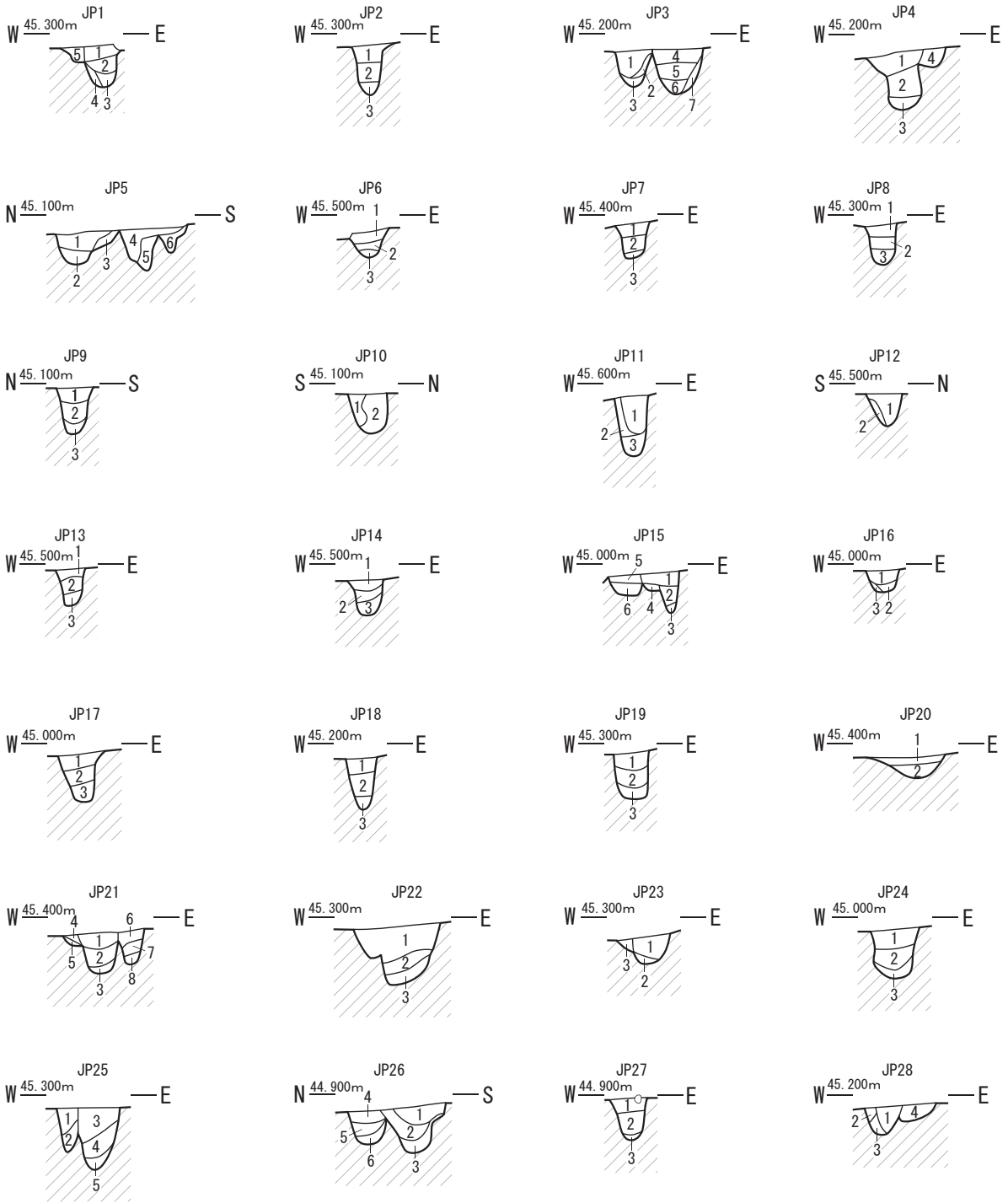
単位：cm

遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP1	75	54	41
JP2	42	40	49
JP3	104	55	43
JP4	80	50	60
JP5	130	43	42
JP6	44	(41)	27
JP7	34	34	35
JP8	33	32	40
JP9	44	43	44
JP10	45	35	38
JP11	36	35	56
JP12	40	33	30
JP13	33	31	35
JP14	36	34	35
JP15	69	42	40
JP16	35	33	25
JP17	46	44	49
JP18	36	31	50
JP19	44	37	47
JP20	97	50	22
JP21	82	33	42
JP22	82	45	58
JP23	54	(38)	29
JP24	48	44	48
JP25	65	37	60
JP26	93	52	48

遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP27	37	32	42
JP28	100	70	30
JP29	46	(32)	45
JP30	53	50	10
JP31	77	55	-
JP32	44	43	-
JP33	40	38	23
JP34	41	36	82
JP35	40	(22)	22
JP36	28	22	21
JP37	35	32	24
JP38	40	32	21
JP39	48	24	19
JP40	46	23	32
JP41	20	18	41
JP42	34	24	36
JP43	30	22	14
JP44	21	21	10
JP45	30	28	12
JP46	70	22	34
JP47	70	24	40
JP48	28	22	15
JP49	24	22	18
JP50	28	22	16
JP51	23	20	15
JP52	30	22	16

遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP53	38	30	43
JP54	55	30	19
JP55	30	28	11
JP56	28	24	23
JP57	28	22	27
JP58	38	30	20
JP59	30	24	12
JP60	60	52	28
JP61	30	26	19
JP62	20	18	19
JP63	28	25	32
JP64	30	24	9
JP65	26	20	33
JP66	32	20	26
JP67	25	25	22
JP68	22	20	20
JP69	38	26	21
JP70	30	22	17
JP71	32	20	34
JP72	30	26	7
JP73	40	30	30
JP74	30	22	15
JP75	26	24	29
JP76	20	14	22
JP77	28	22	22
JP78	80	50	17

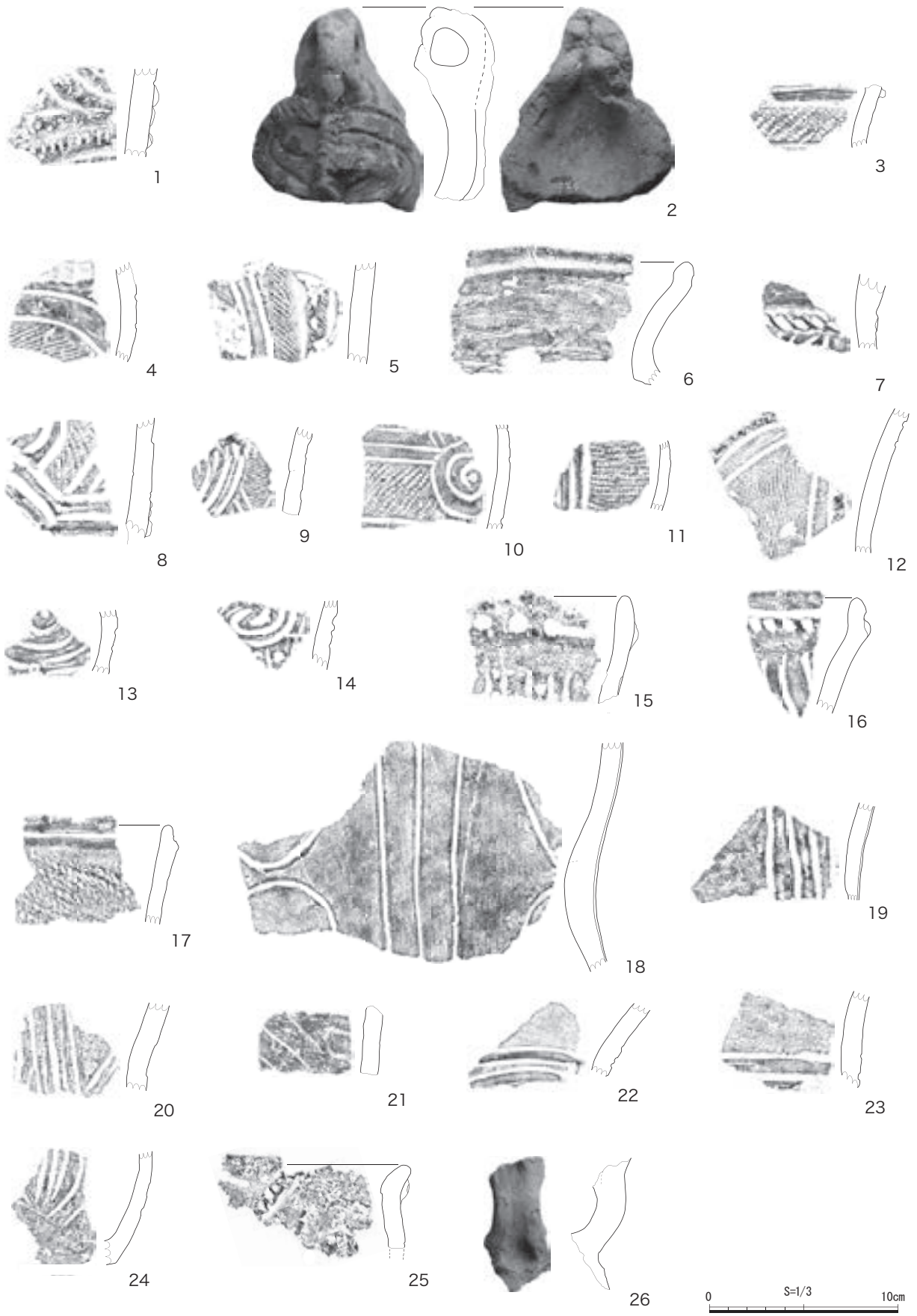
遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP79	30	22	24
JP80	32	28	19
JP81	30	28	30
JP82	42	42	28
JP83	34	26	9
JP84	52	40	32
JP85	46	42	17
JP86	32	26	17
JP87	36	34	20
JP88	34	30	25
JP89	30	25	22
JP90	28	18	17
JP91	32	32	38
JP92	90	50	51
JP93	56	40	31
JP94	(20)	20	12
JP95	50	48	20
JP96	24	20	17
JP97	32	22	29
JP98	24	18	34
JP99	28	22	10
JP100	30	30	24
JP101	48	30	25



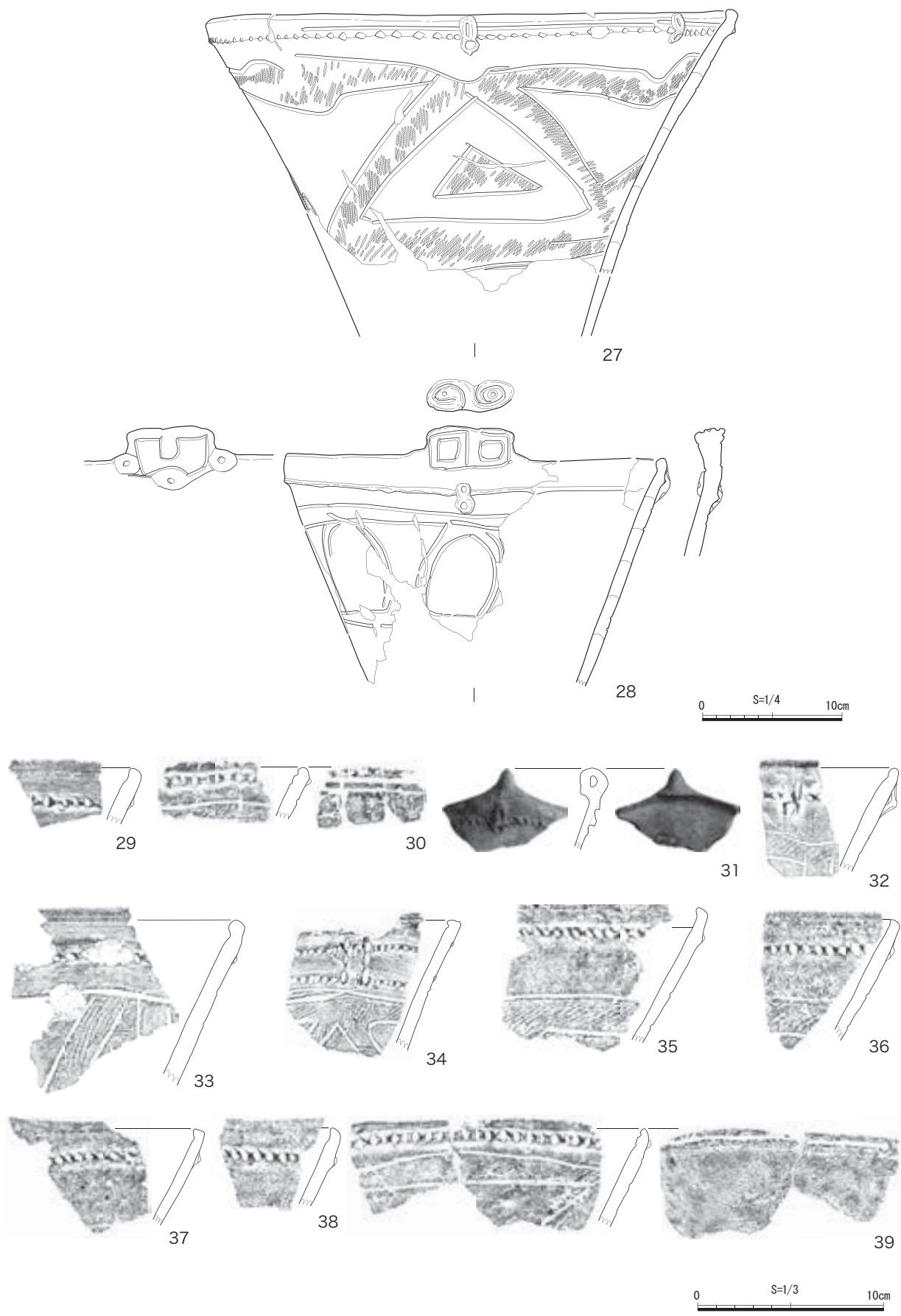
- 【JP1】  
 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア 2%、中の黄褐色スコリア 2%を含み、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。  
 2層 褐色土 ローム粒子を含む。しまり普通、粘性やや強い。  
 3層 褐色土 ローム粒子を多く含む。しまり普通、粘性やや強い。  
 4層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア 1%、極小の黄褐色スコリア 1%を含む。しまり普通、粘性普通。  
 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア 5%、小の黄褐色スコリア 5%を含む。しまり普通、粘性普通。
- 【JP2】  
 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア 2%、小の黄褐色スコリア 2%を含む。しまり普通、粘性普通。  
 2層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア 1%、極小の黄褐色スコリア 1%を含む。しまり普通、粘性普通。  
 3層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア 1%、極小の黄褐色スコリア 1%を含む。しまり普通、粘性やや強い。
- 【JP3】  
 1層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア 1%、極小の黄褐色スコリア 1%を含む。しまり普通、粘性普通。  
 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア 3%、中の黄褐色スコリア 3%を含む。しまり普通、粘性普通。  
 3層 黒褐色土 しまり普通、粘性普通。  
 4層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア 1%、極小の黄褐色スコリア 1%を含み、炭化物を含む。しまり普通、粘性普通。  
 5層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア 2%、中の黄褐色スコリア 2%を含む。しまり普通、粘性普通。  
 6層 黒褐色土 しまり普通、粘性普通。  
 7層 褐色土 ローム粒子を含む。しまり普通、粘性やや強い。

第16図 第7次調査ピット断面図 (1)



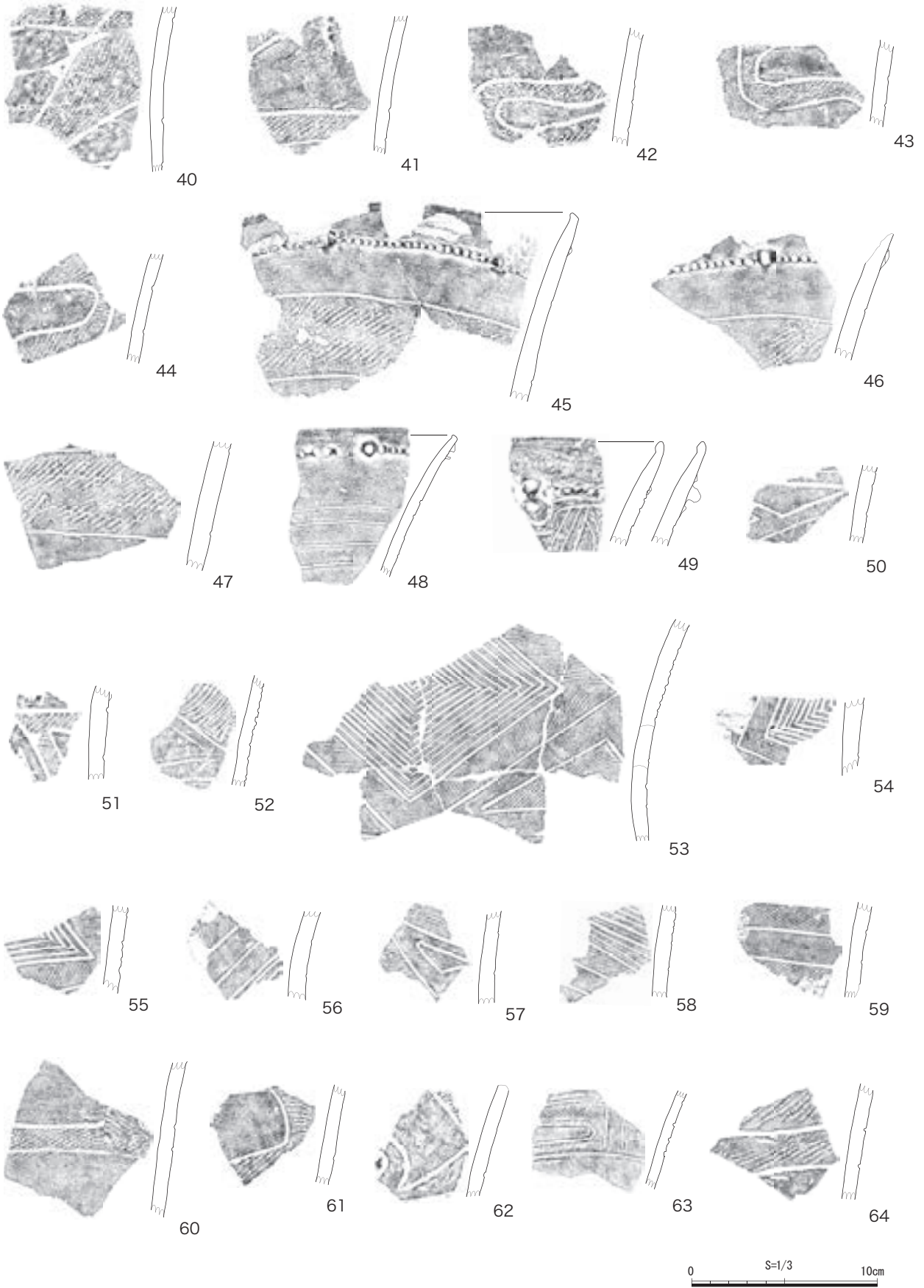


第18図 第7次調査1号住居跡出土遺物(1)

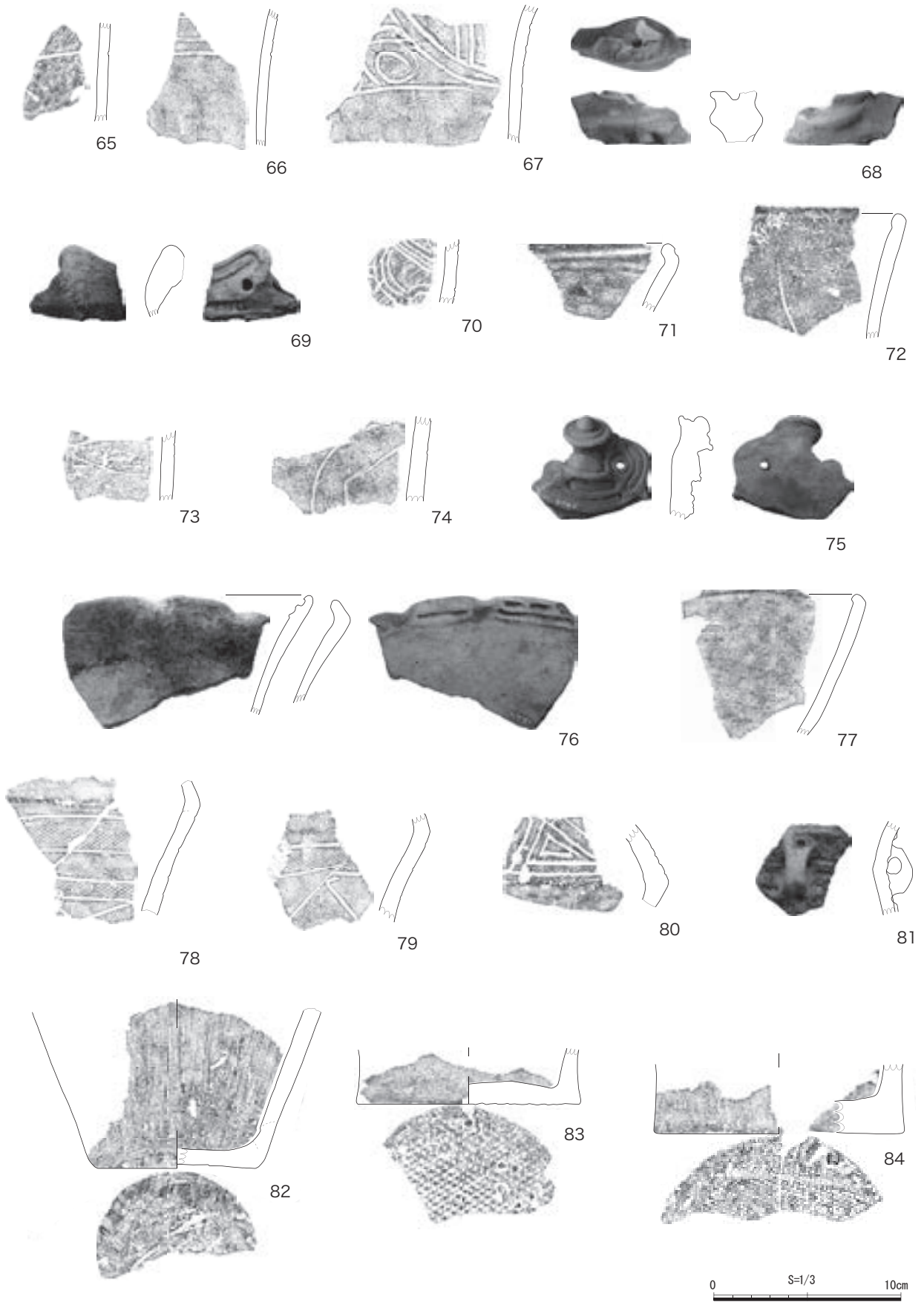


第19図 第7次調査1号住居跡出土遺物(2)

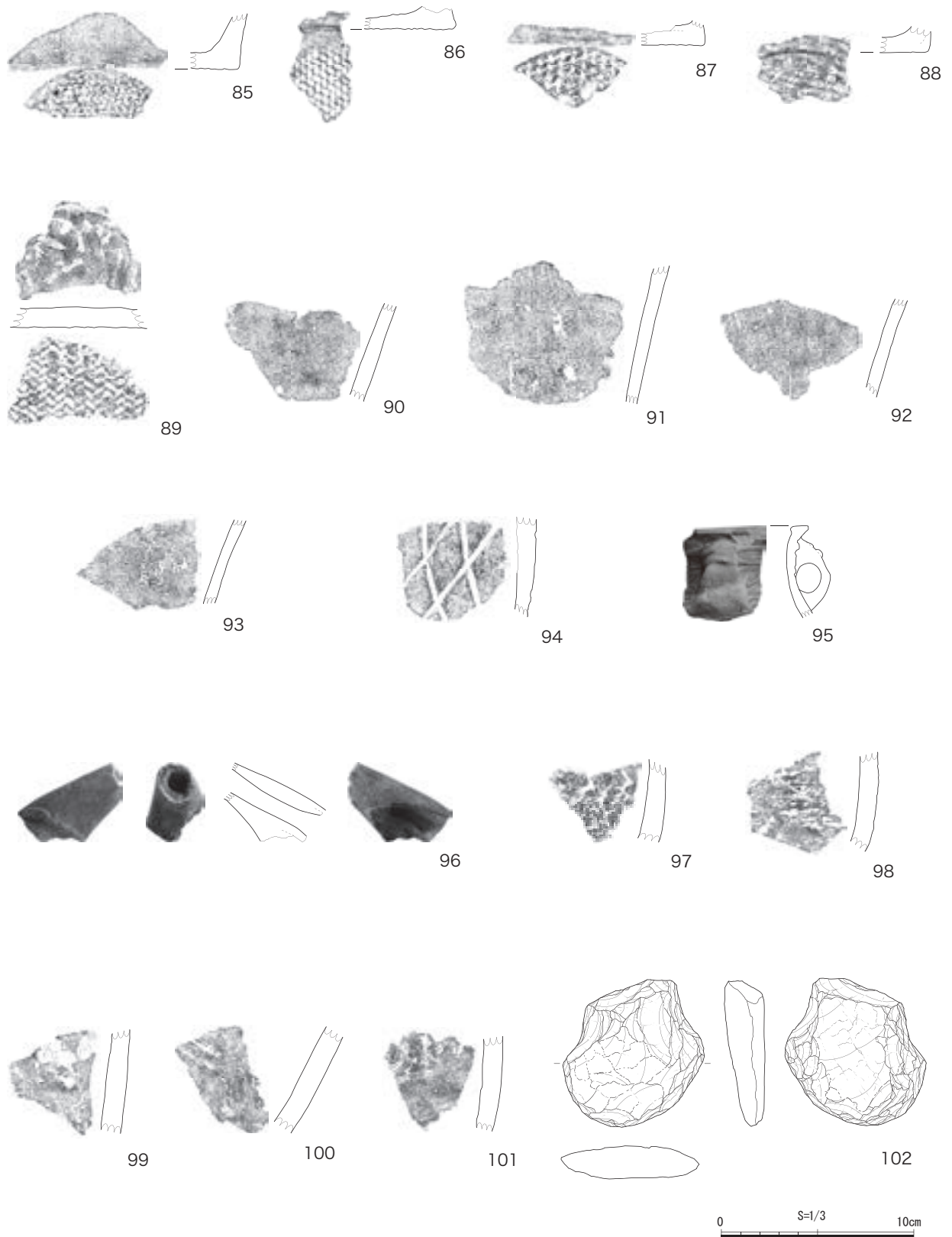




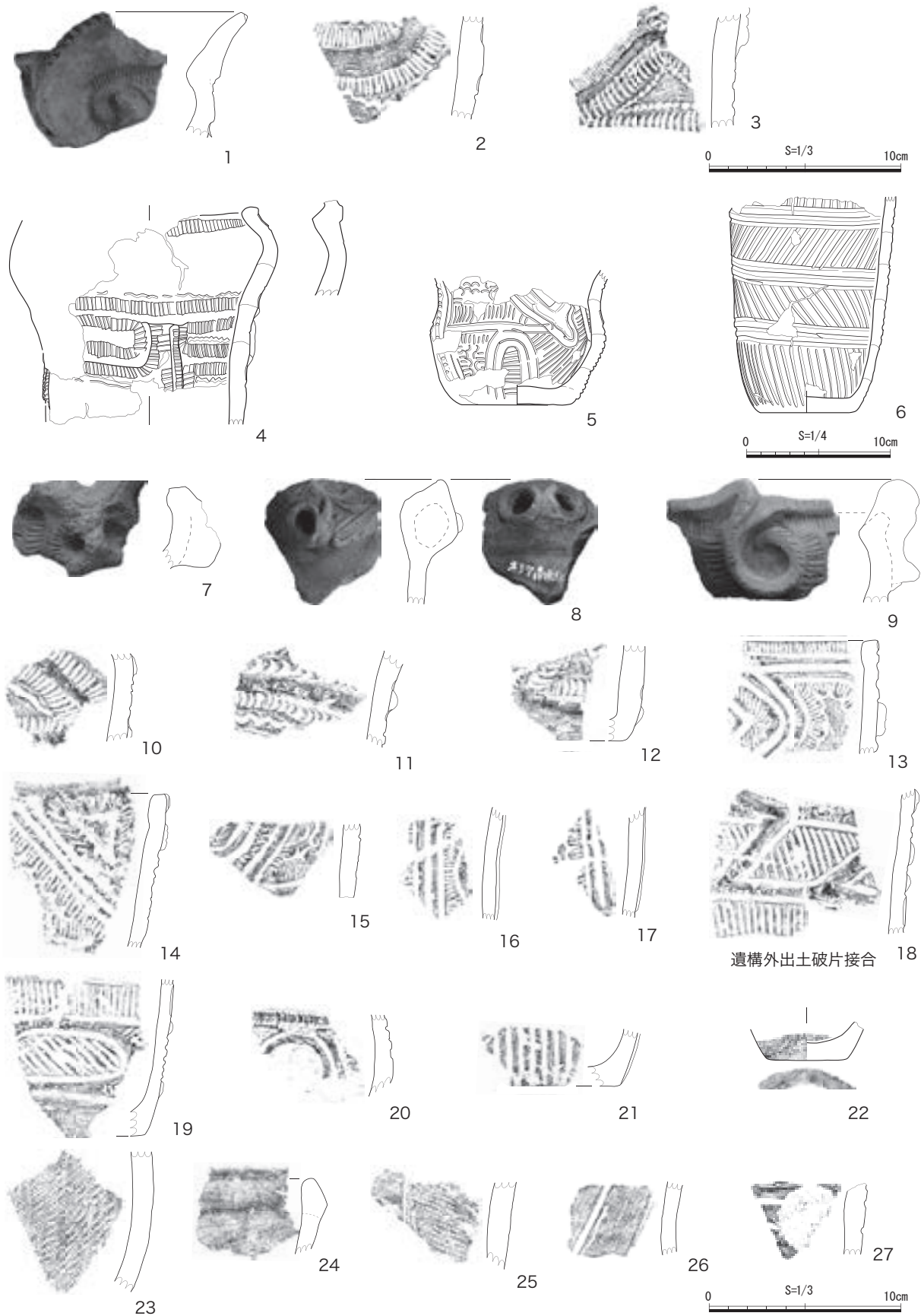
第20図 第7次調査1号住居跡出土遺物(3)



第21图 第7次調査1号住居跡出土遺物(4)

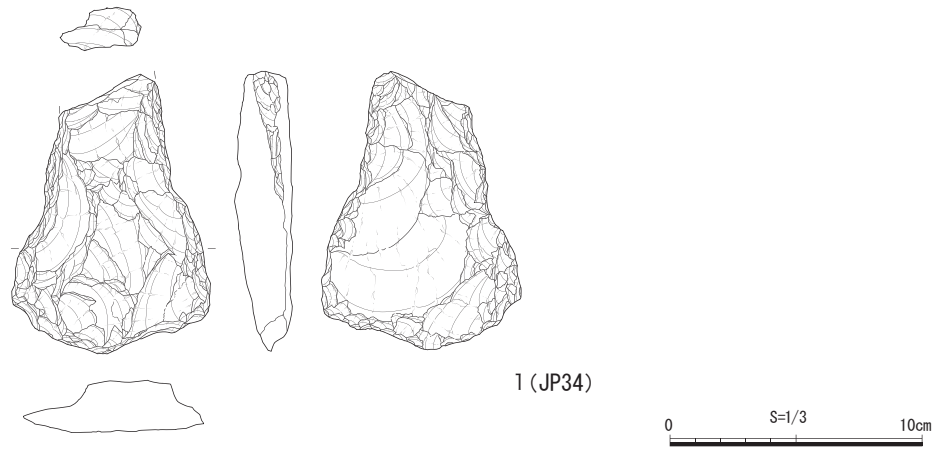


第22図 第7次調査1号住居跡出土遺物(5)

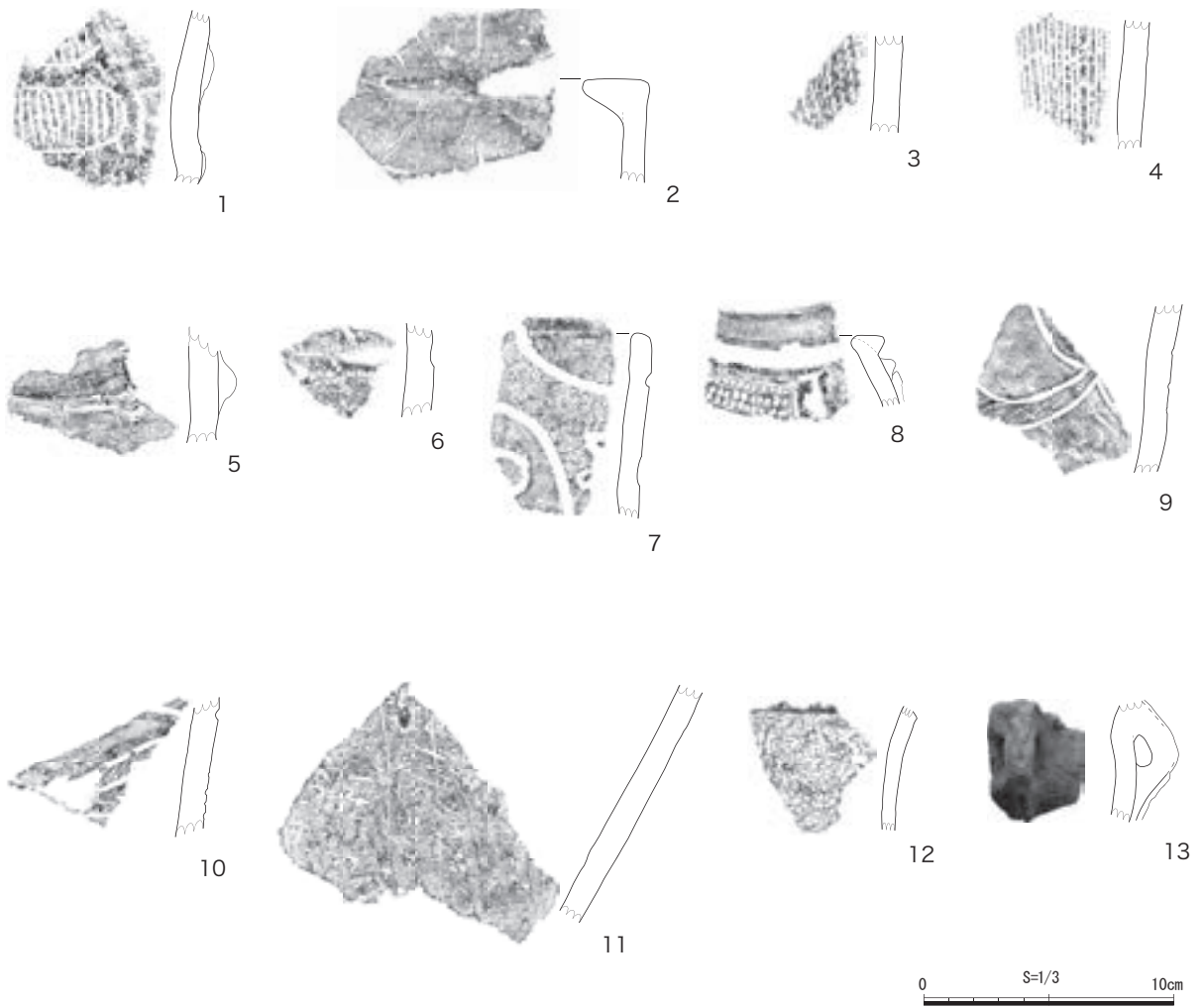


第23図 第7次調査2号住居跡出土遺物

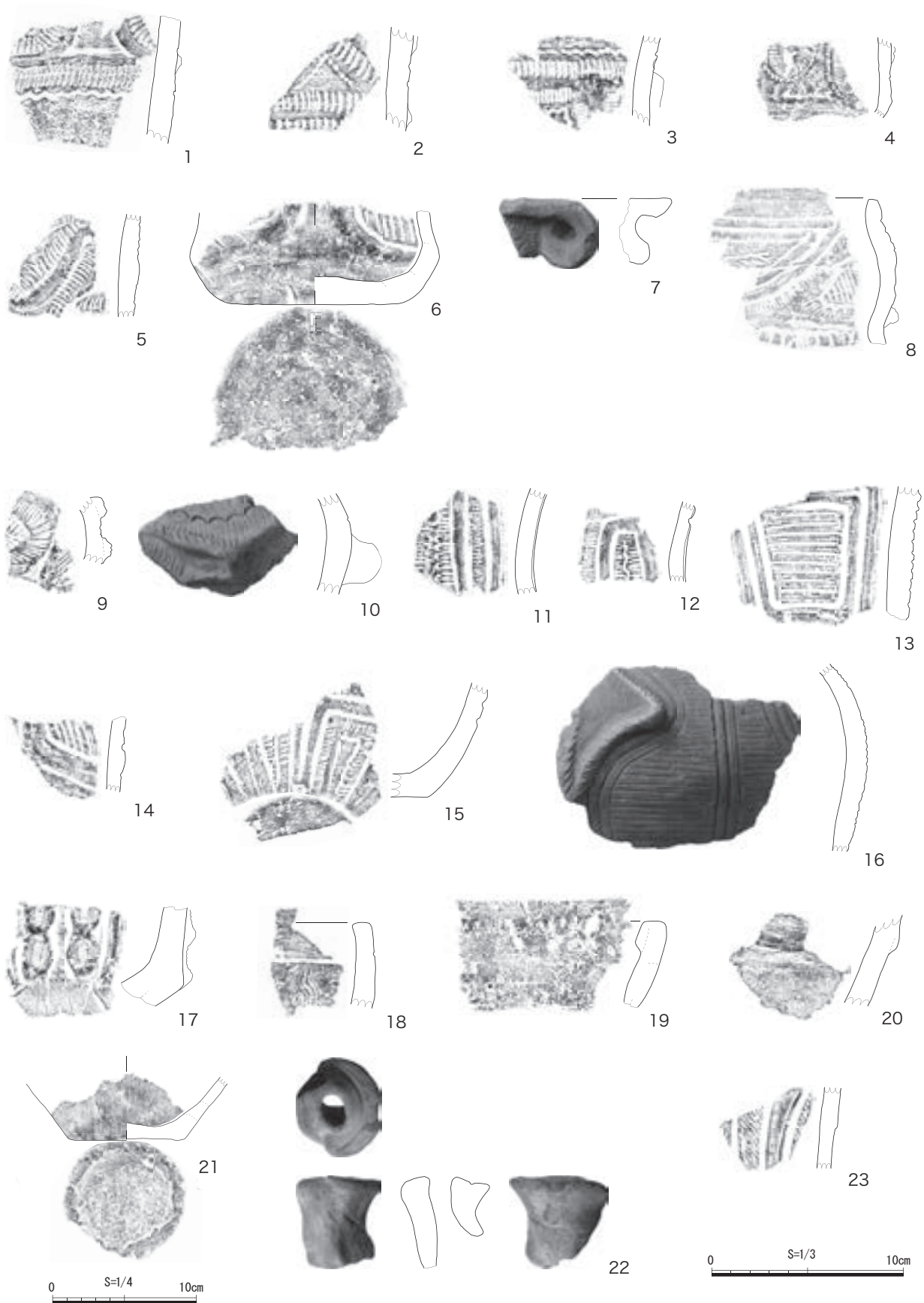
ピット



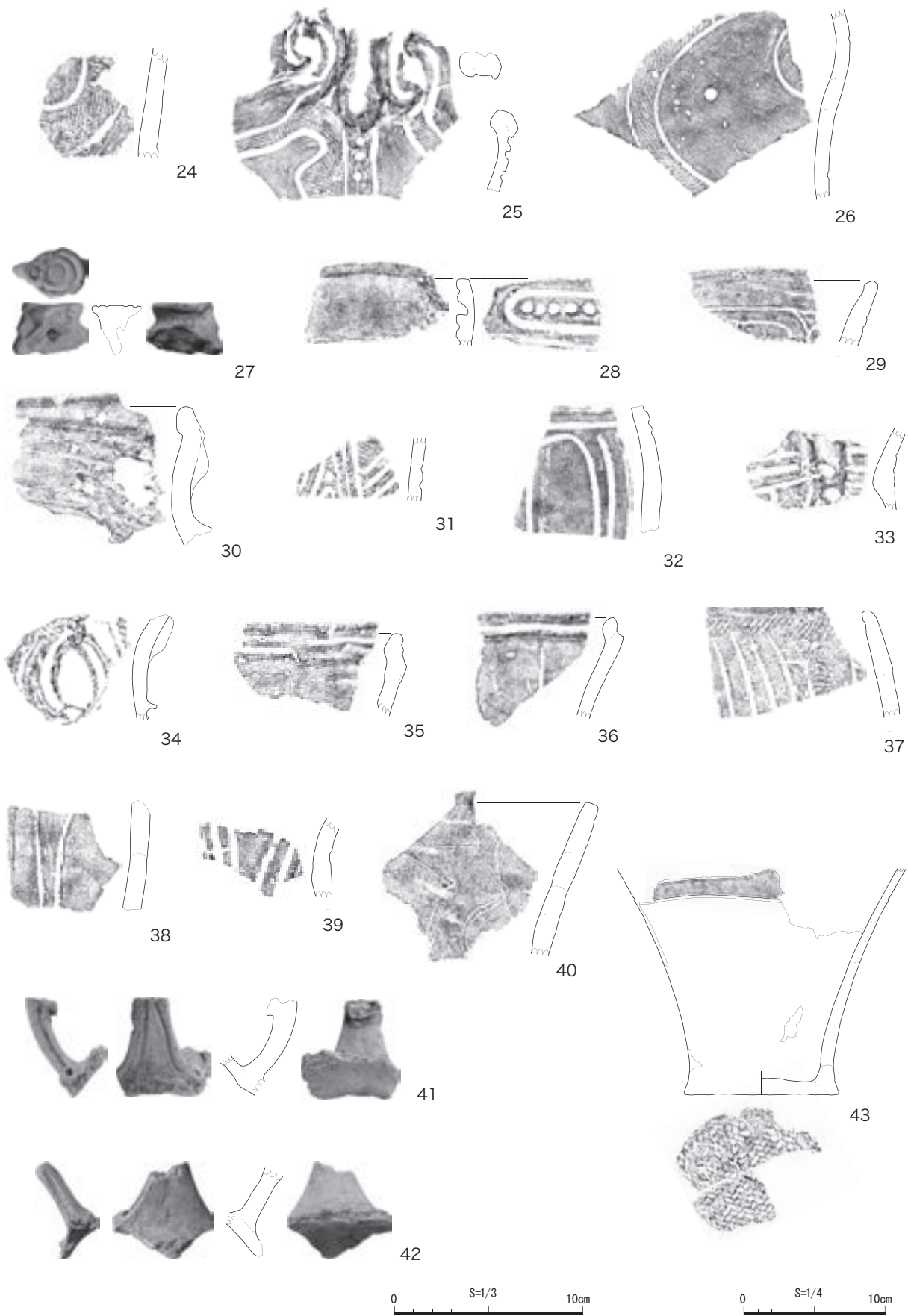
2号溝状遺構



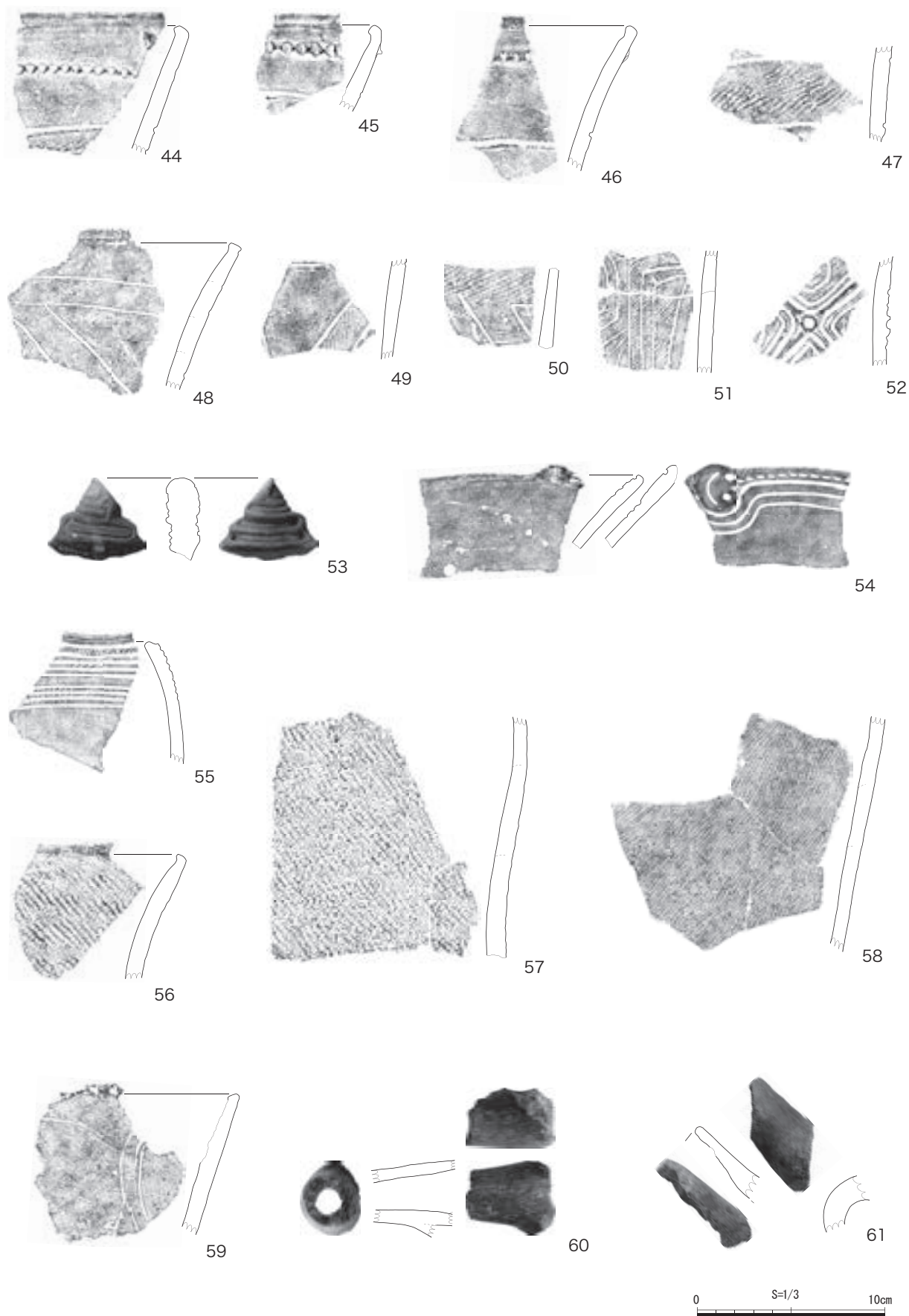
第24図 第7次調査ピット・溝状遺構出土遺物



第25図 第7次調査遺構外出土遺物 (1)

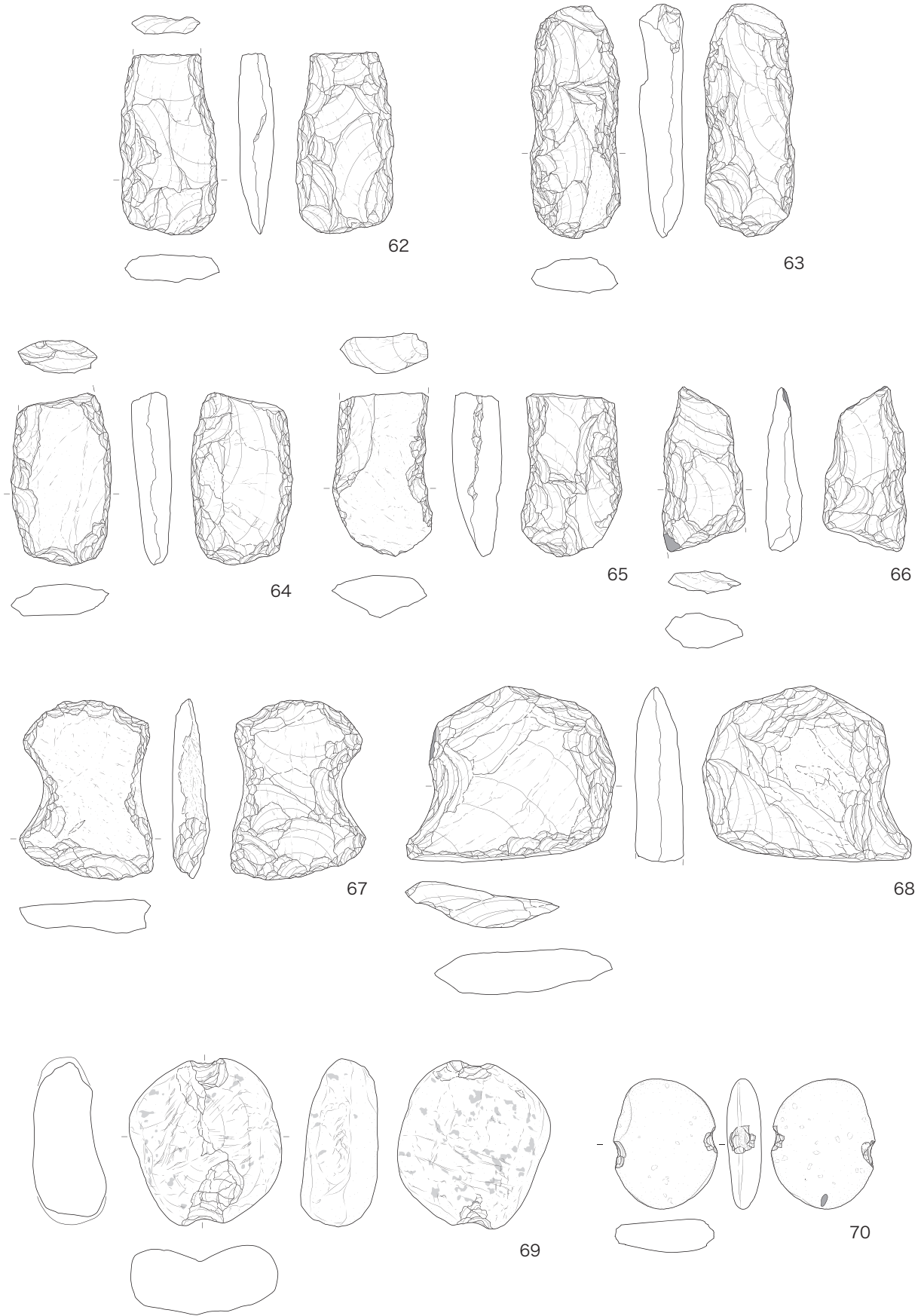


第26図 第7次調査遺構外出土遺物 (2)

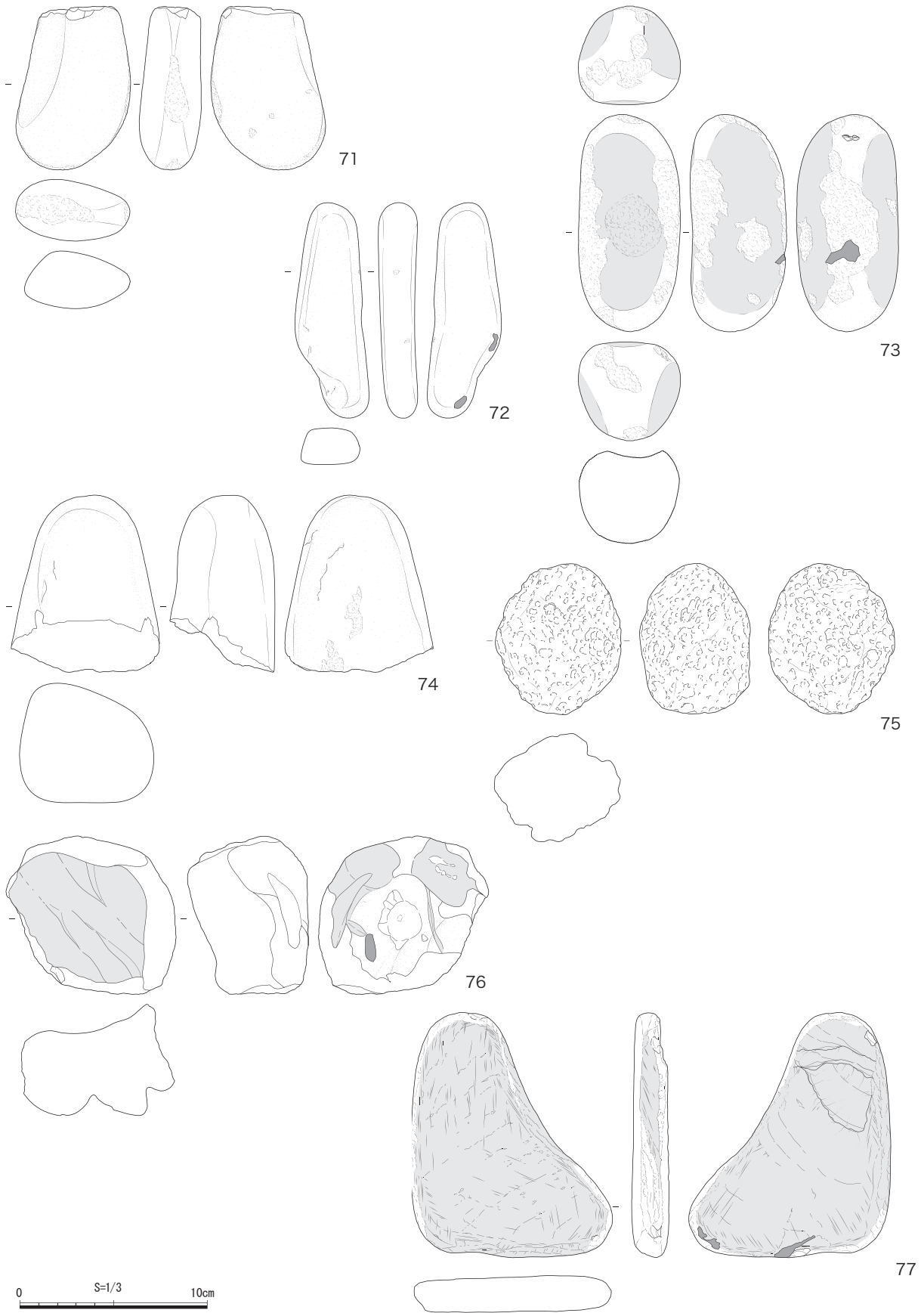


第27図 第7次調査遺構外出土遺物 (3)





第28図 第7次調査遺構外出土遺物(4)



第29図 第7次調査遺構外出土遺物 (5)

第5表 第7次調査縄文時代土器観察表(1)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考
18-1	杉7集中	1号住	勝坂2	深鉢胴部	-	37.3	長石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 隆帯による指円状の区画か。横位隆帯貼付、隆帯上にキザミ施文	-
18-2	杉7集中	1号住	勝坂3	深鉢突起	-	204.5	石英、雲母多、小礫	内面ナデ 先端に眼鏡状突起、突起から隆帯垂下。隆帯上に被杉状刺突文。隆帯と沈線による文様	-
18-3	杉7 No.1集下層	1号住	加曾利E2	深鉢胴部	-	20.3	長石、雲母、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 縄文施文。横位の隆帯が1条見られる	RL縦位
18-4	杉7 IV層	1号住	称名寺古~中段階	深鉢胴部	-	27.5	長石、石英、赤色粒子	内面横位ナデ 2条1組の弧状の沈線、沈線間無文。縄文施文	LR縦位
18-5	杉7集中	1号住	称名寺中段階	深鉢胴部	-	49.1	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ 縦位隆帯貼付、隆帯上凹形刺突文。縦位沈線による文様。縄文施文	LR縦位
18-6	杉7 SI1集	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	102.4	長石、石英、雲母、角四石、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 残存部無文	-
18-7	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	24.8	長石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 横位1条の隆帯を貼付し、隆帯上に刺突文施文。	-
18-8	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	54.6	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ 縄文施文。沈線による文様	LR縦位
18-9	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	20.8	長石、石英、小礫	内面横位ナデ後横位ミガキ 破片上部に隆帯の様な痕跡。複数の沈線による弧状の文様。縄文施文	RL横位
18-10	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	36.6	長石、石英、雲母、角四石、小礫	内面横位ナデ 沈線による渦巻文、中央に凹形刺突文。縄文施文	LR横位
18-11	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	17.3	長石、角四石、小礫	内面ナデ 縦位沈線を複数施文。沈線外側に縄文施文	LR斜位
18-12	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	46.9	長石、石英、角四石、小礫多く含む	内面横位ナデ 複数の縦位・弧状の沈線による文様。沈線間に縄文施文	LR斜位
18-13	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	13.6	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 複数の沈線による弧状の文様。円形の刺突文	-
18-14	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	13.7	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 沈線による渦巻状の文様、下部に凹形刺突文。	-
18-15	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	波状口縁	42.1	長石、角四石、小礫	内面器面荒れ 口縁に凹形の刺突文施文。複数の縦位沈線による文様が僅かに見られる	-
18-16	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	25.8	長石、角四石、小礫、赤色粒子	口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ 口縁に沿う1列の刺突文。複数の縦位沈線による文様	-
18-17	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	33.8	長石、石英、角四石	口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の沈線	直前断 反摺LL
18-18	杉7 SI1集	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	387.1	長石、小礫	外面縦位ミガキ、内面横位ナデ 縦位沈線による文様。弧状の文様も見られる	-
18-19	杉7 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	43.0	長石、角四石、小礫	外面ナデ、内面横位ナデ 縦位沈線による文様	-
18-20	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	40.2	長石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 複数の沈線による文様	-
18-21	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	24.8	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面ナデ 沈線による文様	-
18-22	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	29.0	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ナデ 複数の横位沈線	-
18-23	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	42.6	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ナデ 横位2条の沈線施文	-
18-24	杉7集中	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	26.7	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 複数の縦位沈線による文様	-
18-25	杉7集中	1号住	堀之内1	注口土器口縁部	平口縁	34.6	長石、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、口唇部ナデ、内面ナデ 隆帯を斜位に貼付。隆帯上に刺突文施文	-
18-26	杉7 IV層	1号住	堀之内1	不明把手	橋状把手	36.7	長石、雲母、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ 外面の把手接着部分に凹形の窪みが見られる	-
19-27	杉7 No.1	1号住	堀之内2	深鉢口縁部~胴部	平口縁	238.6	長石、雲母、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ・斜位ミガキ、口唇部ミガキ、内面口縁部横位ミガキ・縦位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上押し施文。8字状貼付文が5単位残存。元は6単位か、対面に1単位ずつ配置。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か。8字状貼付文下は沈線が弧状に歪む	RL縦位
19-28	杉7 No.2	1号住	堀之内2	深鉢口縁部~胴部	平口縁	495.8	長石、石英、雲母、小礫	外面横位ナデ後一部横位ミガキ、口唇部ナデ、内面ナデ後口縁部横位ミガキ、胴部縦位ミガキ 内外面に文様のある突起が1単位残存。沈線による四角の文様。上面渦巻文。内面に3つの中央に凹形刺突文のある貼付文。口縁部に沿う1条の隆帯。隆帯上に浅い押し施文。突起下に8字状貼付文あり、対面、90°右側にも見られる。胴部文様は沈線による対弧文	-
19-29	杉7 IV層	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	16.3	長石、石英、角四石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文	-
19-30	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	16.2	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上にキザミ施文。横位2条の沈線間に縄文施文	LRか
19-31	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	波状口縁、突起あり	14.8	長石、角四石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ミガキ 波頂部の突起には左右に孔が貫通。横位1条の隆帯貼付、隆帯上刺突文施文。波頂部下の隆帯上に8字状貼付文	-
19-32	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	28.8	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文。隆帯上に8字状貼付文。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位
19-33	杉7 北側一括	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	87.3	長石、雲母、石英、小礫	口唇部ナデ、内面横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か	RL縦位
19-34	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	47.6	長石、石英、小礫	内面横位ミガキ 口縁に沿う2条の隆帯。隆帯上に刺突文。2条の隆帯を繋ぐ様に施した2列の刺突文。沈線による文様、三角状か。沈線間に縄文施文	RL縦位
19-35	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	58.9	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の文様	無節Lか
19-36	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	32.2	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文。破片下端に僅かに横位沈線が見られる	-
19-37	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	27.6	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文。破片下端に僅かに横位沈線が見られる	-
19-38	杉7集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	22.3	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上刺突文施文	-
19-39	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	65.4	長石、石英、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上キザミ施文。沈線による文様。内面口縁部に1条の沈線に沿う	-
20-40	杉7 SI1集	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	58.1	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か	LR横位
20-41	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	34.9	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位
20-42	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	36.3	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。蛇行した文様	LR横位
20-43	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	34.0	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。蛇行した文様	LR横位
20-44	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	26.2	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。蛇行した文様	LR横位

第6表 第7次調査縄文時代土器観察表(2)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
20-45	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	152.0	長石、石英、角四石	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面口縁部付近横位ミガキ・下部縦位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。2条1組の沈線間に縄文施文	LR横位	外面に黒色の付着物が少量見られる。45~47同一個体
20-46	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部付近~胴部	-	61.6	長石、石英、角四石	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	横位隆帯貼付、隆帯上刺突文。隆帯上に凹形刺突を施した貼付文。横位沈線、下部に縄文施文	LR横位	外面に黒色の付着物が少量見られる。45~47同一個体
20-47	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢底部	-	70.9	長石、石英、角四石	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	2条の沈線間に縄文施文	LR横位	45~47同一個体
20-48	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	41.8	長石、石英、角四石、赤色粒子	外面横位ナデ一部縦位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。隆帯上に凹形刺突を施した貼付文。2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による横位の文様。縄文は不明瞭	LRか	外面に黒色の付着物が少量見られる
20-49	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	31.5	長石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。8字状貼付文。隆帯下部に沈線による文様。沈線による文様内に縄文と思われる痕が見られる	不明	-
20-50	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	17.8	長石、角四石、小礫	内面横位ミガキ	2条1組の沈線による三角状の文様。縄文施文	RL縦位	-
20-51	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	19.6	長石、小礫	内面横位ミガキ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か	LR縦位・横位	-
20-52	杉7 No.2	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	20.0	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状。斜位の沈線を充填	LR横位・斜位	-
20-53	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	197.2	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	複数の沈線による重なる菱形の文様。菱形文の周囲の沈線間に縄文施文。沈線による三角の区画内に縄文施文	RL斜位	53~59同一個体
20-54	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	28.1	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	沈線による角状の文様。一部沈線間に縄文施文	RL縦位・横位	53~59同一個体
20-55	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	24.5	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	沈線による角状の文様。一部沈線間に縄文施文	RL縦位	53~59同一個体
20-56	杉7 北側一括	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	25.3	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	複数の沈線による文様。一部沈線間に縄文施文	RL縦位	53~59同一個体
20-57	杉7 一括	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	22.0	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	沈線間に縄文施文	RL縦位	53~59同一個体。遺構外出土
20-58	杉7	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	27.1	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	沈線による文様。一部沈線間に縄文施文	LR横位	53~59同一個体。遺構外出土
20-59	杉7 IV層	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	29.7	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様と思われる	RL縦位	53~59同一個体
20-60	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	50.3	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面縦位ミガキ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。右側がやや弧状になるか	無筋L縦位・横位	60、61同一個体
20-61	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	23.6	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面縦位ミガキ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。右側がやや弧状になるか	無筋L縦位・横位	60、61同一個体
20-62	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	27.4	長石、石英、角四石、小礫	内面横位ナデ	沈線による弧状の文様	-	-
20-63	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	23.5	長石、石英、角四石	外面横位ミガキ、内面縦位ミガキ	2条1組の沈線間に縄文施文。沈線間に沈線による楕円の区画施文。楕円内側は無文。2条の沈線間に縦位沈線施文	RL縦位	-
20-64	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	31.9	長石、石英、角四石	内面横位ミガキ	横位沈線施文。沈線間に縄文施文	LR横位	-
21-65	杉7 No.1 集下層	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	11.6	長石、角四石、小礫	外面ナデ、内面縦位ミガキ	横位1条の沈線上部に縄文施文	RL縦位	-
21-66	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	22.6	長石、石英、角四石	外面縦位ミガキ、内面縦位ミガキ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位	-
21-67	杉7 No.1 集下層	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	55.7	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面縦位ナデ、内面縦位ナデ	横位1条の沈線で区画。区画内には沈線による文様を施文	-	-
21-68	杉7 IV層	1号住	堀之内2	深鉢突起	突起あり	39.1	長石、石英、小礫	外面ナデ、内面横位ナデ	中央に凹形の窪みがある突起と思われる	-	-
21-69	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部、突起	-	20.1	小礫、赤色粒子	外面ナデ	突起部から隆帯が垂下、隆帯上刺突文。内面に沈線による文様。凹形の深い刺突文	-	-
21-70	杉7 No.1 集下層	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	10.9	長石、石英、角四石	内面ナデ	沈線による文様。沈線間に僅かに縄文と思われる痕跡が見られる	RLか	-
21-71	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	22.0	長石、石英、角四石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	残存部無文	-	-
21-72	杉7 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	39.3	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	縦位沈線による文様	-	-
21-73	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	18.6	長石、石英、雲母、角四石、小礫	内面横位ミガキ	沈線による木の葉状の文様	-	-
21-74	杉7 集中	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	35.1	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	2条1組の沈線による文様	-	-
21-75	杉7 集中	1号住	堀之内2	浅鉢口縁部、突起	-	46.3	長石、石英、角四石	外面横位ミガキ、内面ミガキ	外面無文。外面に貫通する孔あり。内面突起部周囲に沈線による文様	-	-
21-76	杉7 集中	1号住	堀之内2	浅鉢口縁部	平口縁	67.4	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	外面無文。外面から内側へ一定間隔で押し込み内面に小突起を形成。内面突起間に横位沈線等沈線による文様を施文	-	外面に黒色の付着物が多く見られる
21-77	杉7 SI1 集	1号住	堀之内2	浅鉢口縁部	平口縁	48.6	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	残存部無文	-	-
21-78	杉7 1住	1号住	堀之内2	注口土器口縁部付近~胴部	-	51.7	長石、石英、角四石、小礫	外面横位ナデ、内面横位ナデ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。下部は三角状か	LR横位	78、79同一個体
21-79	杉7 集中	1号住	堀之内2	注口土器口縁部付近	-	34.6	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か	LR横位・斜位	78、79同一個体
21-80	杉7 1住	1号住	堀之内2	注口土器胴部	-	35.8	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	沈線による三角の文様。一部縄文が見られる	RLか	-
21-81	杉7 集中	1号住	堀之内2	注口土器胴部	櫛状把手	26.6	長石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	沈線による文様か。把手の接着部に凹形刺突文	-	-
21-82	杉7 No.1	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	174.2	長石、石英、角四石、小礫	外面縦位ミガキ、内面ナデ、底面ナデ	残存部無文	-	-
21-83	杉7 集中	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	95.7	長石、角四石、小礫	外面横位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高2.9cm、推定底径12.1cm、残存半底部1/3。底面に網代痕あり
21-84	杉7 1住	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	150.3	長石、雲母、小礫、赤色粒子	外面ナデ一部ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高3.7cm、推定底径13.4cm、残存半底部1/3。底面に網代痕あり
22-85	杉7 集中	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	38.9	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり
22-86	杉7 集中	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	18.4	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面ナデ後ミガキ	残存部無文	-	底面に網代痕あり
22-87	杉7 1住	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	17.7	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり
22-88	杉7 集中	1号住	堀之内	深鉢底部	平底	18.2	長石、角四石、小礫	外面横位ミガキ、内面ミガキ	残存部無文	-	底面に網代痕あり
22-89	杉7 No.2	1号住	堀之内	不明底部	平底	41.5	長石、雲母、小礫、赤色粒子	内面ナデ	-	-	底面に網代痕あり
22-90	杉7 No.1	1号住	堀之内	深鉢胴部	-	30.1	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面縦位ミガキ	残存部無文	-	90~93同一個体
22-91	杉7 No.1	1号住	堀之内	深鉢胴部	-	52.4	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面縦位ミガキ	残存部無文	-	90~93同一個体

第7表 第7次調査縄文時代土器観察表 (3)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考	
22-92	杉7 No.1	1号住 堀之内	深鉢胴部	-	27.6	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面縦位ミガキ	残存部無文	-	90~93同一個体
22-93	杉7 No.1	1号住 堀之内	深鉢胴部	-	21.4	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面縦位ミガキ	残存部無文	-	90~93同一個体
22-94	杉7 1住	1号住 加曾利B1	深鉢胴部	-	35.3	長石、角四石、小礫	内面ナデ	沈線による格子目文	-	-
22-95	杉7 集中	1号住 加曾利B	注口土器口縁部	平口縁、橋状把手	31.5	長石、角四石	口唇部ミガキ、内面縦位ミガキ	橋状把手。沈線による文様	-	-
22-96	杉7 集中	1号住 後期	注口土器注口	-	32.1	長石、角四石、赤色粒子	外面ミガキ	残存部無文	-	-
22-97	杉7 集中	1号住 不明	深鉢胴部	-	23.8	長石、角四石、小礫	内面ナデ	爪形文のような痕跡は見られるが、表面が荒れているため詳細は不明	-	中期~後期
22-98	杉7 集中	1号住 不明	深鉢胴部	-	28.1	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ナデ	外面に刺突文のような痕跡が見られるが、不規則にあるため文様かは不明	-	中期~後期
22-99	杉7 No.1集下層	1号住 不明	深鉢胴部	-	29.1	長石、石英、雲母、小礫	外面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	中期~後期
22-100	杉7 SI1集	1号住 不明	深鉢胴部	-	35.0	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面縦位・斜位ナデ、内面横位ナデ	外面に深い擦痕が見られるが調整によるものと思われる	-	中期~後期
22-101	杉7 SI1集	1号住 不明	深鉢胴部	-	24.2	長石、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ナデ	外面に縄文のような痕跡が僅かに見られる	-	中期~後期
23-1	杉7 南東掘	2号住 勝坂1	深鉢口縁部	平口縁、突起あり	98.1	長石、雲母、角四石、小礫	内面横位ナデ	口縁に渦巻状のやや大きめの突起を貼付、縁にキザミ施文。突起に沿って内側に幅広角押文を渦巻状に施文。幅広角押文に沿うように僅かに角押文又は三角押文と思われる痕跡が見られる	-	-
23-2	杉7 南東掘	2号住 勝坂1	深鉢胴部	-	52.7	長石、雲母、角四石、小礫	内面横位ナデ	幅広の弧状の隆帯。隆帯に沿って幅広角状の連続刺突施文。一部に角押文が波状に沿う	-	-
23-3	杉7 No.6	2号住 勝坂1	深鉢胴部	-	59.1	長石、雲母、小礫	内面横位ナデ	隆帯による三角状の区画。隆帯に沿う幅広角状の連続刺突と三角押文	-	胎土に雲母を多く含む
23-4	杉7 SK2 No.6	2号住 勝坂2	深鉢口縁部~胴部	平口縁	1153.9	長石、石英、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う幅広角押文、波状沈線。頭部には指内区画が3単位残存し、欠損した区画が2単位見られる。指内区画の間からは隆帯が1条ずつ垂下し、3条見られる。隆帯には幅広角押文と波状沈線が沿い、指内区画の中央には横位の波状沈線が見られる。垂下する隆帯上にはキザミを施文	-	残存器高15.1cm、推定口径15.8cm、残存率口縁部2/3~胴部2/3 埋荒
23-5	杉7 集中No.3	2号住 勝坂2	深鉢胴部~底部	平底	193.2	長石、角四石、小礫	内面ナデ	平行沈線と隆帯による区画。ハネル文。区画内は沈線を充填する区画。区画に沿ってキザミと瓜形文が沿う区画が見られる。一部隆帯上に連続爪形文施文	-	残存器高9.4cm、推定口径7.8cm、残存率胴部1/3~底部1/3
23-6	杉7次No.5	2号住 勝坂2	深鉢胴部~底部	平底	646.7	長石、雲母、小礫	内面ナデ、底面ナデ	横位の沈線で区画し、区画内は斜位・縦位の沈線を充填	-	残存器高15.0cm、口径6.8cm、残存率胴部1/1~底部1/1。内側底面にはへら状工具を刺突状痕跡が多数あり
23-7	杉7 南東掘	2号住 勝坂2	深鉢突起	-	65.8	長石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	左右に円形の窪みを持つ突起、幅広角状の連続刺突が沿う	-	胎土に小礫を多く含む
23-8	杉7 南東掘	2号住 勝坂2	深鉢口縁部、突起	中空の突起	54.1	長石、角四石、小礫	外面横位ナデ、内面横位ナデ	中空の突起で外面に1ヶ所、内面に2ヶ所の孔あり。外面の孔の横にはキザミを施した隆帯を鋸歯状に貼付。内面の孔周囲にはキザミが見られる	-	-
23-9	杉7 No.6	2号住 勝坂2	深鉢口縁部、突起	平口縁、突起あり	100.1	長石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁部に隆帯による小突起あり、突起を形成する隆帯が渦巻状に繋がる。隆帯上にキザミ施文。隆帯に沿う幅広角状文	-	-
23-10	杉7 南東掘	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	32.1	長石、石英、雲母、小礫	内面横位ナデ	隆帯による区画。隆帯に沿う幅広角状の連続刺突。隆帯内側に波状沈線施文	-	胎土に雲母を多く含む。土製円盤の可能性もある
23-11	杉7 南東掘	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	35.2	長石、石英、角四石、小礫	内面横位ナデ	横位の隆帯。隆帯に沿う爪形文と波状沈線	-	-
23-12	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢底部付	近	26.4	長石、角四石、小礫	内面ナデ	隆帯による区画。隆帯に連続刺突が沿い、僅かに細い角状の刺突も見られる	-	-
23-13	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢口縁部	平口縁	44.1	長石、雲母、角四石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1列のキザミ。隆帯による文様か。隆帯上キザミ施文。口縁、隆帯に沈線が沿い、沈線にはキザミと瓜形文が沿う	-	-
23-14	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢口縁部	平口縁	52.0	長石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	隆帯による三角の区画。隆帯上キザミ施文。2条の斜位の平行沈線と平行沈線に沿うキザミ、爪形文	-	-
23-15	杉7 南東掘	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	26.7	長石、石英、角四石、小礫	内面横位ナデ	縦位隆帯貼付、隆帯上キザミ施文。沈線による区画。区画内側にキザミと瓜形文が沿う	-	-
23-16	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	17.3	長石、小礫	内面横位ナデ	縦位平行沈線施文。沈線間キザミ充填。	-	16、17同一個体
23-17	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	11.1	長石、小礫	内面横位ナデ	縦位平行沈線施文。平行沈線にキザミと瓜形文が沿う	-	16、17同一個体
23-18	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	53.8	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	隆帯による三角状の区画か。区画内斜位沈線充填。区画間は縦位沈線充填か	-	18、19同一個体。遺構外出土。
23-19	杉7 No.4	2号住 勝坂2	深鉢底部付	近	46.1	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	隆帯による指内区画。隆帯上部にキザミ施文。区画内に斜位沈線充填。区画間は縦位沈線充填か	-	18、19同一個体
23-20	杉7 南東掘	2号住 勝坂2	深鉢胴部	-	22.8	長石、小礫	内面横位ミガキ	沈線による渦巻状の文様になるか。上部横位沈線は半裁竹管状工具の腹面を押しきして施文下と思われる	-	-
23-21	杉7 南東掘	2号住 勝坂3	深鉢胴部~底部	平底	21.1	長石、小礫	内面ナデ、底面ナデ	複数の縦位沈線施文	-	-
23-22	杉7 南東掘	2号住 中期	小形土器底部	平底	38.9	長石、石英、赤色粒子	内面ナデ、底面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高1.8cm、推定口径4.8cm、残存率底部1/2。底面に網代痕なし
23-23	杉7次No.5	2号住 中期	深鉢胴部	-	46.7	長石、雲母、小礫	内面横位ナデ	縄文施文	RL縦位	-
23-24	杉7 南東掘	2号住 中~後期	深鉢口縁部	平口縁	31.8	長石、石英、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	残存部無文。口縁部に沿ってやや微隆起帯状に突出する	-	-
23-25	杉7 南東掘	2号住 中~後期	深鉢胴部	-	33.8	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	1条の弧状の沈線。縄文施文	RL横位	-
23-26	杉7 南東掘	2号住 後期	深鉢胴部	-	20.1	長石、石英、小礫	外面斜位ミガキ、内面横位ナデ	2条の弧状の沈線	-	-
23-27	杉7 南東掘	2号住 不明	深鉢胴部	-	14.6	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	外面の大部分が欠損。残存部に横位沈線が見られる	-	-
24-1	杉7 SD1-1 区上層	2号溝 勝坂2	深鉢胴部	-	59.0	長石、角四石	内面横位ナデ	隆帯による指内区画。区画内縦位沈線充填	-	-
24-2	杉7 SD1-3 区	2号溝 勝坂3	深鉢口縁部	平口縁	58.0	長石、角四石、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	残存部無文	-	胎土に角四石を多く含む
24-3	杉7 SD1-1 区上層	2号溝 加曾利E1~2	深鉢胴部	-	13.4	長石、小礫	内面ナデ	燃糸文施文	燃糸文L縦位	-
24-4	杉7 SD1-2 区	2号溝 加曾利E3~4	深鉢胴部	-	23.5	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	縦位条線文施文	-	胎土に小礫を多く含む
24-5	杉7 SD1-2 区	2号溝 中期	深鉢胴部	-	50.4	長石、石英、雲母、小礫	内面横位ナデ	やや太めの隆帯を弧状に貼付	-	-
24-6	杉7 SD1-1 区上層	2号溝 中期	深鉢胴部	-	22.9	長石、石英、小礫	外面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	-
24-7	杉7 SD1 区	2号溝 弥生寺古段階	深鉢口縁部	平口縁	43.0	長石、石英、角四石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁部には沈線による弧状の文様。下部の文様は渦巻状になるか	RL縦位・斜位	-

第8表 第7次調査縄文時代土器観察表(4)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
24-8	杉7 SD1-3区	2号溝	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	27.2	長石、角四石、小礫	口唇部横位ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う2条の隆帯。横位隆帯から伸びる2条の縦位隆帯。円形の刺突文充填	-	-
24-9	杉7 SD1	2号溝	堀之内1	深鉢胴部	-	44.1	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	沈線による弧状の文様	-	-
24-10	杉7 SD1-1区上層	2号溝	堀之内2	深鉢胴部	-	31.5	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	沈線による文様。沈線間に僅かに縄文が見られる	LR横位	外面に黒色の付着物少量あり
24-11	杉7 SD1-1区上層	2号溝	堀之内2	深鉢胴部	-	123.3	長石、石英、角四石、小礫	外面横位ナデ後縦位ミガキ、内面横位ナデ	縦位2条の沈線	-	-
24-12	杉7 SD1-1区上層	2号溝	堀之内	深鉢胴部	-	20.0	長石、雲母、角四石、小礫	内面横位ナデ	残存部無文	-	-
24-13	杉7 SD1-1区上層	2号溝	不明	深鉢胴部、突起	-	26.1	長石、角四石、小礫	外面ナデ、内面横位ナデ	眼鏡状の突起。突起に僅かに刻みが見られる	-	-
25-1	杉7 風	遺構外	勝坂1	深鉢胴部	-	81.8	長石、角四石、小礫	外面横位ナデ、内面ナデ	横位隆帯貼付。横位隆帯上部に隆帯による指凹区画。横位隆帯下部・区画内側に幅広角状の連続押圧施文。横位隆帯下部の連続押圧下に角押文を波状に施文	-	-
25-2	杉7 南区	遺構外	勝坂1	深鉢胴部	-	35.2	長石、雲母、角四石、小礫	内面横位ナデ	隆帯による三角状の区画。隆帯に幅広角状の連続刺突、一部に角押文が沿う	-	-
25-3	杉7 風倒木	遺構外	勝坂1	深鉢胴部	-	35.3	長石、雲母、角四石	内面横位ナデ	隆帯による区画。隆帯に幅広角押文と三角押文が沿う	-	-
25-4	杉7 風倒木	遺構外	勝坂1	深鉢胴部	-	21.0	長石、角四石、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	隆帯貼付。隆帯に沿って幅広角押文、三角押文が沿う	-	-
25-5	杉7 南区	遺構外	勝坂1	深鉢胴部	-	28.9	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	隆帯による区画、三角状か。隆帯に沿う連続爪形文。区画中央に三叉文施文	-	-
25-6	杉7 風	遺構外	勝坂2	深鉢胴部～底部	平底	246.7	長石、石英、角四石、小礫	外面ナデ、内面ナデ	隆帯による指凹状の区画。区画内縦位沈線充填	-	残存器高4.7cm、底径9.3cm、残存率底部1/2
25-7	杉7 南区	遺構外	勝坂2	深鉢口縁部	平口縁	30.7	長石、角四石、小礫	口唇部ナデ、内面ナデ	円形の窪みがある突起。突起、口縁に沿って連続爪形文施文	-	-
25-8	杉7 風倒木	遺構外	勝坂2	深鉢口縁部～胴部	平口縁	67.7	長石、石英、雲母、角四石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	隆帯による半円形、三角形の区画。隆帯上側面にキザミ施文、一部に爪形文も加える。半円形の区画内は隆帯に平行沈線が沿う。横位波状沈線、沈線間のキザミ、2列の爪形文が見られる。三角形の区画内は縦位沈線を充填。区画下部には縦位平行沈線を充填か	-	平行沈線には半裁竹管状工具の痕面を使用
25-9	杉7 風	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	19.4	長石、小礫	内面横位ナデ	隆帯を指凹状に貼付。隆帯内側・隆帯上にキザミ施文	-	-
25-10	杉7 南区	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	70.8	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	隆帯による区画の一部か。隆帯に沿ってやや爪形状の連続刺突文施文(一部は押引状)。一部の連続刺突には爪形文が沿う	-	-
25-11	杉7 風	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	32.3	長石、雲母	内面ナデ	縦位隆帯貼付。隆帯上に連続爪形文。隆帯に沿う平行沈線。平行沈線には連続刺突文と爪形状の刺突文が沿う	-	平行沈線には半裁竹管状工具の痕面を使用。胎土に雲母を多く含む。11、12同一個体
25-12	杉7 風	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	18.9	長石、雲母	内面ナデ	平行沈線による区画。区画内外にはキザミが沿う。区画内側に波状沈線を縦位に施文	-	平行沈線には半裁竹管状工具の痕面を使用。胎土に雲母を多く含む。11、12同一個体
25-13	杉7 風	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	104.1	長石、石英、雲母、小礫	内面横位ナデ	沈線による区画。区画内横位沈線充填。パネル文	-	胎土に長石と雲母を多く含む
25-14	杉7 風	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	16.1	長石、石英、角四石	内面横位ナデ	隆帯による区画。区画内縦位沈線充填	-	-
25-15	杉7 風倒木	遺構外	勝坂2	深鉢胴部～底部	平底	79.1	長石、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ、底部ナデ	沈線による区画状の文様。沈線間にキザミ施文	-	-
25-16	杉7 風倒木	遺構外	勝坂2	深鉢胴部	-	170.8	長石、小礫	内面横位ナデ	隆帯を三角状に貼付。隆帯両側面にキザミ施文。隆帯に沿う平行沈線。2条の縦位平行沈線。平行沈線間に横位沈線を充填	-	内面に光沢のある黒色の付着物が見られる
25-17	杉7 南区	遺構外	勝坂3	深鉢底部付近	屈折底	73.9	長石、石英、雲母、小礫	内面ナデ	縦位の連続状隆帯。連続状隆帯の窪み部分には連続爪形文施文	-	-
25-18	杉7 風	遺構外	加曾利E3	浅鉢口縁部	平口縁	23.3	長石、角四石、小礫	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁部上部無文。口縁部に沿う1条の沈線。沈線下部には波状の条線文施文	-	-
25-19	杉7 IVb層	遺構外	中期	深鉢口縁部	平口縁	71.5	長石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、口唇部ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	-
25-20	杉7 IVb層	遺構外	中期	深鉢胴部	-	46.1	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ後縦位ミガキ、内面横位ナデ	隆帯を横位に貼付	-	-
25-21	杉7 IVb層	遺構外	中期～後期	深鉢底部	平底	181.9	長石、石英、角四石、小礫	外面縦位ミガキ、底部ナデ(やや荒れ)、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高3.8cm、底径8.1cm、残存率底部1/1。網代直し
25-22	杉7 IVb層	遺構外	称名寺古～中段階	深鉢突起	筒状の突起	59.7	長石、角四石	外面ナデ	突起上面に孔に沿う1条の沈線。外面の沈線は文様の一部と思われる	-	-
25-23	杉7 カクラン	遺構外	称名寺古～中段階	深鉢胴部	-	20.6	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	沈線による弧状の文様。沈線間に縄文施文	LR縦位	-
26-24	杉7 南区	遺構外	称名寺古～中段階	深鉢胴部	-	34.1	長石、角四石、小礫	内面横位ナデ	弧状の2条沈線間に縄文施文	無筋L縦位・横位	胎土に角四石を多く含む。土質円盤の可能性もある
26-25	杉7 IVa一括	遺構外	称名寺中段階	深鉢口縁部	波状口縁か、突起あり	104.51	長石、石英、角四石、赤色粒子	口唇部ナデ、内面横位ミガキ	口縁部に孔のある突起あり。突起から2条1組の沈線、円形刺突が垂下。沈線による文様を施し、内側は無文、外側に縄文を施文。口縁部上部には沈線が沿い、沈線上部は無文	RL縦位・横位	-
26-26	杉7 IVa一括	遺構外	称名寺中段階	深鉢胴部	-	100.8	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ	2錠1組に縄文を施した帯状の縄文による文様。渦巻き状か	RL縦位・横位	-
26-27	杉7 一括	遺構外	堀之内1	深鉢突起	-	18.0	長石、小礫、赤色粒子	-	突起上面に沈線による同心円状の文様。円形の文様が見られる。側面片側に隆帯を波状に貼付	-	-
26-28	杉7	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	29.8	長石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	残存部外面無文。突出部内面沈線による指凹の内側に横位1列の円形刺突文	-	-
26-29	杉7 IVb層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	31.2	長石、石英、角四石、小礫	口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	2条1組の沈線による文様。一部沈線間に縄文施文	LR横位	-
26-30	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	波状口縁	89.9	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ・口唇部付近横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	残存部無文。外面に装飾が剥落した痕跡あり	-	-
26-31	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	13.2	長石、石英、小礫	内面ナデ	沈線による文様沈線間に縄文施文。円形の刺突文	LRか	-
26-32	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	51.2	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	沈線による文様	-	胎土に小礫を多く含む
26-33	杉7 カクラン	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	37.1	長石、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	2条の隆帯を縦位に貼付、U字状か。隆帯間に円形の刺突文施文。隆帯の左右に横位沈線施文	-	-
26-34	杉7 南区	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	45.8	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	隆帯を環状に貼付、隆帯上に1条の沈線を施文。破片左上には縄文のような痕跡が見られる	RLか	-
26-35	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	39.6	長石、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ後縦位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後縦位ミガキ	口縁部に沈線が見られるが、意図した文様かは不明	-	-
26-36	杉7 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	34.0	長石、小礫、赤色粒子	外面縦位・横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁部に沿う1条の沈線。縦位沈線による文様	-	-

第9表 第7次調査縄文時代土器観察表 (5)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考
26-37	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	44.0	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 弧状の縦位沈線による文様。不明瞭であるが縄文の痕跡が見られる	RLか -
26-38	杉7一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	44.7	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面縦位ナデ、内面ナデ 縦位沈線による文様	- 5mm以上の小礫を含む
26-39	杉7 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	20.6	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 縦位沈線による文様	- 下北原?
26-40	杉7 IVb層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	83.2	長石、角四石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ 縦位条線文、波状の条線文を施文	- 胎土に角四石を多く含む
26-41	杉7 カクラン	遺構外	堀之内1	注口土器把手	橋状把手	34.2	長石、小礫、赤色粒子	外面ナデ 把手上面、側面に沈線による文様。把手の付け根に凹形の刺突文施文	- 41、42同一個体
26-42	杉7 カクラン	遺構外	堀之内1	注口土器把手	橋状把手	28.7	長石、小礫、赤色粒子	外面ナデ 把手側面に沈線施文。把手の付け根に凹形の刺突文施文	- 41、42同一個体
26-43	杉7 IVb層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部～底部	平底	391.5	長石、角四石、小礫	外面縦位ミガキ、内面縦位ミガキ 横位沈線間に縄文施文	LR横位 残存器高16.7cm、底径10.9cm、残存率底部1/2。底面に刺代痕あり。外面に多量の付着物あり
27-44	杉7 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	60.9	長石、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。2条1組の沈線による文様。沈線間に僅かに縄文が見られる	RL縦位 -
27-45	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	23.7	長石、角四石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。隆帯下部に横位1条の沈線が僅かに見られる	- -
27-46	杉7一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	平口縁	37.1	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ミガキ 口縁部に沿う1条の隆帯、隆帯上キザミ施文。横位1条の沈線	- 46、47同一個体
27-47	杉7一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	38.0	長石、石英、角四石、小礫、赤色粒子	内面斜位ミガキ 2条の沈線間に縄文施文	RL縦位 46、47同一個体
27-48	杉7南区	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	76.9	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 2条1組の沈線による三角状の文様	- 胎土に小礫を多く含む。外面に黒色の付着物が見られる
27-49	杉7	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	27.9	長石、石英、角四石、小礫	外面ナデ、内面横位ナデ 2条1組の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か	LR斜位 胎土に角四石を多く含む
27-50	杉7	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	21.3	長石、石英、角四石、小礫	内面縦位ミガキ 上部に縄文施文。2条1組の沈線による文様。三角状になるか	LR横位 -
27-51	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	35.0	長石、石英、角四石	内面縦位ミガキ 沈線による文様。一部沈線間に縄文施文	RL縦位 -
27-52	杉7 表土	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	25.5	長石、石英、角四石	内面縦位ミガキ 微隆起帯による文字状の区画、交点に凹形刺突文。微隆起帯に沿う沈線。上部には僅かに縄文が見られる	LR横位・斜位 -
27-53	杉7 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢突起	突起	26.0	長石、角四石、小礫	- 内外面に沈線による文様を施した突起。外面は突起下部から1条の隆帯が垂下。突起側面に沈線による渦巻文	- -
27-54	杉7 サブトレ	遺構外	堀之内2	浅鉢口縁部、突起あり	平口縁	41.5	長石、石英、角四石	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 外面残存部無文。突起部内面に刺突文と弧状の沈線による文様施文。内面口縁部に沿う1列の刺突文。3条の沈線が口縁と突起に沿う	- -
27-55	杉7次包層	遺構外	加曾利B1	浅鉢口縁部	平口縁	36.8	長石、角四石	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 口縁に沿って4条1組の沈線を2組施文。口唇部付近にキザミが横位1条沿う。沈線間には縄文と思われる痕跡が見られる	- -
27-56	杉7 IVa一括	遺構外	後期	深鉢口縁部	平口縁	47.6	長石、角四石、小礫、赤色粒子	口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ 縄文施文	RL横位 55、56同一個体
27-57	杉7 IVa一括	遺構外	後期	深鉢胴部	-	175.8	長石、角四石、小礫、赤色粒子	内面ナデ後横位ミガキ 縄文施文	RL横位 55、56同一個体
27-58	杉7 サブトレ	遺構外	後期	深鉢胴部	-	125.4	長石、石英、雲母、角四石、小礫、赤色粒子	内面縦位ナデ 縄文施文	RL縦位 外面に黒色の付着物が多く見られる
27-59	杉7一括	遺構外	後期	深鉢胴部	-	60.1	長石、角四石、小礫、赤色粒子	外面縦位ナデ、内面縦位ミガキ 2条1組の沈線による弧状の文様	- -
27-60	杉7 北区	遺構外	後期	注口土器注口部	-	38.5	長石、赤色粒子	外面ミガキ、内面ナデ 残存部無文	- -
27-61	杉7 サブトレ	遺構外	後期	注口土器注口部	-	20.7	長石、石英、赤色粒子	外面ミガキ 残存部無文	- -

第10表 第7次調査縄文時代石器観察表

図-番号	注記	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	遺存状況	備考
22-102	杉7-1住	打製石斧	ホルンフェルス	(75.9)	74.1	20.9	128.5	刃部断片	形状不明 1号住居跡
24-1	杉7-J-34pit	打製石斧	ホルンフェルス	112.5	80.0	22.8	189.4	基部欠損	撥形 JP34
28-62	杉7-風	打製石斧	ホルンフェルス	95.3	52.2	17.2	128.8	基部欠損	短冊形
28-63	杉7-風	打製石斧	ホルンフェルス	122.8	47.3	24.2	175.6	完形	短冊形
28-64	杉7-南区	打製石斧	ホルンフェルス	(89.8)	53.1	21.8	143.6	基部欠損	短冊形
28-65	杉7次-IV層	打製石斧	ホルンフェルス	(86.8)	53.8	25.7	154.3	基部欠損	短冊形
28-66	杉7-南区	打製石斧	ホルンフェルス	(86.5)	44.0	19.2	77.1	刃部欠損	形状不明
28-67	杉7-南区	打製石斧	片状砂岩	94.5	94.5	19.5	159.7	完形	分銅形
28-68	杉7-サブトレ	打製石斧	ホルンフェルス	92.2	110.9	25.3	343.4	基部断片	形状不明
28-69	杉7-南区	石錘	砂岩	87.5	79.5	40.5	324.5	完形	上下端に打欠き
28-70	杉7南東拵	石錘	安山岩	68.9	55.0	18.4	88.2	完形	左右端に打欠き
29-71	杉7集中	敲石	閃緑岩	(87.8)	61.6	33.5	281.5	器体上半欠損	右面や下端に敲打痕有り
29-72	杉7 I vb上層	敲石	頁岩	115.3	39.9	21.3	147.9	完形	右面に敲打痕有り
29-73	杉7南東拵	磨+凹+敲石	砂岩	116.3	54.8	51.9	509.8	完形	裏面の凹みの他に痕跡多数有り
29-74	杉7一括	凹石	ホルンフェルス	(94.9)	79.5	56.5	571.2	器体下半欠損	裏面に凹み有り
29-75	杉7 南東拵	磨石	多孔質安山岩	80.5	67.5	58.5	321.5	完形	正面に磨痕?
29-76	杉7一括	砥石	砂岩	(84.8)	(91.2)	65.0	493.9	断片	裏面に凹み有り
29-77	杉7次-IV層	磨痕を有する石器	粘板岩	131.0	108.7	19.8	413.9	完形	両面に磨痕有り

## 第2節 第8次調査

中・近世と縄文時代の遺構を確認した。中・近世の遺構としては、溝状遺構2条、土坑1基、ピット9基を検出した。縄文時代の遺構はNo.1調査区で住居跡2軒、No.2調査区で住居跡2軒、土坑2基、ピット155基、その他にも遺構覆土が確認された。遺物は縄文土器、石器が出土している。遺物の総量は、コンテナ8箱分で、縄文土器の総量は50,545g、石器16,755gであった。

### 1. 中・近世

#### 1) 溝状遺構

##### 1号溝状遺構 (第30図)

No.2調査区西側で幅1～1.3m、深度約0.4mで南北方向に5.6m、調査区の南側から中ほどまで確認された。第7次調査区から続く溝である。2号溝状遺構よりも新しく、覆土から近世の遺構と判断する。当該期の遺物は出土していない。縄文土器が少量出土している。

##### 2号溝状遺構 (第30図、写真図版19)

No.2調査区西側において、南北方向に約8m確認された。調査区内では、溝の中心から東側半分(幅1.4～1.8m、深度1.6m)のみの調査になり、西側半分は調査区外の現道路下面にあたる。溝底の幅は狭く、断面はV字形に近い、薬研堀状をなすものとみられ、上幅は約4mと推定される。遺構の壁面には直径20～50cmのピットが5基認められたが、配置に規則性は認められない。覆土はしまり、粘性ともやや弱い黒褐色土で、黒色・黄褐色、赤褐色のスコリアを少量、下層には細かいローム粒子を含んでおり、中世の所産とみられる。当該期の遺物は出土していない。

#### 2) 土坑・ピット

##### 1号土坑 (第30図、写真図版20)

No.2調査区のほぼ中央にある256×230cm、深さ67cm不整円形の土坑で、底面は凹凸がある。出土遺物はなく、確認状況から中世以降の遺構と判断する。

##### ピット (第30、35～37図、第11表)

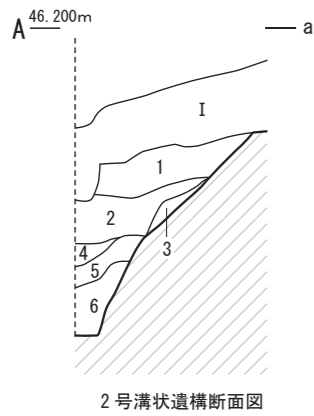
No.2調査区でピット9基が確認された。長軸約45～130cm、深さは15～40cm前後と浅く、配置は不規則である。覆土はしまり・粘性が弱い黒褐色土を主体としており、いずれも中世以降の遺構と判断する。

### 2. 縄文時代

#### 1) 住居跡

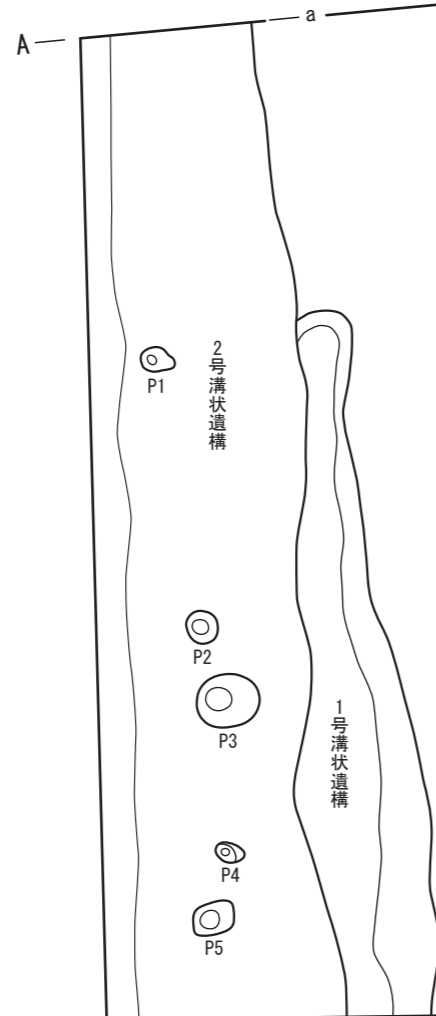
No.1調査区では1×9.3mのトレンチ内で住居跡2軒、No.2調査区においても、平面形態を明瞭には確認できなかったものの、遺物の出土状況及び土層確認状況から最低2軒の





- 【2号溝状遺構】
- 1層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア8%、中の黒色スコリア8%、大の黄褐色スコリアを8%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
  - 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黒色スコリア8%、中の黄褐色スコリアを8%含む。しまり弱く、粘性弱い。
  - 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黒色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。細かいローム粒子。
  - 4層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。細かいローム粒子。
  - 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黒色スコリア2%、小の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。
  - 6層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黒色スコリア5%、小の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや弱く、粘性やや弱い。細かいローム粒子。

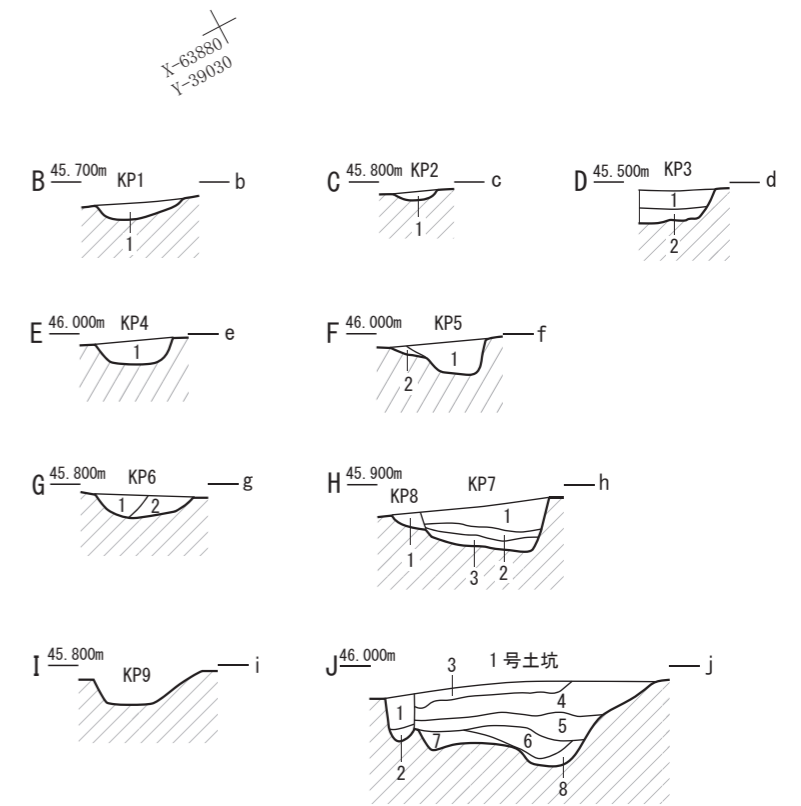
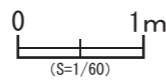
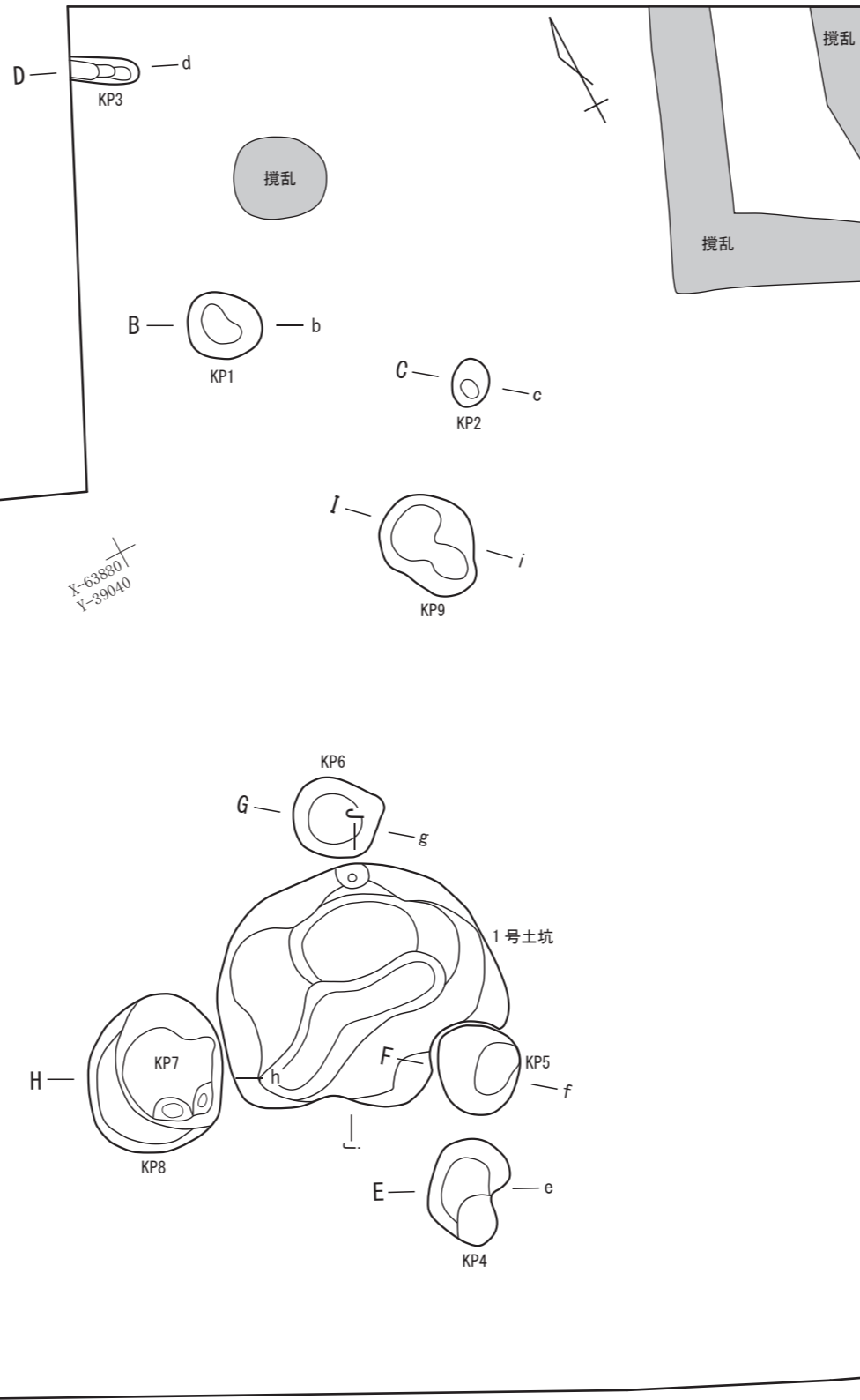
2号溝状遺構断面図



単位：cm

No.	長軸	深さ
P1	22	48
P2	20	35
P3	38	34
P4	18	28
P5	24	46

2号溝状遺構内ピット計測表



土坑・ピット断面図

- 【KP1 ~ KP3】
- 1層 黒色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。小の黒色スコリア2%含む。しまり、粘性ともやや弱い。
  - 2層 黒褐色土 1層に粒子を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 【KP4、KP5】
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア、黒色スコリア各5%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。2層暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。しまり、粘性普通。
- 【KP6】
- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各3%、中の黒スコリア5%を含む。ローム粒子、宝永火山灰含む。しまり、粘性弱い。
  - 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア5%、小の黒色スコリア2%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 【KP7】
- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の黒スコリア3%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
  - 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の黒スコリア5%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
  - 3層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。IV層のブロックを含む。しまり、粘性普通。
- 【KP8】
- 1層 極暗褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各5%、中の黒スコリア3%を含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 【1号土坑】
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各3%を含む。しまり、粘性とも普通。
  - 2層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%、ローム粒子含む。しまり、粘性ともやや弱い。
  - 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各3%、ロームブロック含む。しまり、粘性とも普通。
  - 4層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各3%含む。しまり、粘性とも普通。
  - 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%、小の黒色スコリア1%、IV層のブロック含む。しまり、粘性とも普通。
  - 6層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各2%を含む。ロームブロック含む。しまり、粘性ともやや弱い。
  - 7層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、黒色スコリア各5%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。
  - 8層 褐色土 ローム再堆積土

第30図 第8次調査No.2 調査区中・近世遺構平断面図

住居跡を確認した。出土した遺物の時期は後期を主体とするが、少量ではあるが中期もあり、勝坂式、加曾利E式、称名寺式、堀之内式、加曾利B1式に分類される。

### 1号住居跡 (第32図、写真図版20)

No.2 調査区南西側に位置する。確認面から約20cmの掘り込みを持つ。覆土は基本土層IV a、IV b層と類似し、少量の炭化物を含み、縄文土器、石器を多く包含する。埋甕1基、ピットが確認された。埋甕の東側には僅かながら硬化面が認められた。ピットは本遺構に帰属するものか判断が難しいが、住居跡の範囲に10基程度確認されているが、比較的浅いものが多く、深さ40cmを超えるものは2基のみである。埋甕は浅鉢の胴部～底部部分が逆位に埋められていた。このほか、調査区南側で石皿2点がまとまって出土している。

本遺構は第7次調査1号住居跡と同一遺構である可能性が非常に高く、平面楕円形を呈するものとみられる。本調査区では南北約4m、東西約4.6mの規模で確認された。出土遺物から縄文時代後期堀之内式期と判断される。

#### 遺物 (第38～42図、第12・13・21表、写真図版24～27)

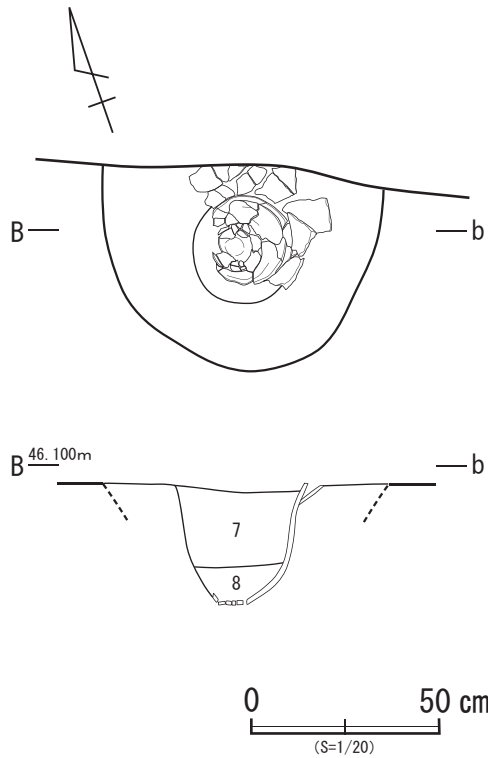
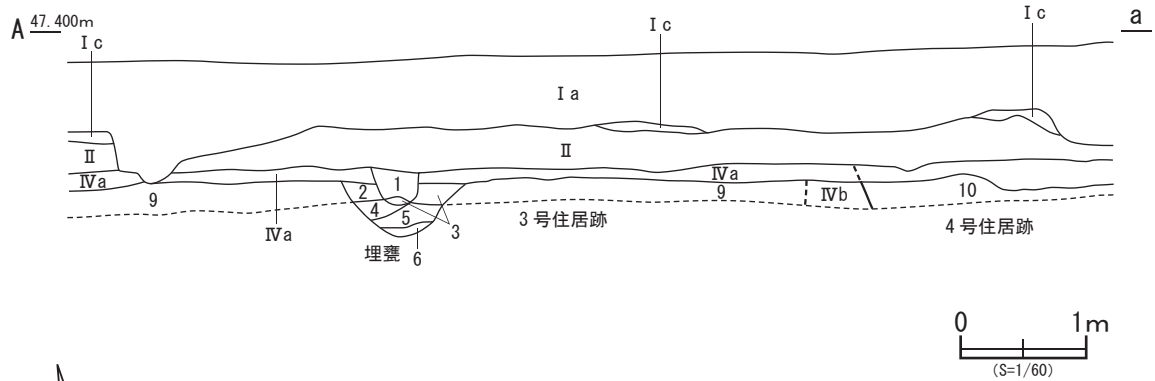
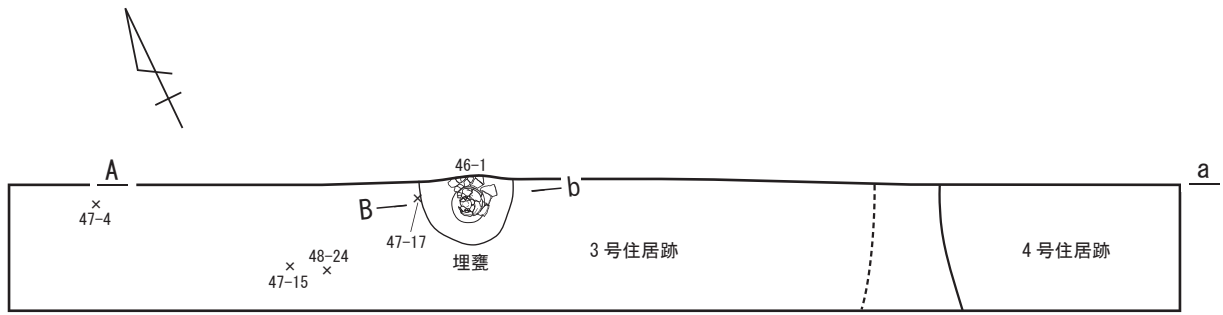
出土した遺物は土器と石器である。勝坂式、称名寺式も少量含むが、堀之内式が主体である。器形としては深鉢が主であるが、浅鉢もみられる。出土資料のうち土器65点、石器は7点を掲載した。

4は埋甕で、中期から後期の深鉢。残存部は無紋で底部に網代痕は所々残っているものの、擦り消された痕跡があり一部は上から粘土を被せている。胎土に小礫を多く含む。7は4の埋甕掘方から出土した。堀之内1式の深鉢で、口縁に粘土をねじった様な形状の突起がある。3か所穴があり、縄文施文。2条の弧状の沈線がある。33は堀之内2式の深鉢で、口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。波頂部に細長い貼付文。貼付文上に刺突文施文。胴部には弧状の沈線などによる文様。内面波頂部に文様あり、突起上面には沈線による渦巻文。円形の深い窪みが2か所あり、1か所は内側からの穿孔で外面に貫通している。胎土に小礫を多く含む。1号住33と2号住17は同一個体の可能性がある。55は、残存部無文であるが底部に網代痕あり。内側に幅1cmの長方形の工具で擦った様な痕跡が2cm程見られる。

69はホルンフェンス製の打製石斧、70は砂岩製の上下端に打欠きのある石錘、71はホルンフェンス製の磨石、72は安山岩製の砥石である。

### 2号住居跡 (第32図、写真図版21、22)

No.2 調査区中央からやや東寄りに位置する。明瞭な掘り込みは確認できなかったが、少量の炭化物を含む黒褐色土の覆土が確認された。埋甕1基、ピットが確認された。埋甕は無文の深鉢胴部を埋設しており、周辺には焼土の堆積がみられ、炉址とみられる。支柱穴となるようなピットは認められないが、調査区を東側に一部拡張した付近にかけてピットがやや集中している。ただし、南西側の1号住居跡と一部重複しているものとみられ、ピットの帰属の判別は難しい。平面形は東西軸約5.8m、南北軸約6mの楕円形とみられ、南側に1.5～2m程の張出し部を持つ柄鏡形を呈する可能性が考えられる。出土遺物から縄文時代後期中葉と判断される。調査区東壁では他にも遺構覆土とみられる土層が観察され、複数の遺構が重複する可能性がある。

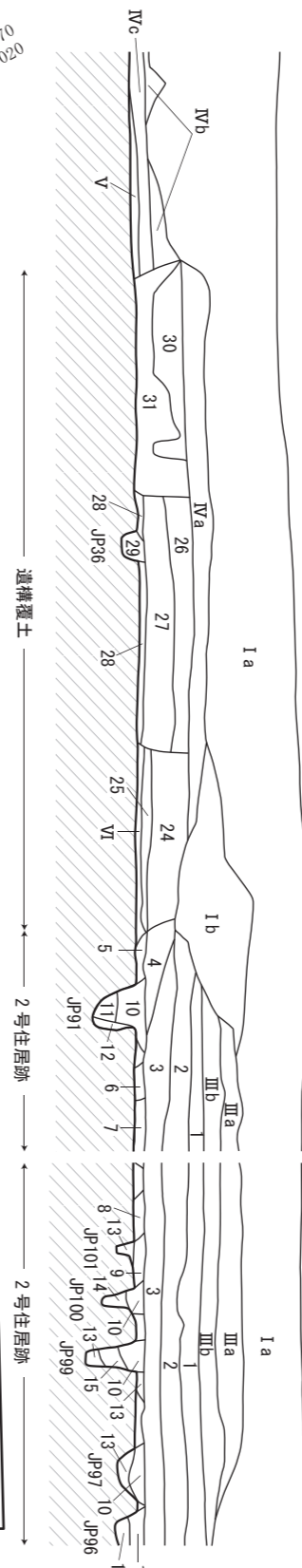
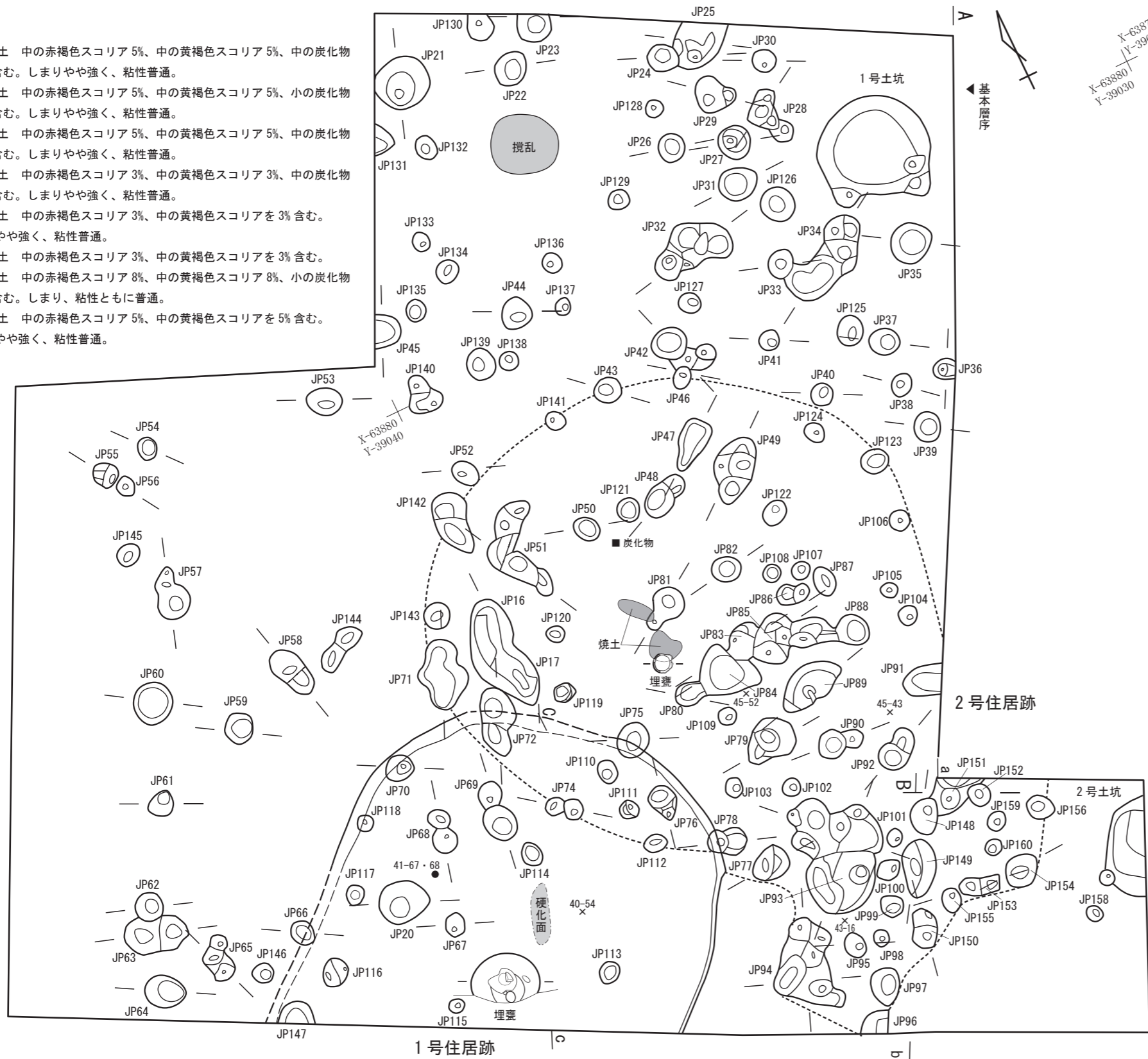


- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黒色スコリア各3%を含む。しまり、粘性ともやや弱い。中世ビットの可能性あり。
- 【3号住居跡】**
- 2層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 4層 暗褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 7層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア1%、小の黄褐色スコリア1%、中の炭化物を含む。しまり、粘性とも普通。壙内土層。
- 8層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%、中の炭化物を含む。しまり、粘性ともに普通。壙内土層。
- 9層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各1%を含む。しまり、粘性ともやや強い。
- 【4号住居跡】**
- 10層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア各3%、炭化物を含む。しまり、粘性とも普通。

第31図 第8次調査No.1 調査区縄文時代遺構平断面図

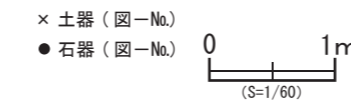
【遺構覆土】

- 24層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 25層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を1%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 26層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 27層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 28層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 29層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。
- 30層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黄褐色スコリア8%、中の炭化物を3%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 31層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。



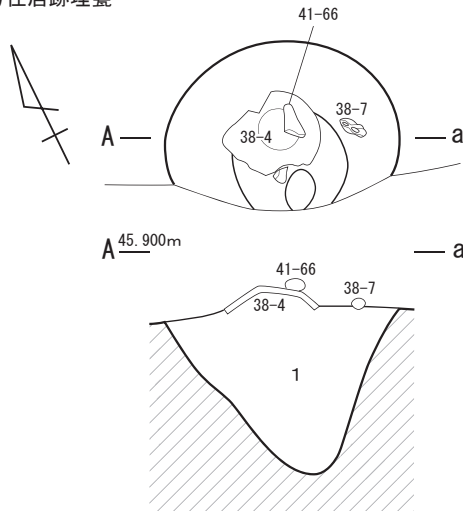
- 【2号住居跡】
- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア8%、中の黄褐色スコリア8%、中の炭化物を2%含む。しまり、粘性ともに普通。
  - 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 5層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、ローム漸移層を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 【JP91. 96. 97. 99 ~ 101】
- 10層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 11層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 12層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 6層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、ロームブロックを含む。
  - 7層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。
  - 8層 黒褐色土 しまりやや強く、粘性普通。
  - 9層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 13層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 14層 褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
  - 15層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。

- 【1号住居跡】
- 1層 褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、極小の炭化物を含む。しまり、粘性ともにやや弱い。
  - 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリア2%、極小の炭化物を含む。しまり普通、粘性やや弱い。
  - 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、極小の炭化物を含む。しまり、粘性ともに普通。
  - 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリア2%、中の炭化物を含む。しまりやや強く、粘性普通。



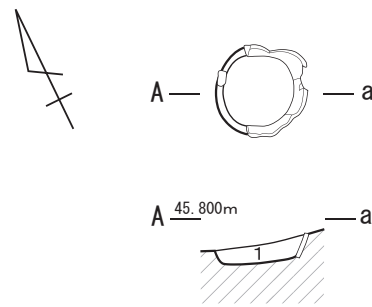
第32図 第8次調査No.2調査区縄文時代遺構平面断面図

1号住居跡埋甕

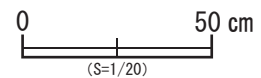


1層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに2%含む。炭化物を含む。しまりやや強く、粘性普通。

2号住居跡埋甕



1層 褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに5%含む。焼土、炭化物を含む。しまり普通、粘性やや弱い。



第33図 第8次調査1・2号住居跡埋甕平断面図

遺物（第43～45図、第13～15・21表、写真図版27～29）

出土した土器は堀之内式を主体とする。器形は深鉢が大多数であるが、注口土器も出土している。土器52点、石器1点を図化掲載した。

6は堀之内1式の深鉢で、突起部に貫通する孔が1か所ある。孔の周囲に沈線によるC字状の文様。口縁に沿って隆帯が巡ると思われ、隆帯上に刺突文施文。8も堀之内1式の深鉢で、環状の貼付文。貼付文の上下に2条ずつ隆帯を貼付、隆帯上に押圧を加える。隆帯間には沈線による文様が見られる。17は口唇部に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。隆帯上に8字状の貼付文2ヶ所見られる。1か所の貼付文上に突起1組作出。2条1組の沈線による文様。胎土に小礫を多く含む。外面に黒色の付着物は微量見られる。1号住居33と2号住居17は同一個体の可能性がある。24は堀之内2式の深鉢で、横位沈線施文後、2条1組の沈線による三角状の文様施文。52は加曾利B1式の注口土器で、口縁に沿って1条の隆帯を貼付し、隆帯上にキザミ施文。7条1組（一部2条1組）の条線による文様。底面に網代痕あり。

### 3号住居跡（第31図、写真図版18）

No.1 調査区西側を中心に、遺物がまとまって出土しており、少量の炭化物を含む黒褐色土の覆土が確認された。また埋甕1基が確認され、称名寺式の底部のある深鉢形土器がほぼ完形で正位の状態で埋設されていた。No.1 調査区は調査深度を現状地盤から1.2mまでとしたため、住居の掘り方や、ピットの有無は確認していない。後期の住居跡とみられる。

遺物（第46～48図、第15・16表、写真図版29・30）

本遺構からの出土土器は後期を主体とし、称名寺式、堀之内式、加曾利B1式の深鉢、浅鉢がみられる。図化できたものは26点である。

1は埋甕の称名寺式の深鉢で器高50cm、帯縄文と無文帯によりS字状文様をなす。

### 4号住居跡（第31図、写真図版18）

No.1 調査区東側に遺構覆土の落ち込みを確認した。今回の調査は建物基礎が現状地盤よ

り1.2m以内で収まることから覆土除去を行わず、平面プランの確認に留め、現状保存とした。周辺状況から竪穴住居跡の可能性が高い。

## 2) 土坑 (第32・34図、写真図版23)

### 1号土坑

No.2調査区の北東側で確認された。平面は不整円形で規模は1.2×1.3m、深さ0.7m。覆土上層から堀之内1、2式の深鉢等の土器片が出土した。覆土中には炭化物を含む。

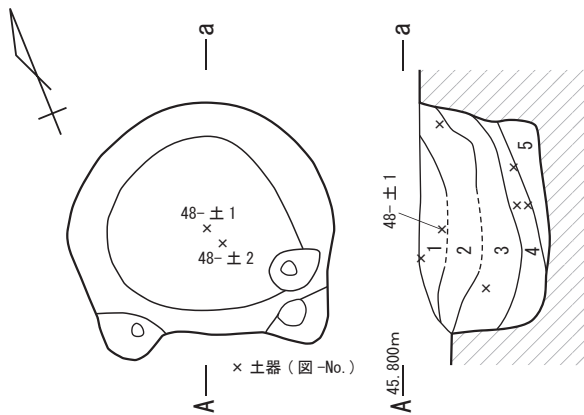
### 2号土坑

No.2調査区の南東拡張部で確認された。一部は調査区外となっているが、調査範囲の中で確認できた規模は1.25×0.5m、深さ1mを測る。

## 3) ピット (第32・35~37・48図、第11表、写真図版23・29・50)

141基のピットが確認された。この中には住居跡に伴うものも含まれるものとみられるが、判別が難しいことから、縄文時代ピットとして報告する。規模は軸長20~153cm、深さは12~82cmであり、形も不整形なものも多い。縄文土器の小破片を伴うピットもあるが、大半は遺物を伴わない。覆土はしまり・粘性があり、炭化物を含むものが多い。

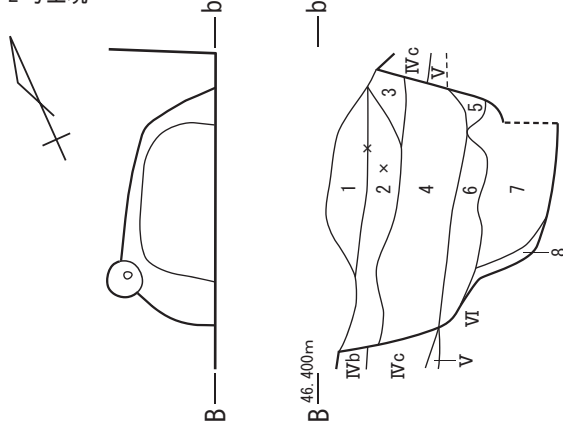
1号土坑



#### 【1号土坑】

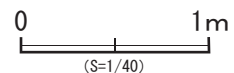
- 1層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア、大の黄褐色スコリア、中の炭化物をともに2%含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、極小の黄褐色スコリア1%、小の炭化物1%を含む。しまりややあり、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリア、炭化物をともに2%含む。しまりややあり、粘性普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、小の炭化物2%を含む。しまりややあり、粘性普通。
- 5層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、小の炭化物2%を含む。しまりややあり、粘性普通。

2号土坑

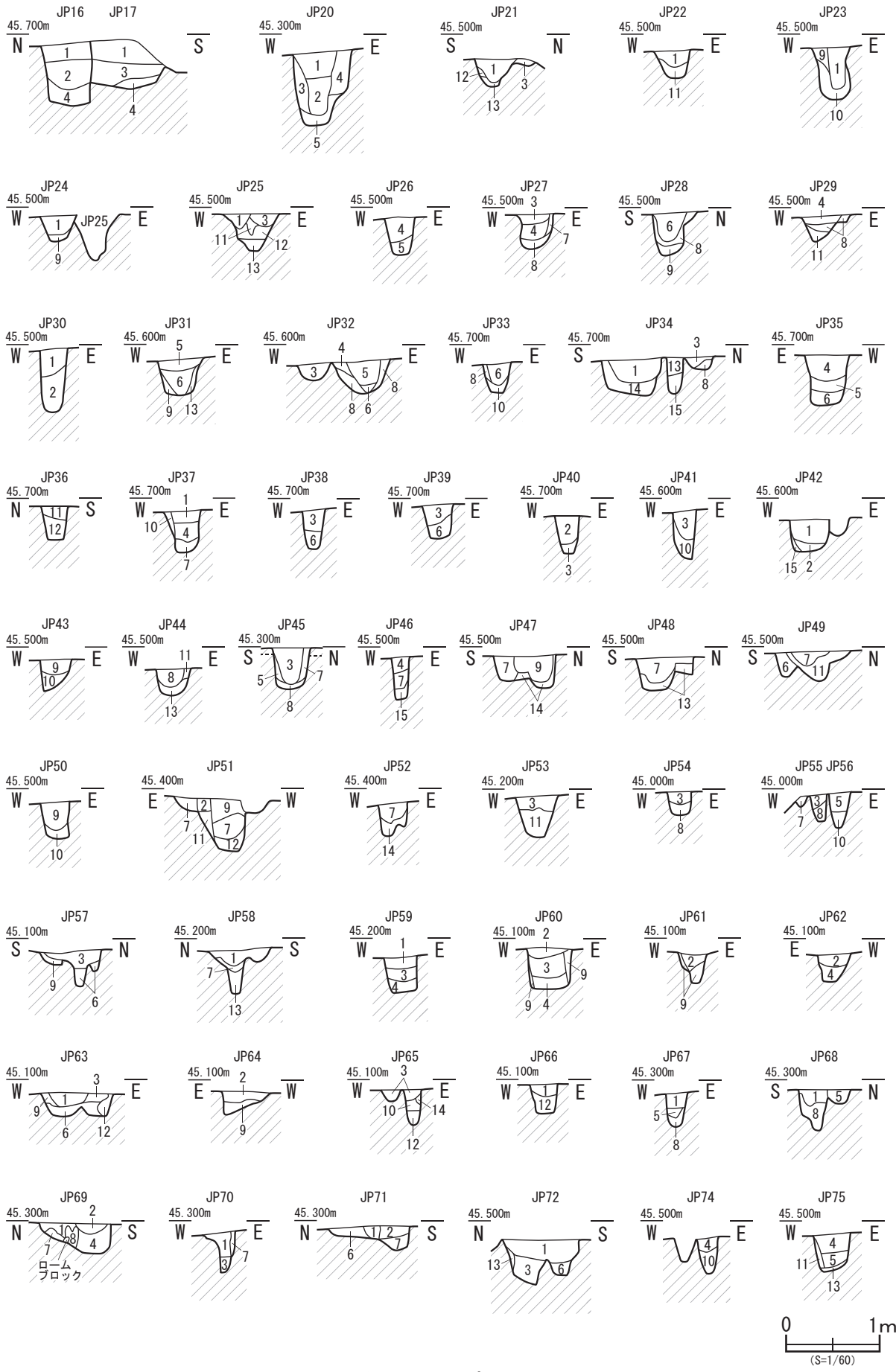


#### 【2号土坑】

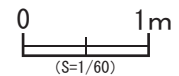
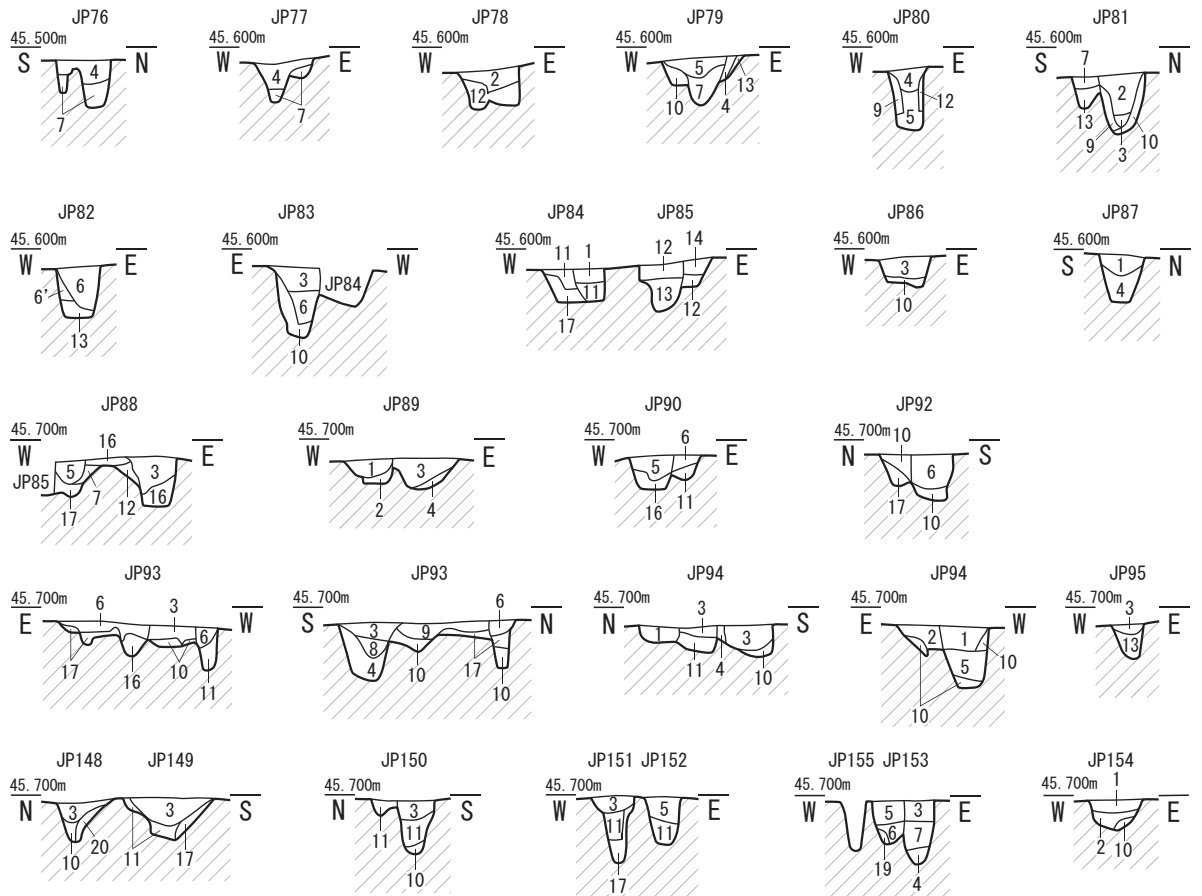
- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに2%含む。しまり、粘性ともにやや弱い。
- 2層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに2%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 3層 黒褐色土 極小の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに1%含む。しまり、粘性ともに普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、小の炭化物2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア5%、大の黄褐色スコリア5%、小の炭化物2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 7層 極暗褐色土 大の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに15%含む。しまり強く、粘性普通。
- 8層 褐色土 中の赤褐色スコリア、黄褐色スコリアをともに3%含む。しまり強く、粘性普通。



第34図 第8次調査1・2号土坑平断面図



第35図 第8次調査ピット断面図(1)



【JP16、17】

- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、炭化物を斑点状に含む。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、ローム粒子、極大の炭化物を含む。しまり、粘性ともに普通。
- 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を含む。
- 4層 褐色土 ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。

【JP20】

- 1層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黄褐色スコリア3%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、中の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 3層 暗褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黄褐色スコリア5%、ローム粒子を含む。しまり普通、粘性普通。
- 4層 褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 暗褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、ロームブロックを含む。しまり普通、粘性普通。

【JP21～30】

- 1層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2～5%、中の黄褐色スコリア2～5%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 2層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%を含む。しまり、粘性ともやや強い。
- 3層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3～5%、小の黄褐色スコリア3～5%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、中の炭化物を1%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、中の炭化物を1%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア3%、大の黄褐色スコリア3%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 7層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 8層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5～8%、中の黄褐色スコリア5～8%、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 9層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、V層を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 10層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3～5%、小の黄褐色スコリア3～5%、V層、ロームブロックを含む。しまり、粘性ともに普通。
- 11層 褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリア2%、V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 12層 灰褐色土 小の赤褐色スコリア2～5%、小の黄褐色スコリア2～5%、V層を含む。しまり、粘性ともに普通。
- 13層 灰褐色土 小の赤褐色スコリア2～5%、小の黄褐色スコリア2～5%、V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。

【JP31～41】

- 1層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア3%、大の黄褐色スコリア3%、小の炭化物を1～2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 2層 黒褐色土 大の赤褐色スコリア5%、大の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 3層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア3～5%、中の黄褐色スコリアを3%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 4層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、極小～小の炭化物1～2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 5層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア3～5%、小の黄褐色スコリア3～5%、小～中の炭化物1～2%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 6層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア2～5%、小の黄褐色スコリア2～5%を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 7層 黒褐色土 中の赤褐色スコリア2%、中の黄褐色スコリアを2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 8層 褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、V層、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 9層 黒褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黄褐色スコリア5%、ローム粒子を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 10層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリアを5%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 11層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア5%、中の黄褐色スコリア5%、小の炭化物を2%含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 12層 褐色土 小の赤褐色スコリア3%、小の黄褐色スコリア3%、V層を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 13層 灰褐色土 小の赤褐色スコリア5%、小の黄褐色スコリア5%、ロームブロックを含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 14層 灰褐色土 小の赤褐色スコリア2%、小の黄褐色スコリア2%、V層を含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 15層 灰褐色土 中の赤褐色スコリア3%、中の黄褐色スコリア3%、ロームブロックを多量に含む。しまり、粘性ともに普通。

第36図 第8次調査ピット断面図(2)





第11表 第8次調査縄文時代ピット計測表

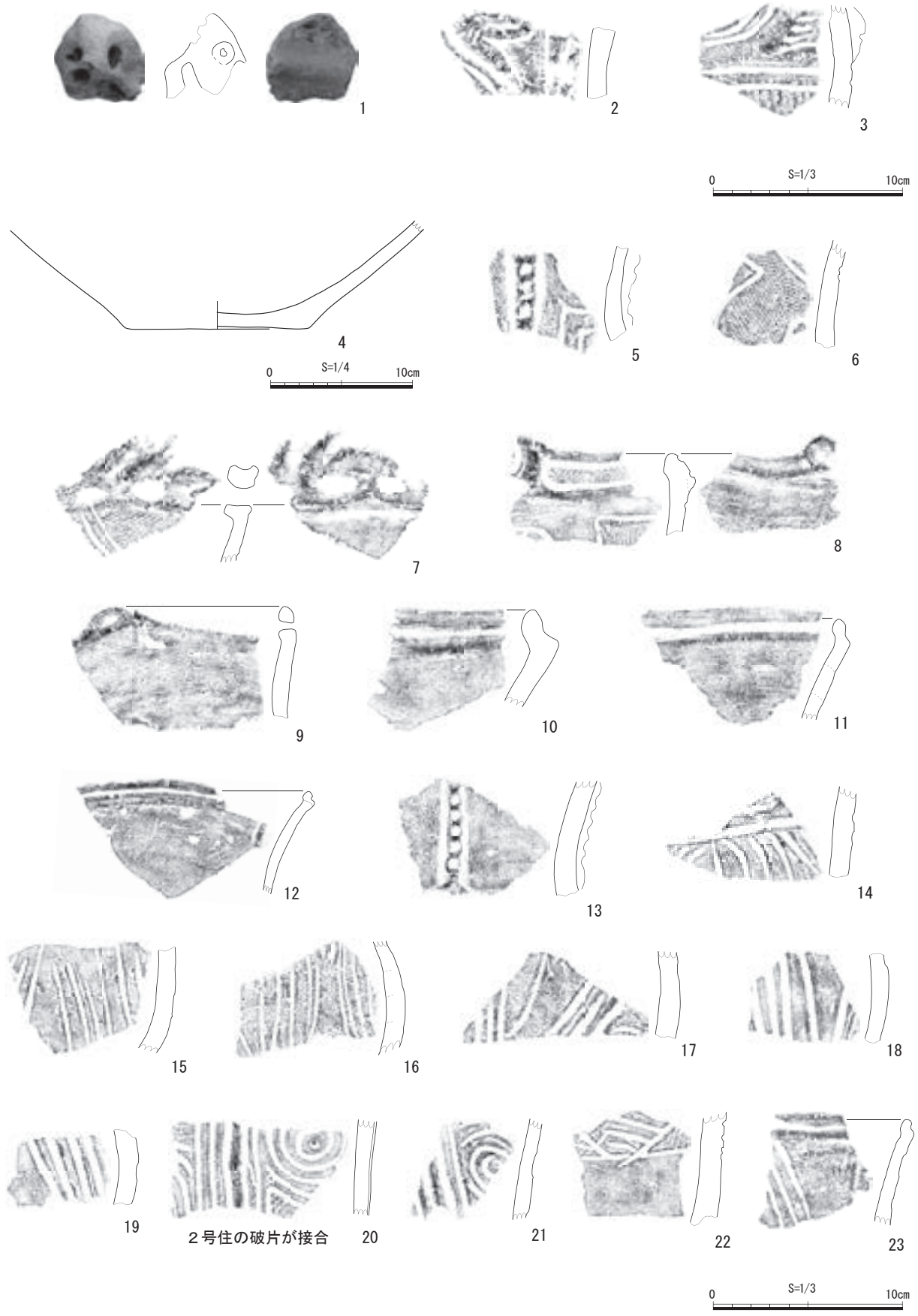
単位：cm

遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP16	70	55	67
JP17	85	57	53
欠番			
欠番			
JP20	66	56	82
JP21	68	(68)	29
JP22	44	42	30
JP23	43	(28)	56
JP24	42	37	27
JP25	60	(56)	49
JP26	36	34	40
JP27	45	42	37
JP28	74	37	45
JP29	50	48	28
JP30	32	30	68
JP31	52	42	39
JP32	100	58	35
JP33	39	32	33
JP34	123	48	41
JP35	52	50	54
JP36	30	(28)	37
JP37	42	36	46
JP38	32	26	43
JP39	40	35	37
JP40	30	30	40
JP41	30	30	52
JP42	51	47	36
JP43	36	36	34
JP44	40	40	28
JP45	40	(23)	44
JP46	71	(23)	45
JP47	70	40	36
JP48	63	34	34
JP49	92	50	33
JP50	38	30	38
JP51	127	43	58

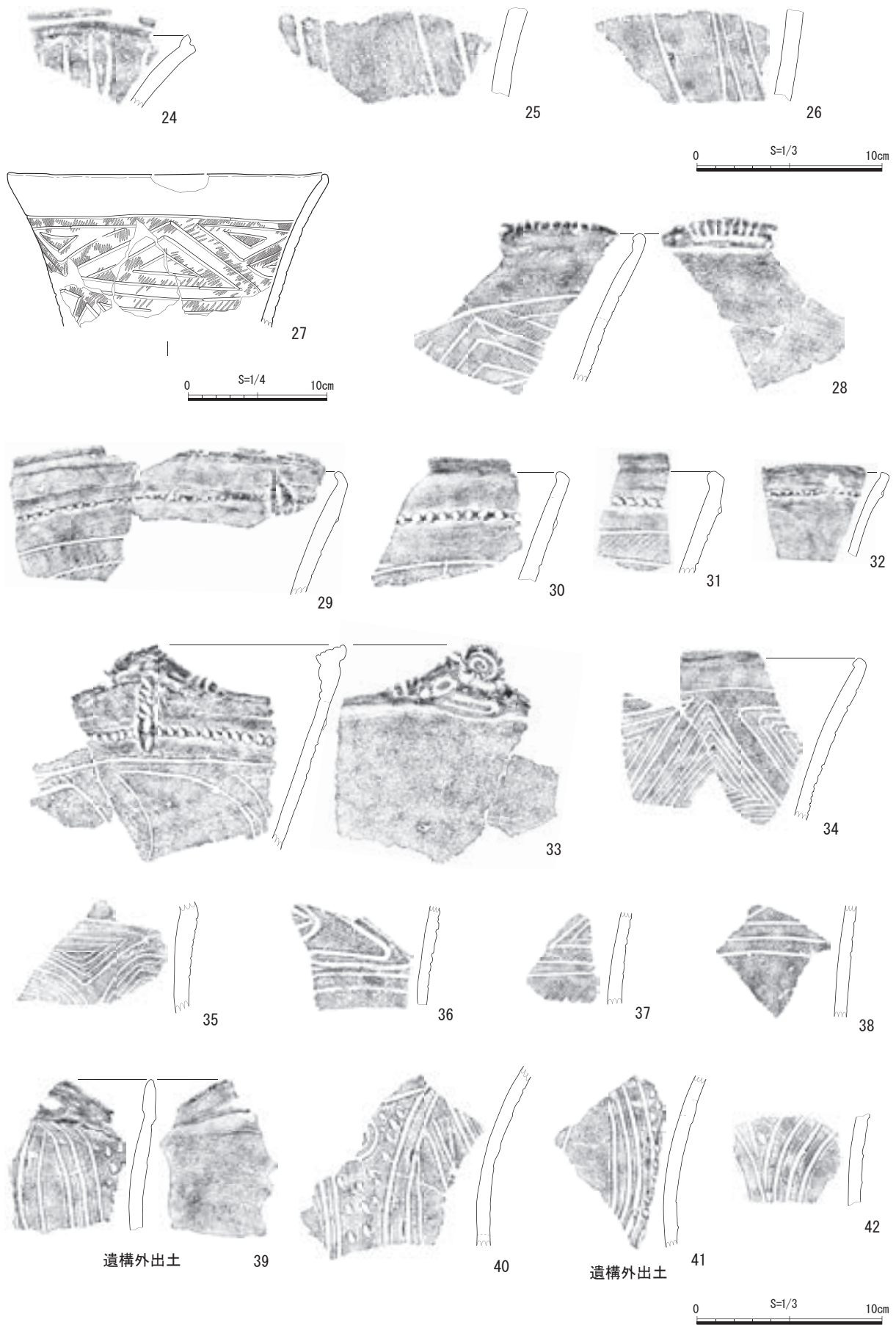
遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP52	42	31	35
JP53	48	36	44
JP54	30	25	25
JP55	32	30	28
JP56	26	24	37
JP57	59	40	38
JP58	68	30	49
JP59	40	40	38
JP60	57	52	43
JP61	34	30	33
JP62	36	36	30
JP63	82	44	25
JP64	54	43	23
JP65	60	30	39
JP66	34	28	30
JP67	30	26	36
JP68	56	32	44
JP69	78	40	34
JP70	40	36	44
JP71	90	68	26
JP72	88	45	48
欠番			
JP74	48	26	39
JP75	47	40	41
JP76	46	34	37
JP77	50	40	34
JP78	50	36	34
JP79	69	54	39
JP80	39	34	50
JP81	60	45	48
JP82	41	37	40
JP83	50	32	56
JP84	80	(52)	28
JP85	67	42	42
JP86	43	28	24
JP87	40	38	38

遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP88	98	43	38
JP89	98	50	24
JP90	60	37	26
JP91	(40)	38	37
JP92	60	42	37
JP93	153	105	47
JP94	110	75	50
JP95	34	27	28
JP96	(40)	(24)	20
JP97	50	39	26
JP102	24	24	28
JP103	26	24	18
JP104	26	24	38
JP105	24	20	31
JP106	28	27	33
JP107	25	24	30
JP108	29	27	19
JP109	24	24	38
JP110	30	26	61
JP111	24	23	19
JP112	31	23	27
JP113	32	26	21
JP114	34	26	14
JP115	20	20	36
JP116	38	32	49
JP117	28	24	15
JP118	23	22	38
JP119	40	25	27
JP120	25	21	33
JP121	34	33	
JP122	34	27	24
JP123	36	32	24
JP124	28	24	41
JP125	40	34	18
JP126	46	44	21
JP127	32	32	44

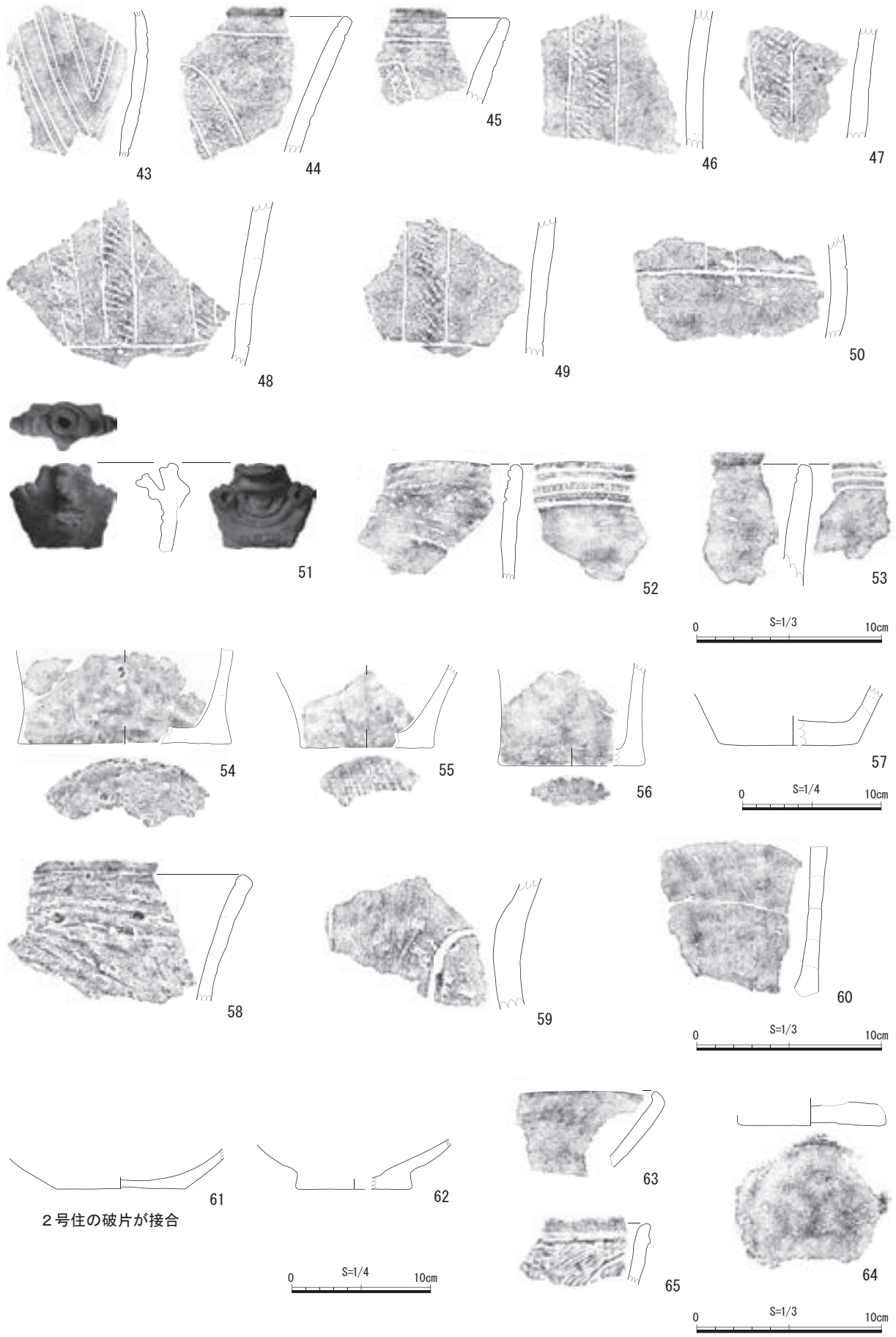
遺構番号	長軸	短軸	深さ
JP128	24	23	29
JP129	30	26	32
JP130	36	(30)	28
JP131	(40)	(26)	26
JP132	32	26	12
JP133	26	22	41
JP134	32	28	16
JP135	28	28	30
JP136	28	27	17
JP137	23	21	31
JP138	26	25	24
JP139	40	36	19
JP140	50	45	43
JP141	28	24	33
JP142	84	44	25
JP143	40	40	18
JP144	66	28	39
JP145	36	34	24
JP146	30	26	20
JP147	44	(30)	12
JP148	53	40	33
JP149	76	42	32
JP150	50	30	43
JP151	30	29	52
JP152	33	31	37
JP153	50	22	52
JP154	30	28	24
JP155	32	26	39
JP156	38	30	32
欠番			
JP158	23	20	33
JP159	28	24	28
JP160	24	21	36



第38図 第8次調査1号住居跡出土遺物(1)



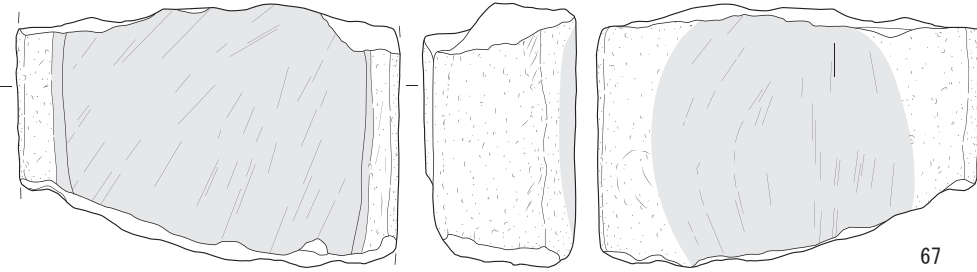
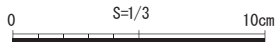
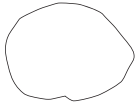
第39図 第8次調査1号住居跡出土遺物(2)



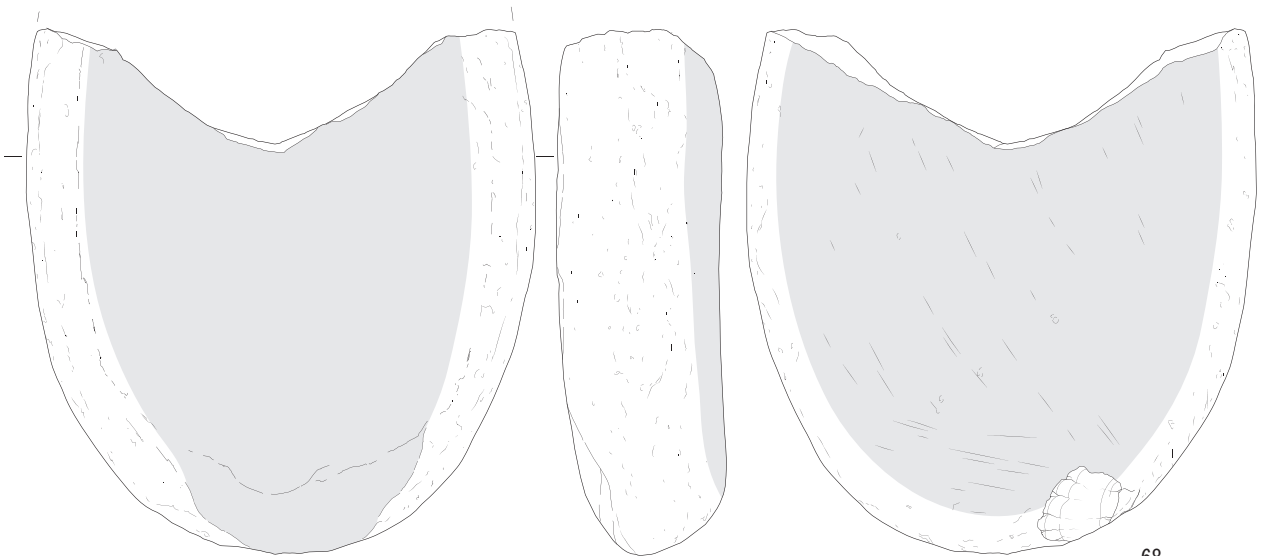
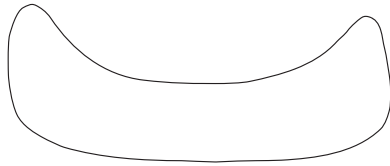
第40図 第8次調査1号住居跡出土遺物(3)



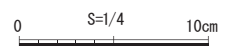
66



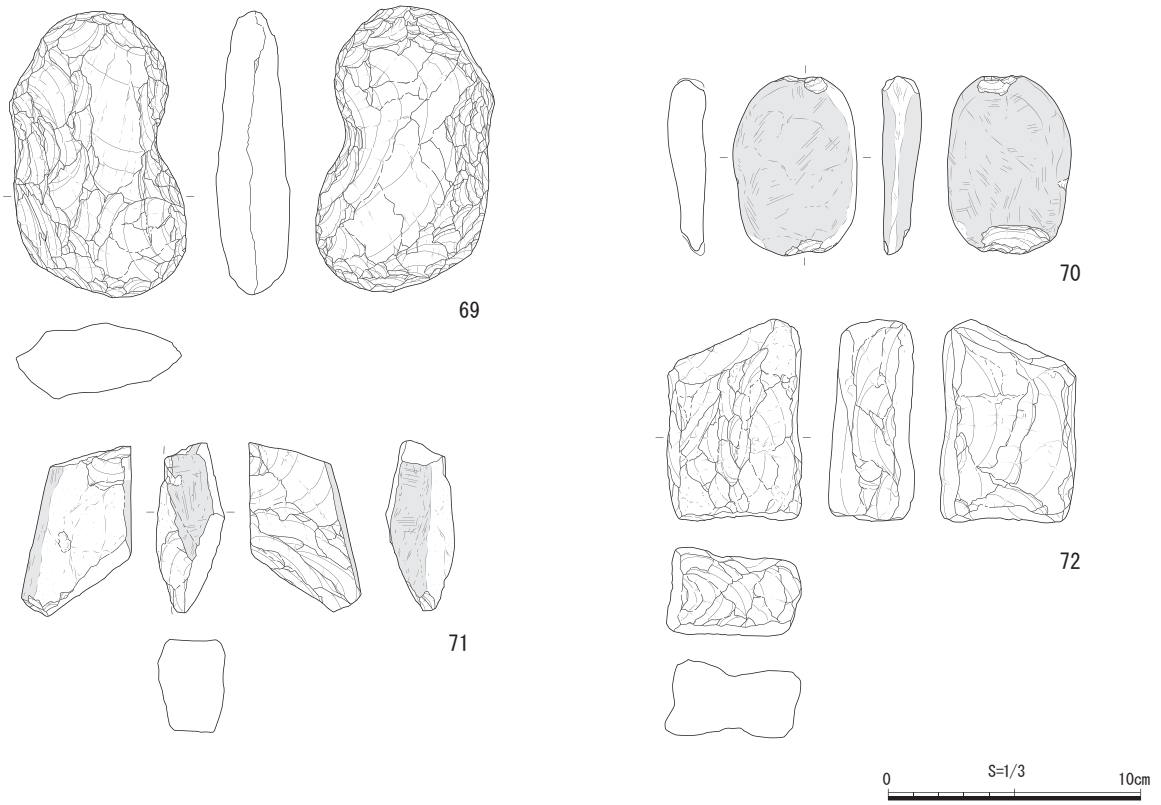
67



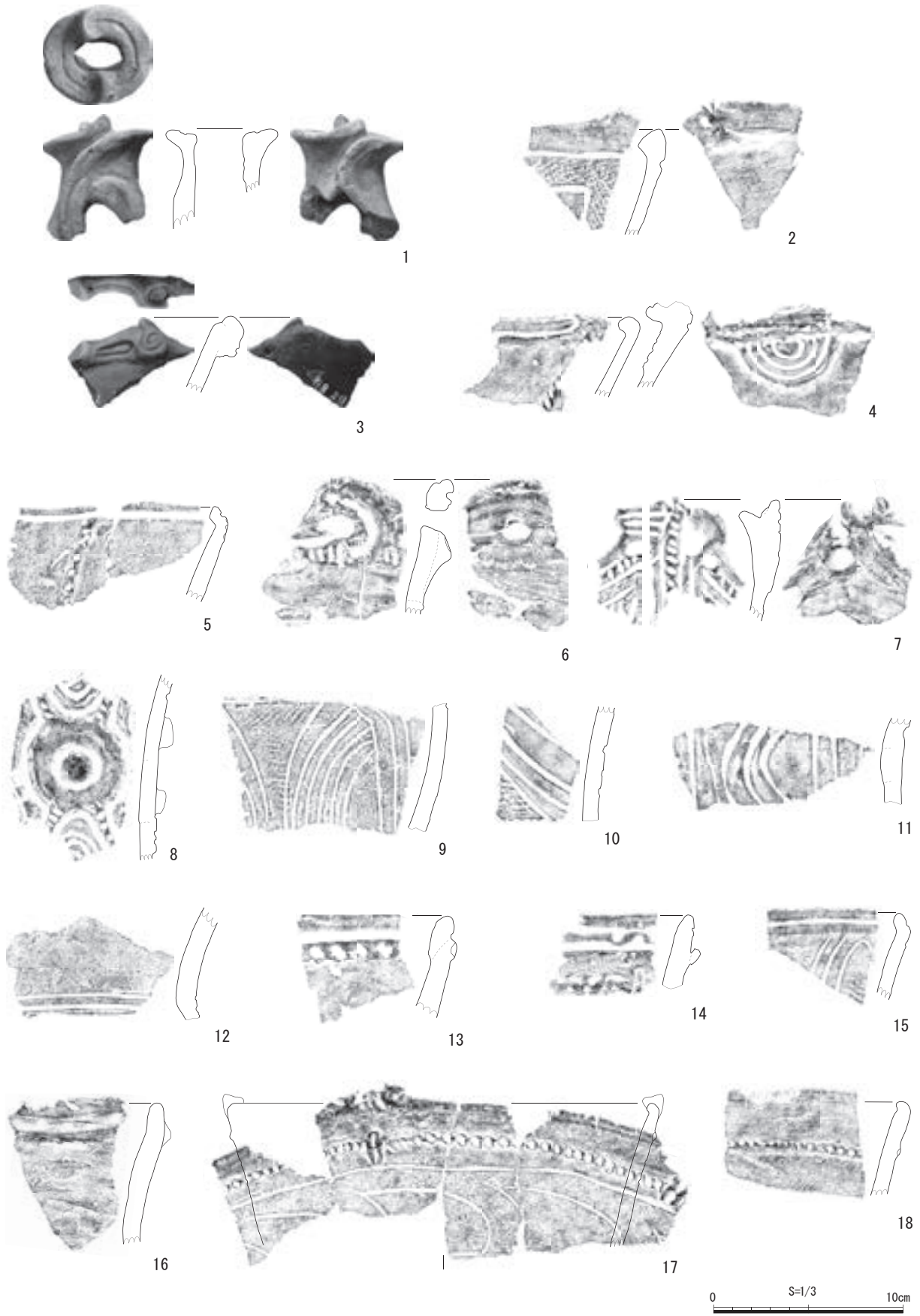
68



第41図 第8次調査1号住居跡出土遺物(4)

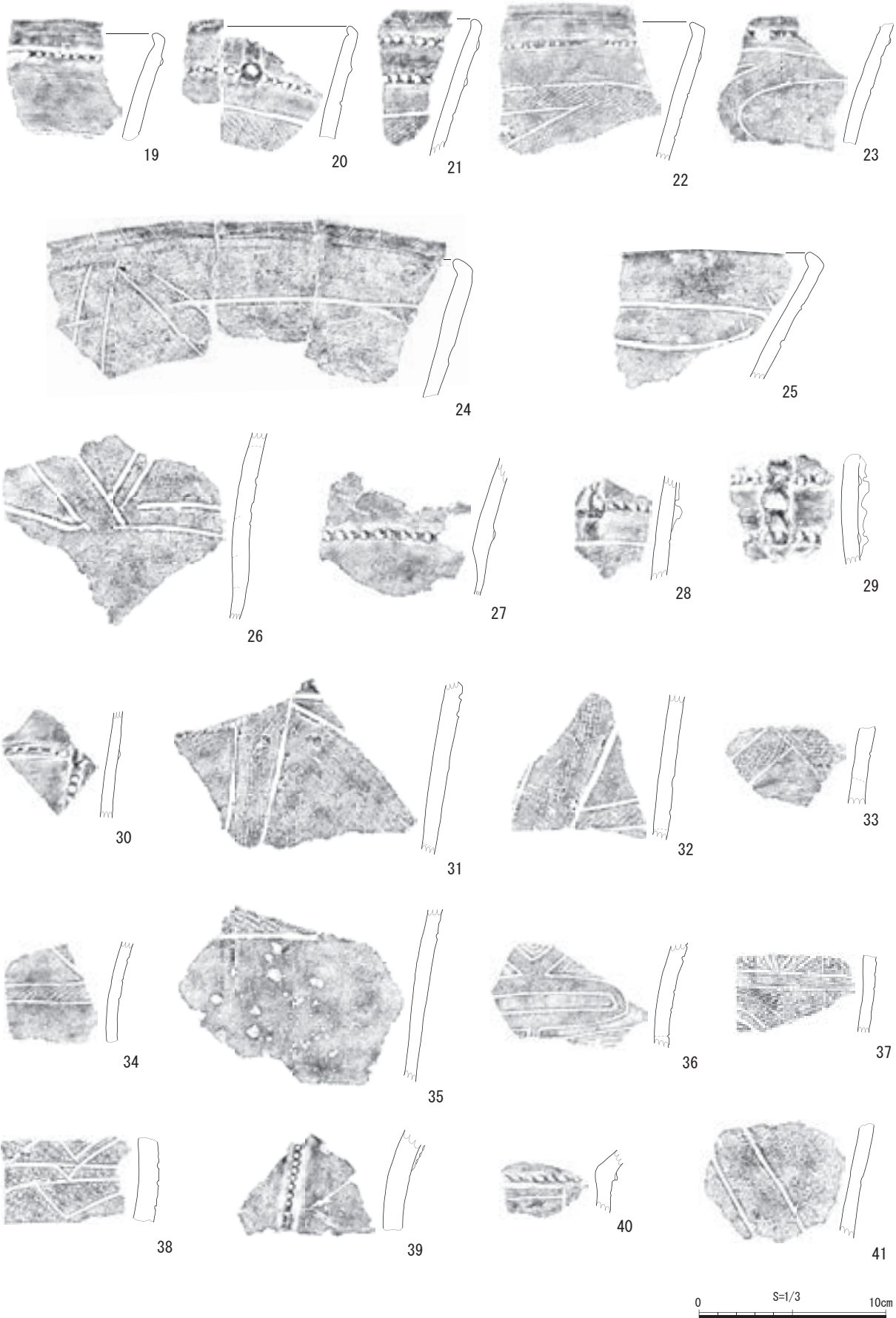


第42図 第8次調査1号住居跡出土遺物(5)

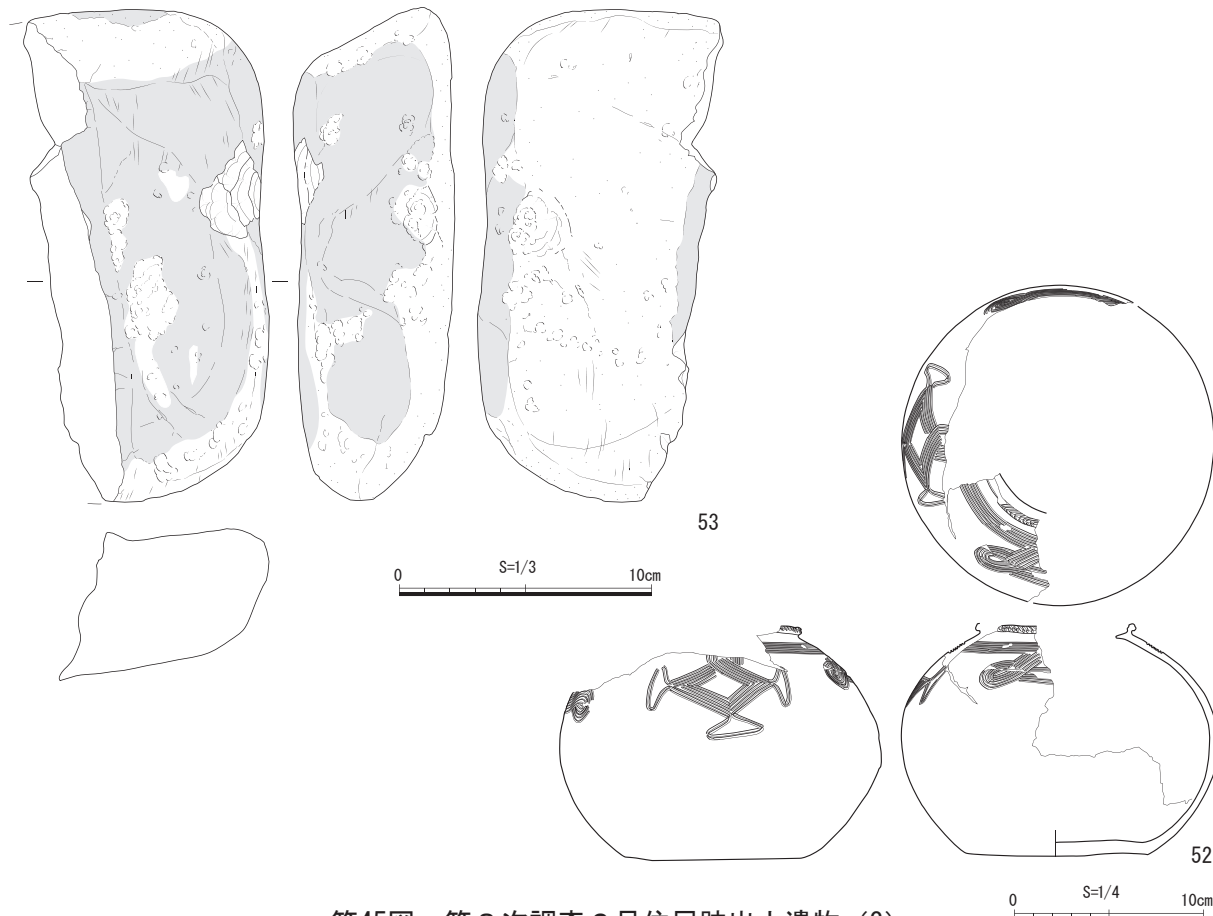
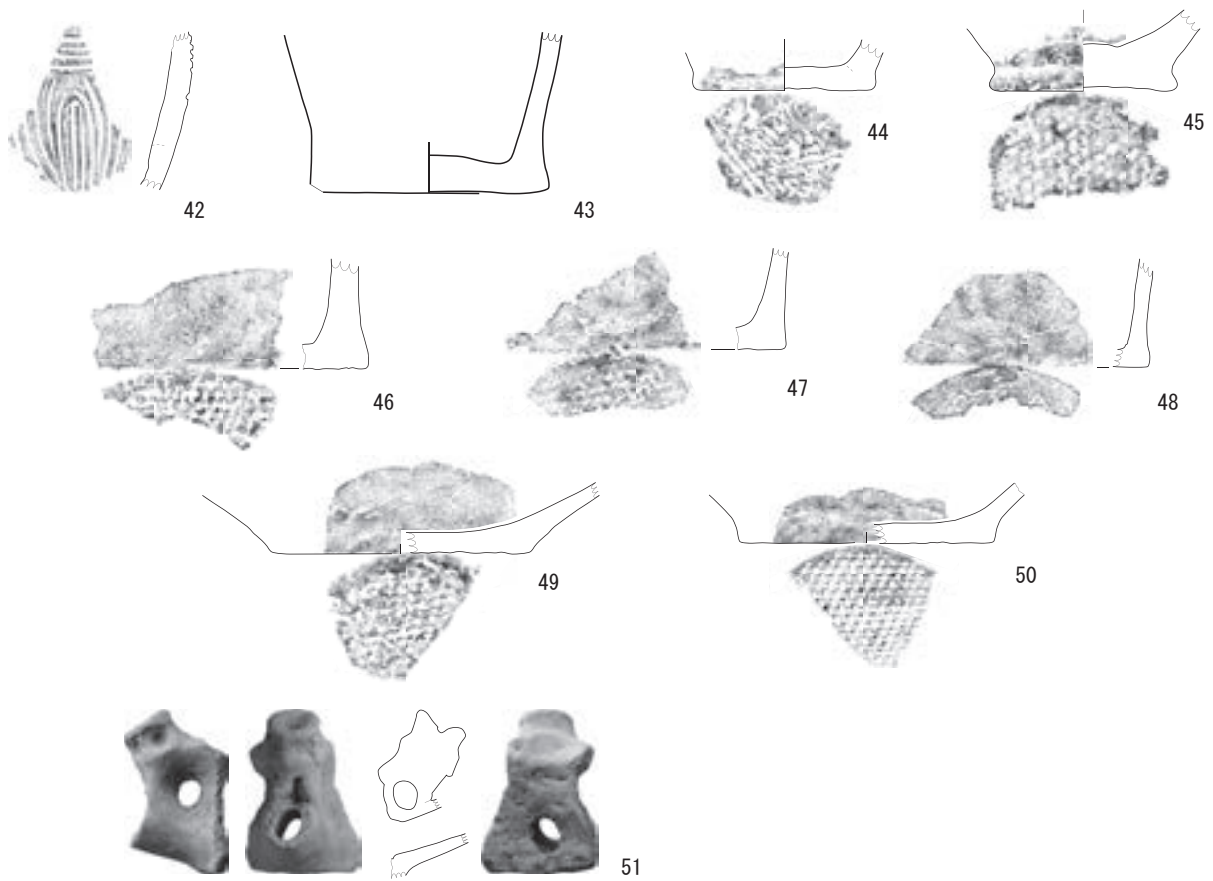


第43图 第8次調査2号住居跡出土遺物(1)

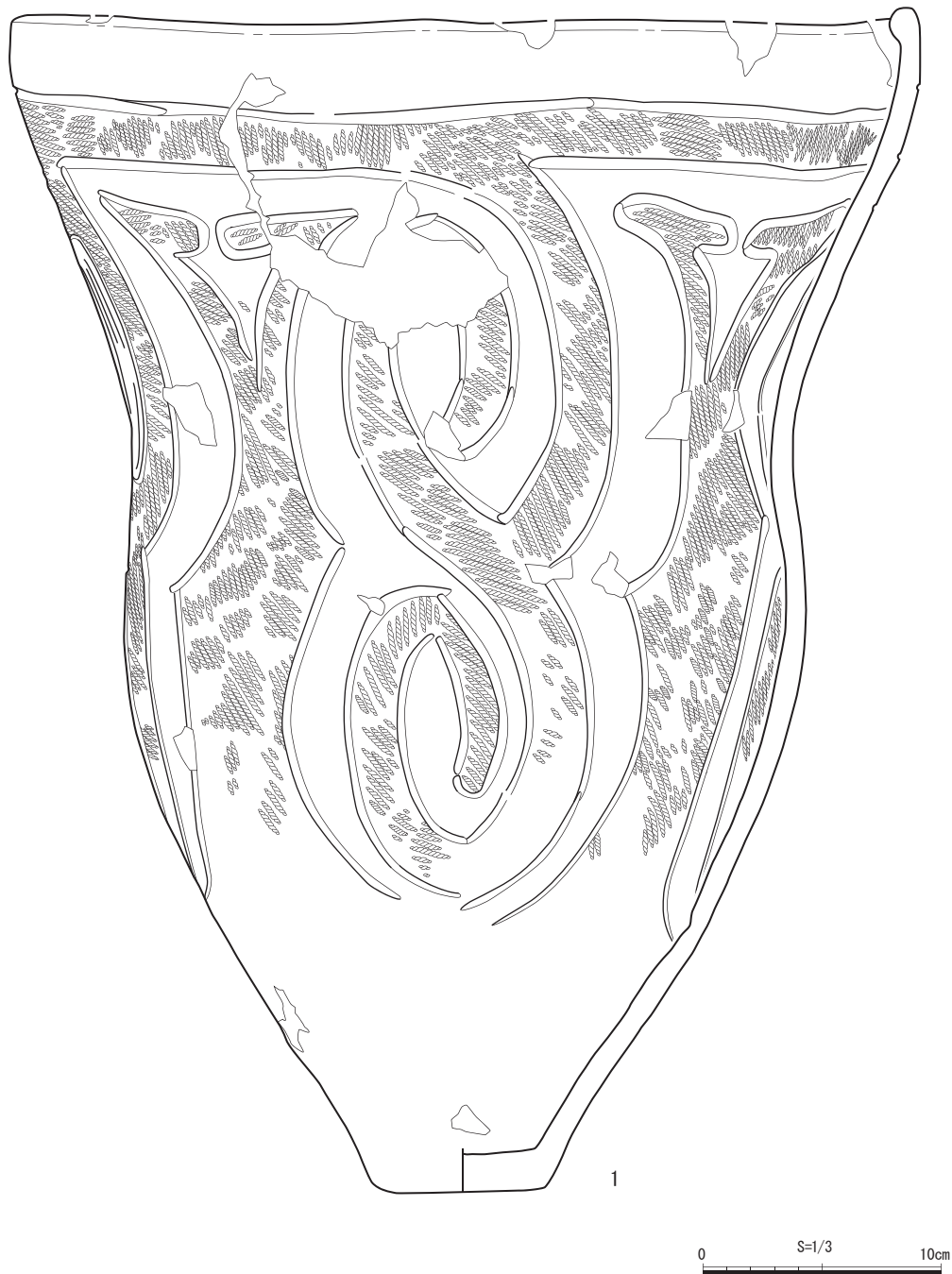




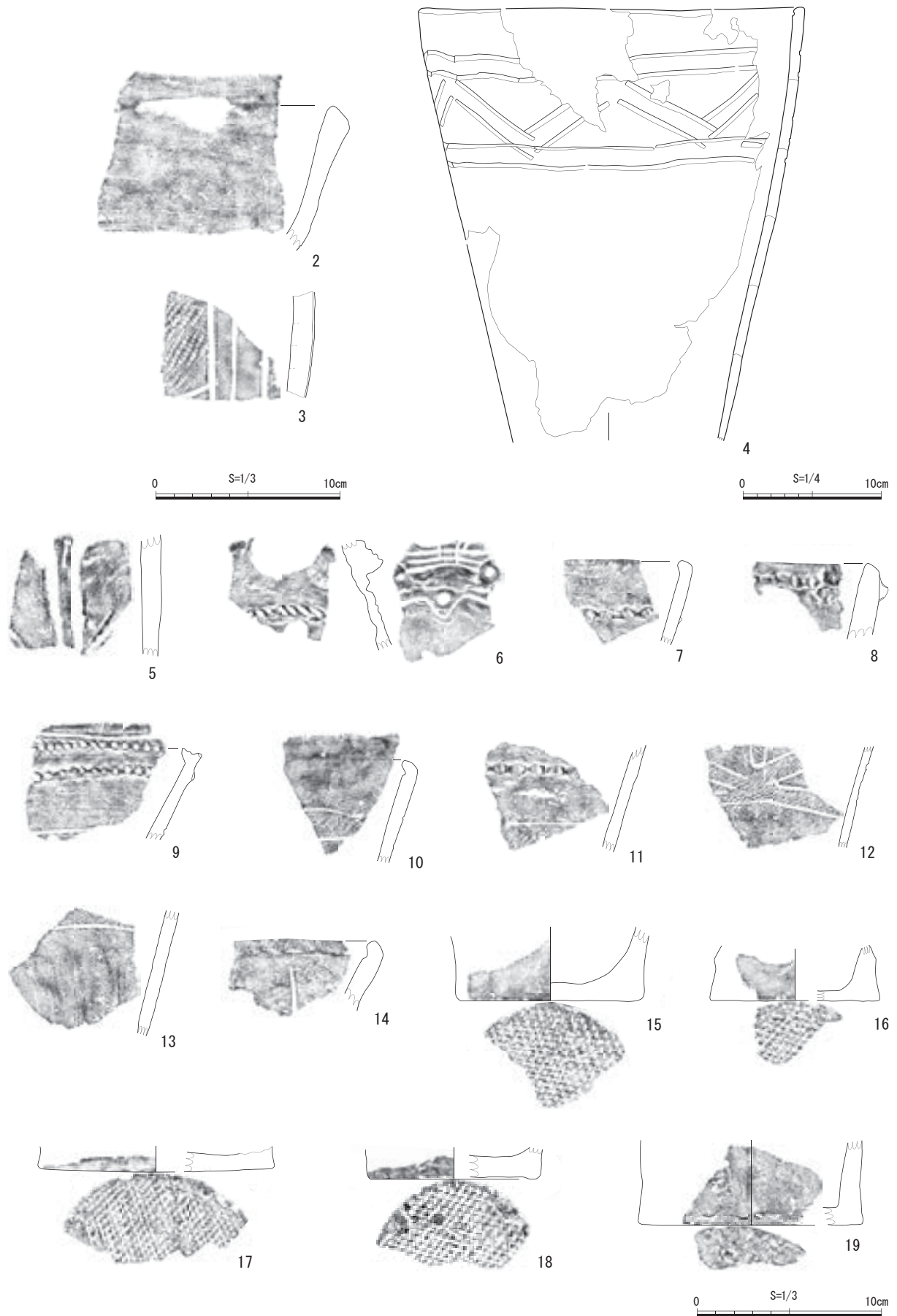
第44図 第8次調査2号住居跡出土遺物(2)



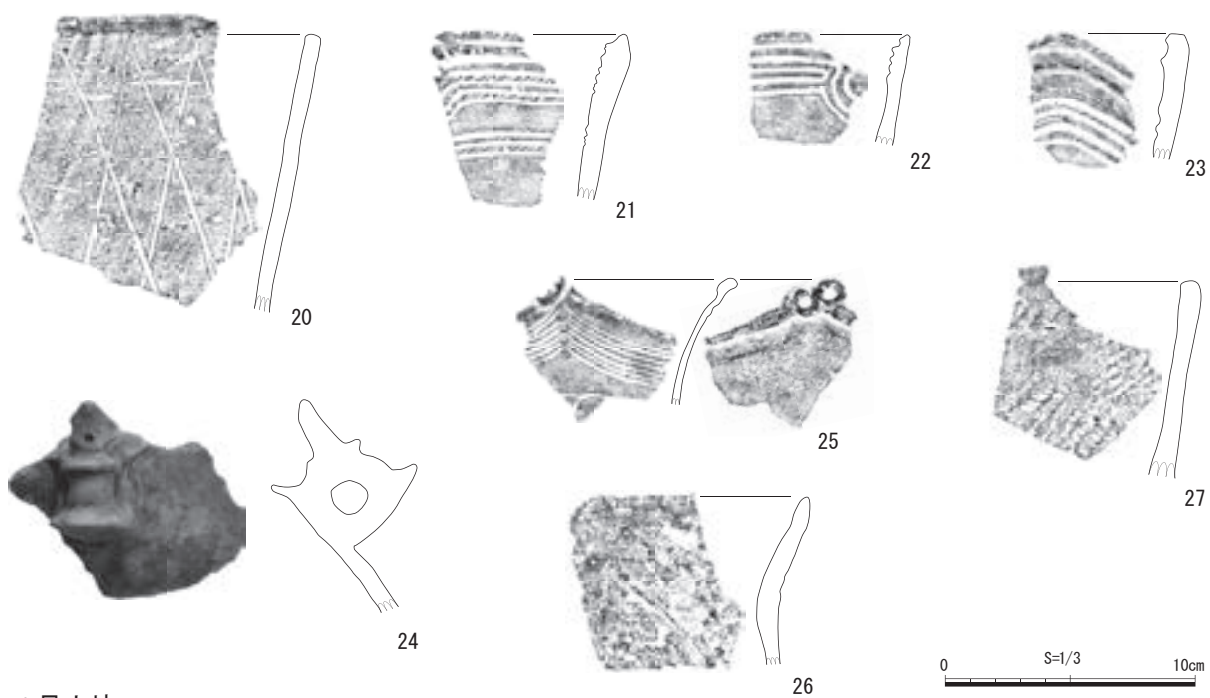
第45図 第8次調査2号住居跡出土遺物(3)



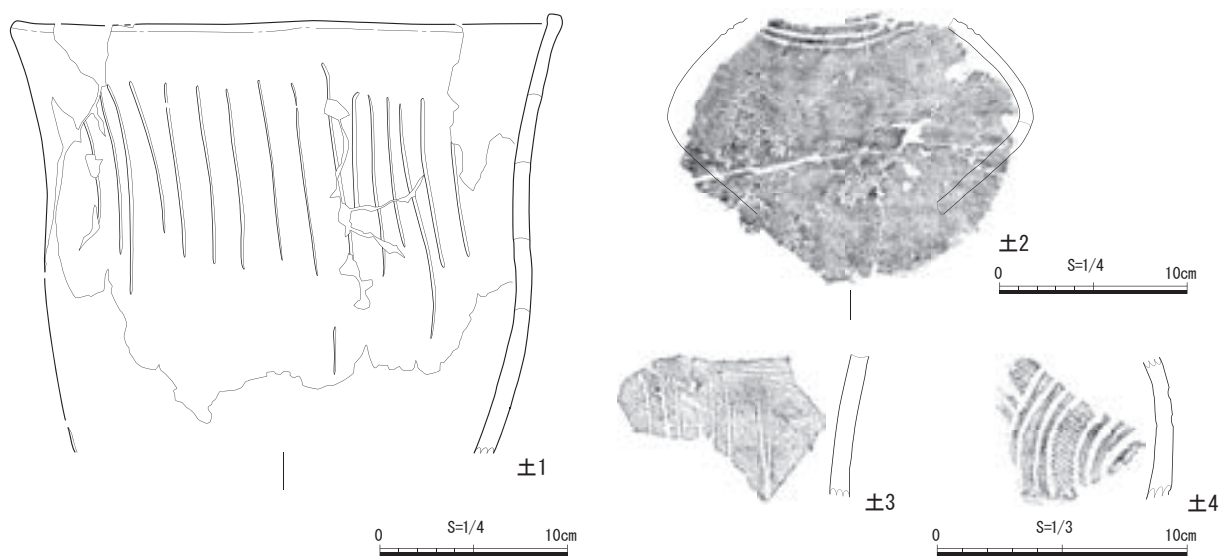
第46図 第8次調査3号住居跡出土遺物(1)



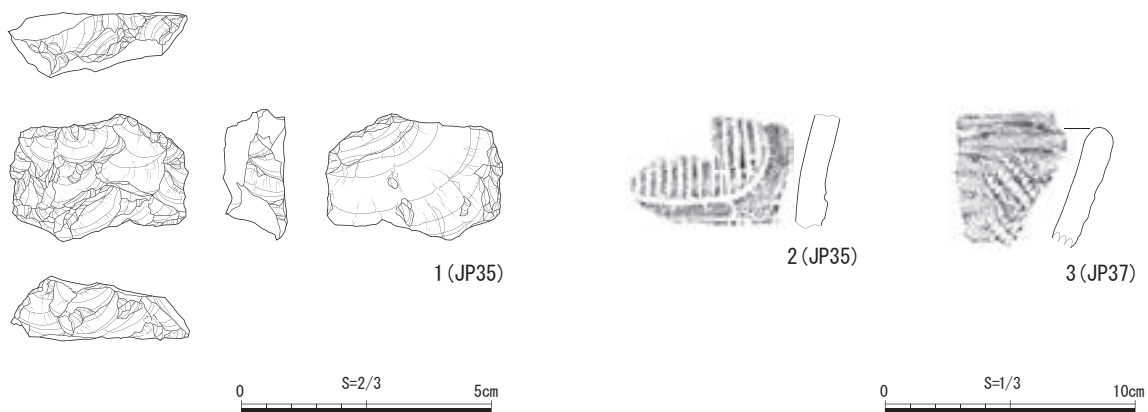
第47図 第8次調査3号住居跡出土遺物(2)



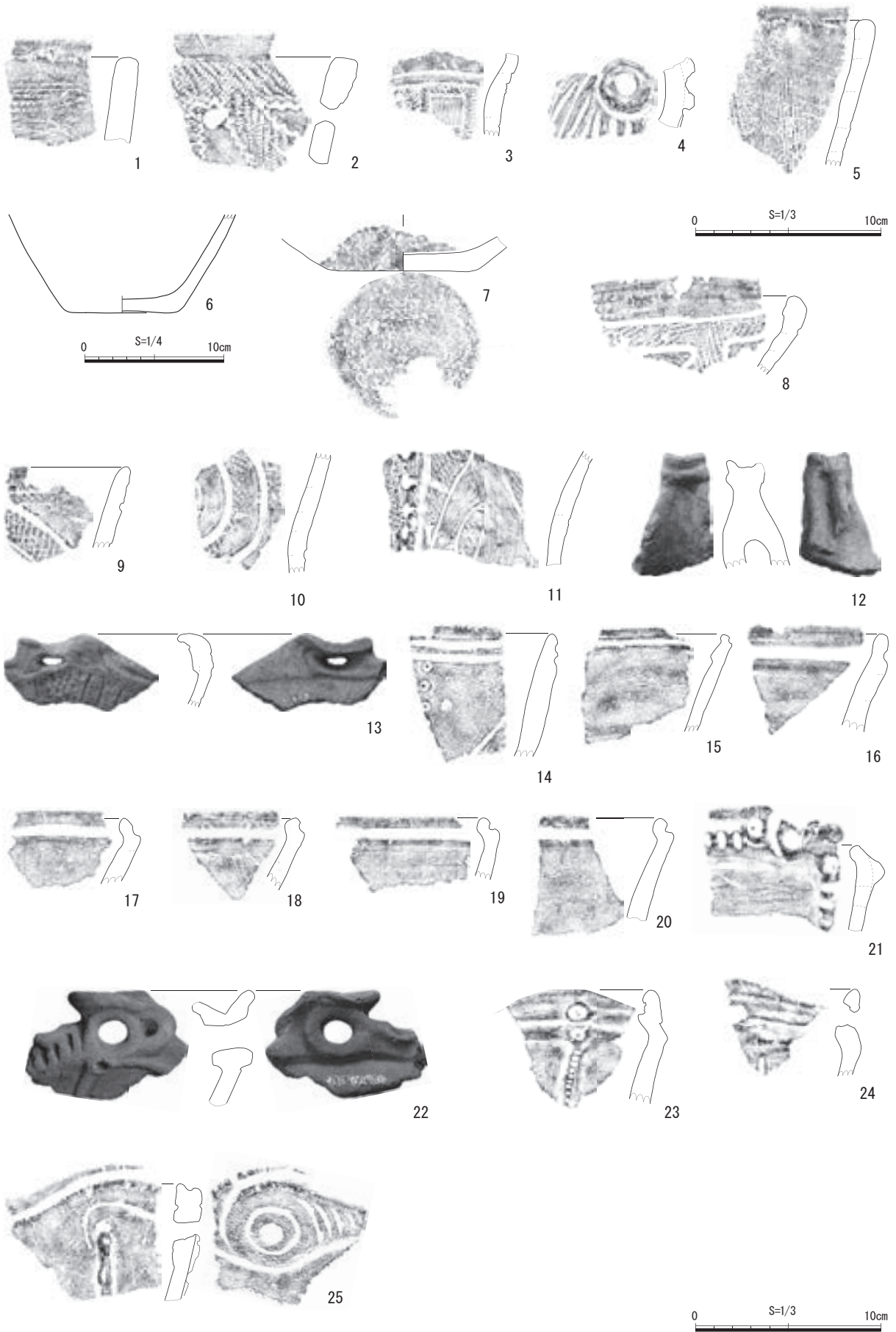
1号土坑



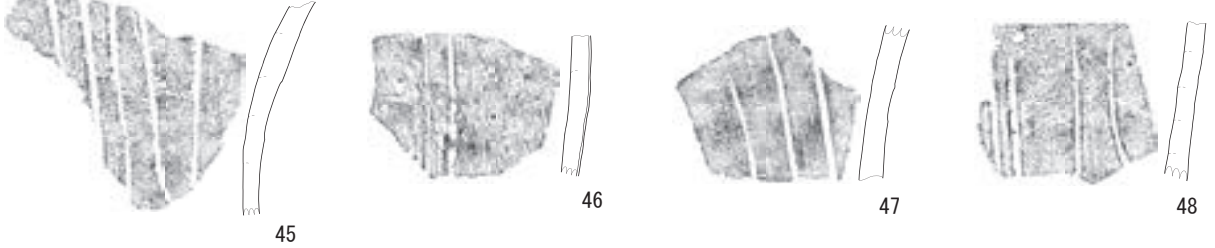
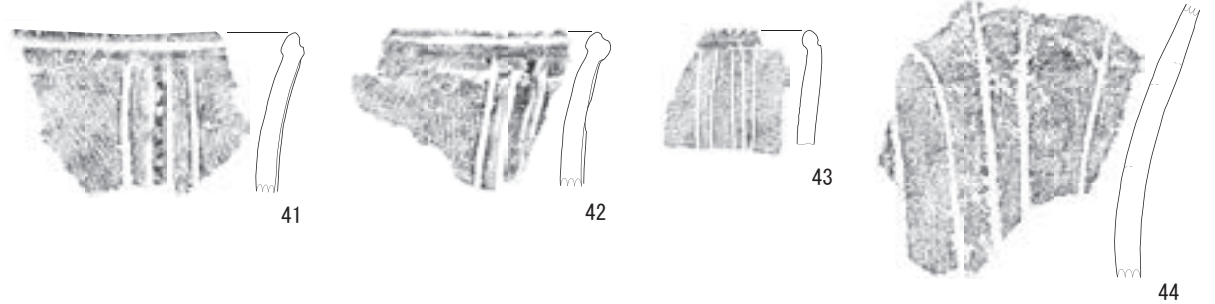
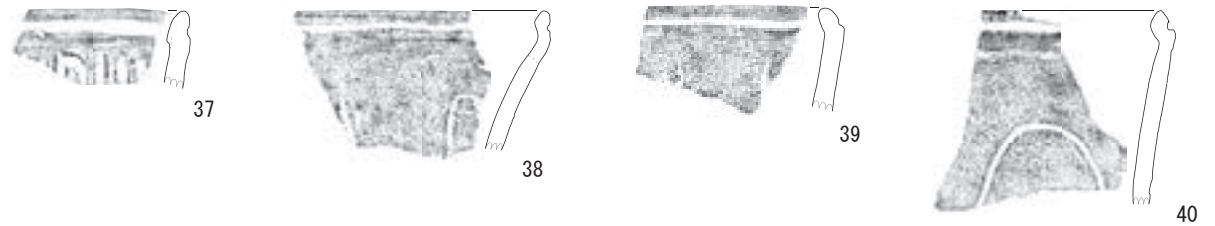
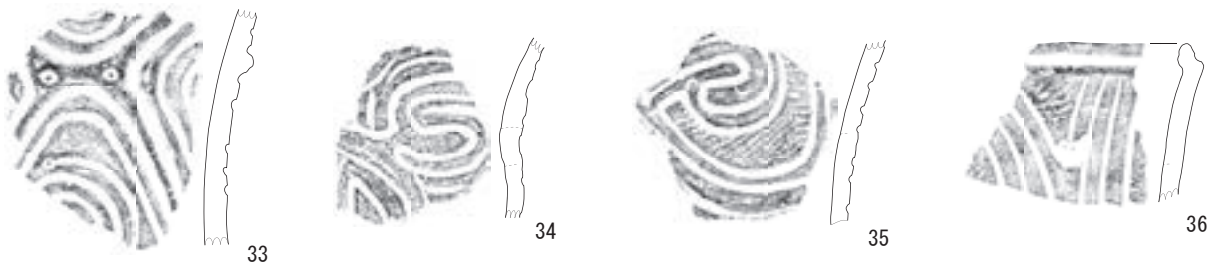
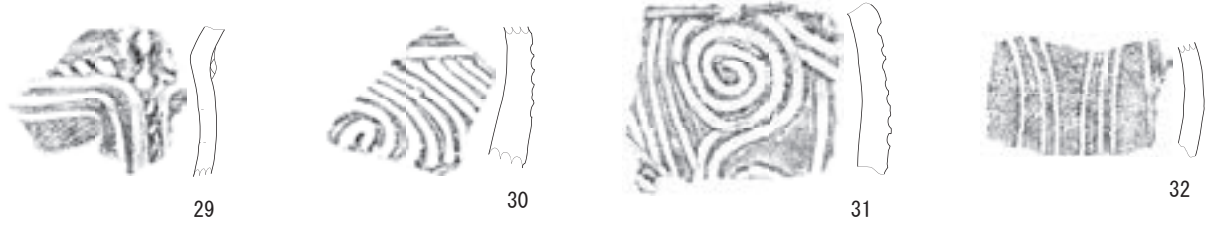
ピット



第48図 第8次調査3号住居跡(3)・土坑・ピット出土遺物

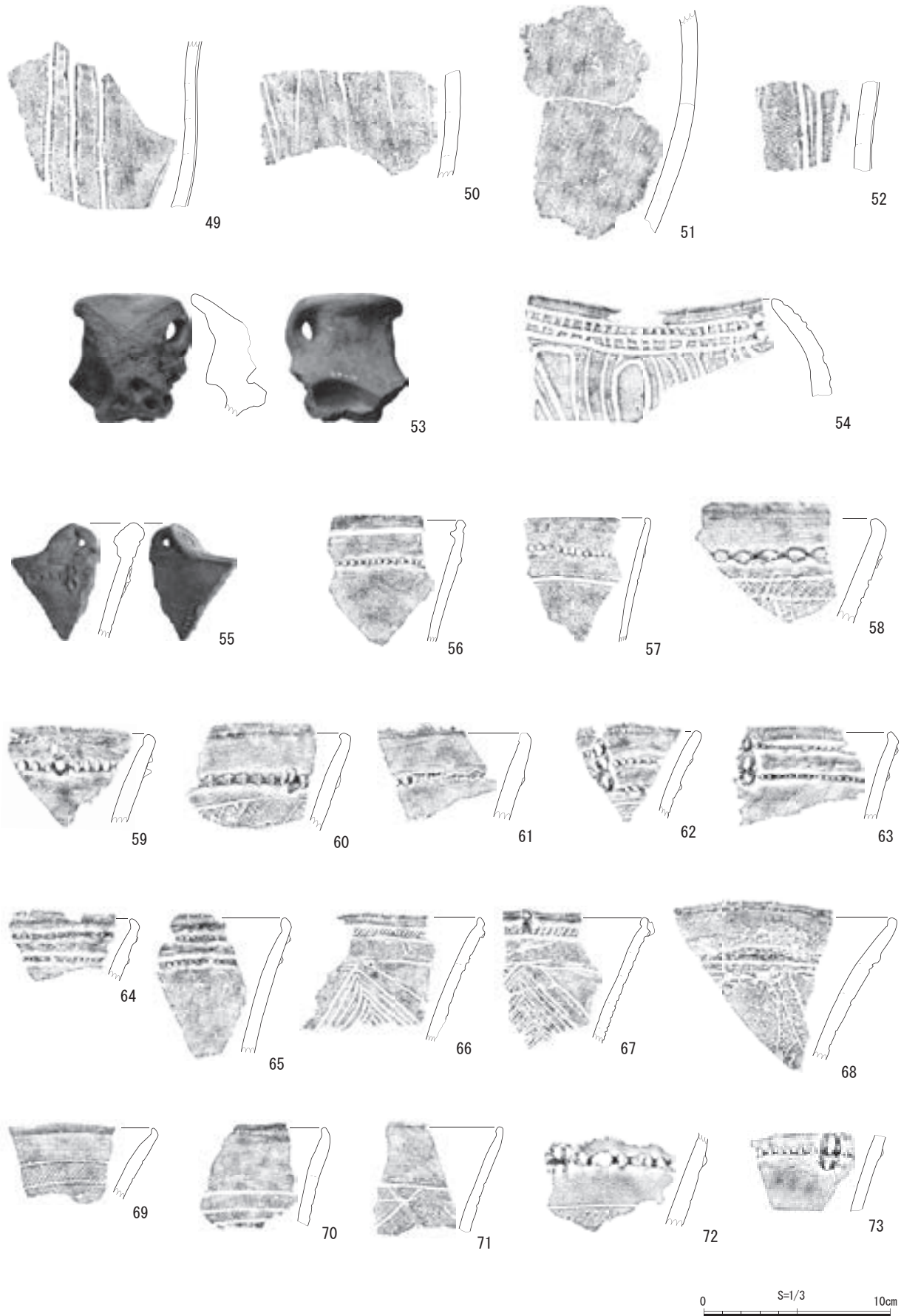


第49図 第8次調査遺構外出土遺物(1)



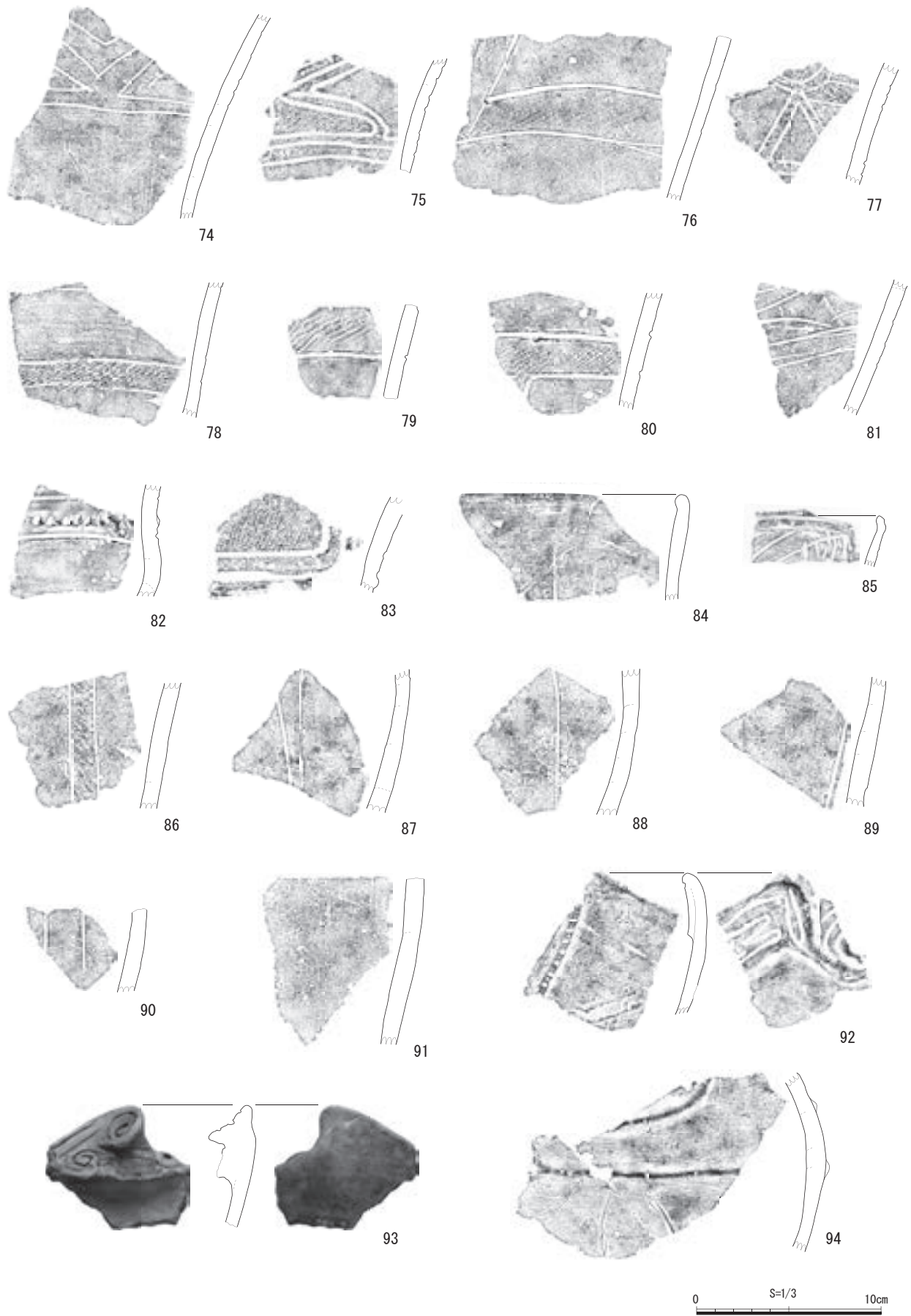
0 S=1/3 10cm

第50図 第8次調査遺構外出土遺物(2)

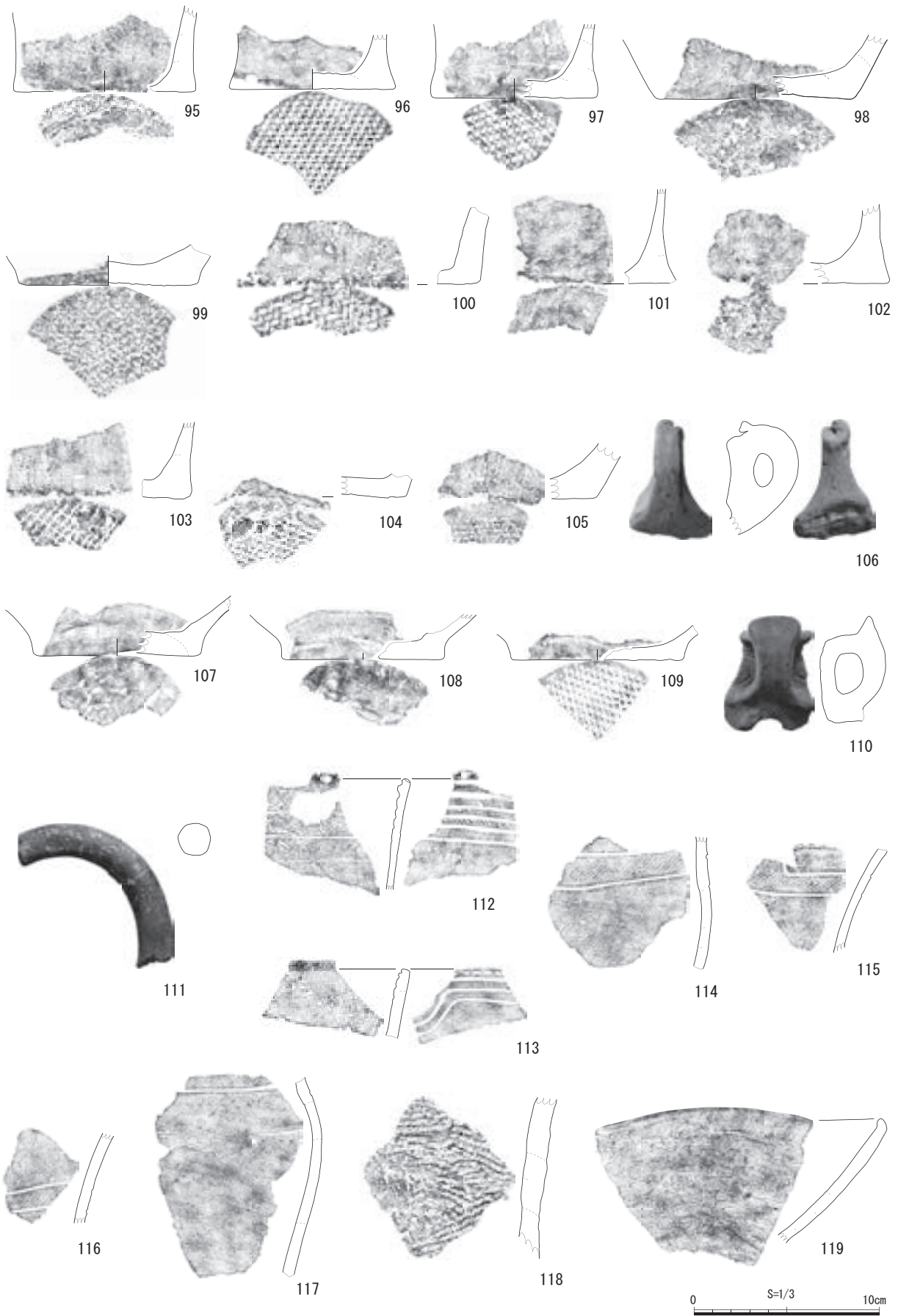


第51図 第8次調査遺構外出土遺物 (3)

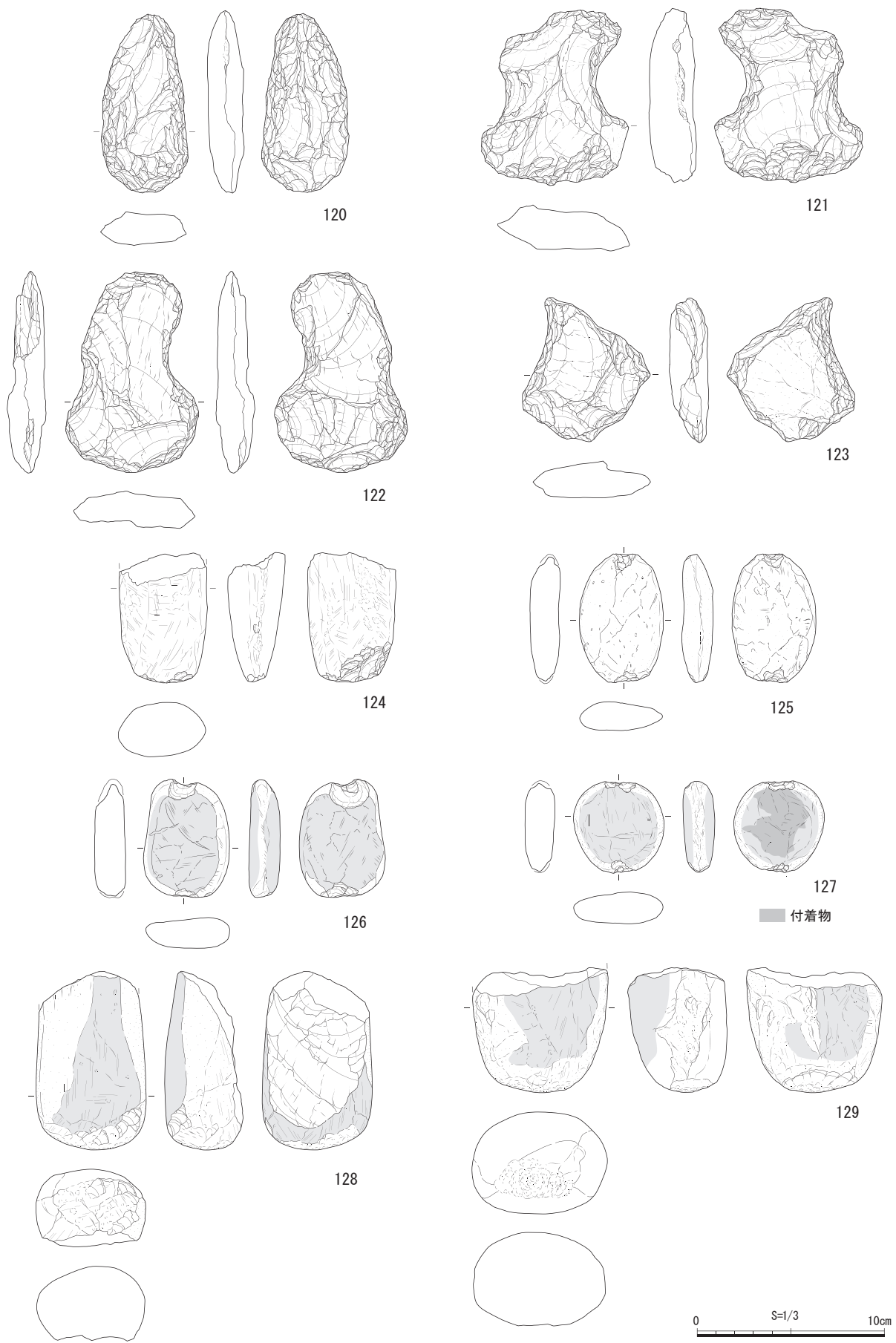




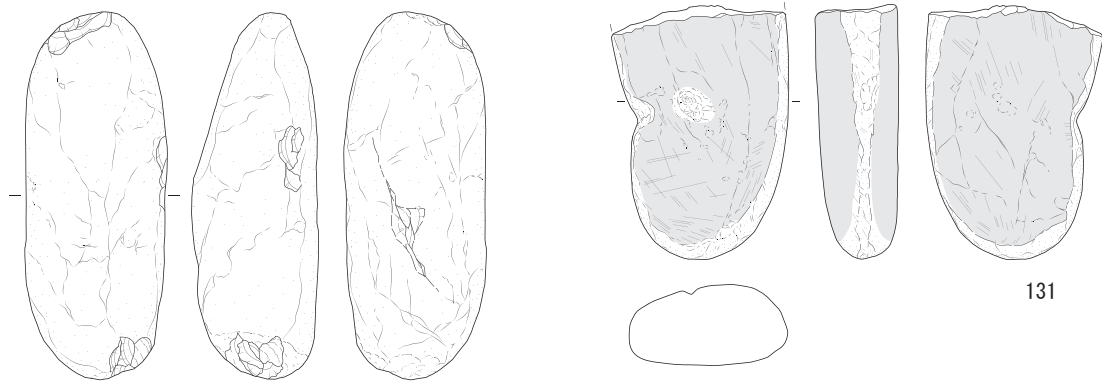
第52図 第8次調査遺構外出土遺物(4)



第53図 第8次調査遺構外出土遺物 (5)

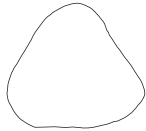


第54図 第8次調査遺構外出土遺物(6)

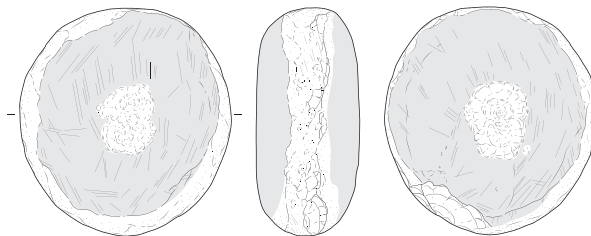
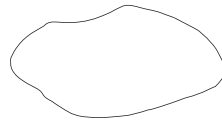


130

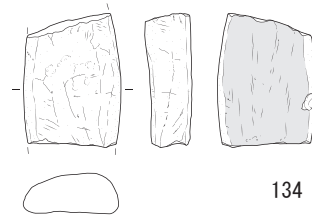
131



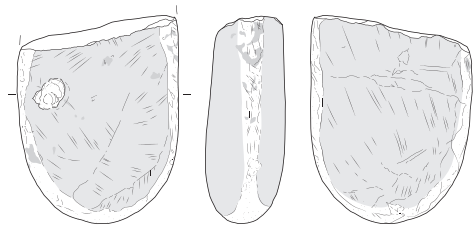
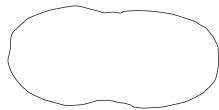
132



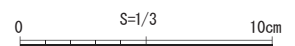
133



134



135



第55図 第8次調査遺構外出土遺物(7)

第12表 第8次調査縄文時代土器観察表(1)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
38-1	杉8 1住	1号住	勝坂2	深鉢突起	突起	51.0	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 眼鏡状と思われる突起。突起下部に3ヶ所の孔。破片右端に連続したキザミと思われる痕跡あり	-		
38-2	杉8 1住	1号住	勝坂2	深鉢胴部	-	38.6	長石、小礫、赤色粒子	内面器面荒れ 隆帯による文様。隆帯上キザミ施文。一部隆帯に平行沈線が沿う	-	胎土に小礫を多く含む	
38-3	杉8 1住下層	1号住	勝坂2	深鉢胴部	-	44.4	長石、角閃石、小礫	内面ナデ 隆帯による区画。隆帯側面にキザミ施文。区画下部には縄文施文	0段多条 RL斜位	胎土に角閃石を多く含む。内面に黒色付着物が多量に付着	
38-4	杉8 15号土坑	1号住	中期～後期	浅鉢胴部～底部	平底	1107.1	長石、雲母、小礫	外面横位ナデ後横位ミガキ、内面横位ナデ、内面底面に沈線状の擦痕複数あり	残存部無文	-	残存器高7.6cm、底径13.0cm、残存率底部1/1。網代痕取り消し。一部は上から粘土が被覆。胎土に小礫を多く含む
38-5	杉8 1住下層	1号住	称名寺中段階	深鉢胴部	-	26.2	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 1条の縦位隆帯。隆帯上押圧。2条1組の沈線による文様。縄文施文	LR縦位	-	
38-6	杉8 1住下層	1号住	称名寺中段階	深鉢胴部	-	33.7	長石、雲母、小礫	内面横位ナデ 2条の沈線による文様。沈線間に縄文充填	LR縦位	-	
38-7	杉8 15号土坑	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁か、突起あり	38.7	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ 口縁に粘土をねじった様な形状の突起あり。3ヶ所孔あり。縄文施文。2条の弧状の沈線	RLか	-	
38-8	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	54.2	長石、雲母、角閃石、小礫	外面ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ一部横位ミガキ 口縁部区画を持ち、区画内縄文施文。区画左端の突起あり。胴部は沈線区画内に縄文充填	LR縦位・横位	-	
38-9	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	57.9	長石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 楕円形の孔1ヶ所。口唇部に楕円形の窪み	-	-	
38-10	杉8 1号住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	58.7	長石、雲母、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 残存部無文	-	-	
38-11	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	49.0	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の沈線。破片左端がやや盛り上がる、突起か	-	-	
38-12	杉8 1号住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	34.0	長石、雲母、角閃石	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の沈線。右端に縦位隆帯が見られる。隆帯上に円形刺突文	-	内面に黒色の付着物が多量に見られる	
38-13	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	59.2	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ナデ 1条の隆帯が垂下、隆帯上に刺突文施文	-	-	
38-14	杉8 1住中層	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	40.0	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 弧状の縦位沈線による文様	-	-	
38-15	杉8 1住中層	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	57.4	長石、雲母、角閃石、小礫	内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	-	
38-16	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	55.6	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 縦位沈線による文様	-	-	
38-17	杉8 1住	1号住	堀之内2	深鉢胴部	-	49.1	長石、石英、角閃石、小礫	内面横位ナデ 沈線による文様	-	-	
38-18	杉8 1号住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	28.5	長石、石英、雲母、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ 縦位沈線による文様	-	-	
38-19	杉8 1住下層	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	30.1	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ 縦位沈線による文様	-	-	
38-20	杉8 1号住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	58.8	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ 縦位隆帯貼付。沈線による渦巻文等の文様。円形刺突文。僅かに縄文が見られる	RL縦位	円形刺突文には竹管状工具を使用。2号住の破片が接合。20、21同一個体	
38-21	杉8 一括	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	27.2	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ 縦位隆帯貼付。沈線による渦巻文等の文様。円形刺突文施文	-	円形刺突文には竹管状工具を使用。20、21同一個体	
38-22	杉8 1号住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	56.6	長石、石英、雲母、角閃石、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ナデ 沈線による文様。沈線間に僅かに縄文が見られる	RL縦位	-	
38-23	杉8 一括	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	29.2	長石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の沈線。弧状の縦位沈線による文様	-	外面に黒色の付着物が多く見られる	
39-24	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	30.3	長石、角閃石、小礫	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う1条の沈線。縦位沈線による文様	-	-	
39-25	杉8 1住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	63.4	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ 縦位沈線による文様	-	-	
39-26	杉8 1号住	1号住	堀之内1	深鉢胴部	-	54.1	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ 縦位沈線による文様	-	-	
39-27	杉8 1号住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部～胴部	平口縁	340.4	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面口縁部横位ミガキ・胴部縦位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状の文様	LR横位・縦位	残存器高11.0cm、推定口径22.8cm、残存率口縁部1/2。27、28同一個体	
39-28	杉8 1号住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	59.2	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状の文様	LR横位	27、28同一個体	
39-29	杉8 1住中層+杉8 IV層	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	96.6	長石、石英、角閃石、小礫	外面ナデ後横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ナデ一部横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。隆帯上に広く刺突を施した貼付文。横位2条の沈線、やや外れた部分に縄文施文	LRか	-	
39-30	杉8 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	61.0	長石、雲母、角閃石、小礫	外面ナデ後横位ミガキ、口唇部ナデ、内面ナデ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。僅かに横位沈線による文様が見られる	-	-	
39-31	杉8 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	29.9	長石、石英、雲母、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	RL縦位	-	
39-32	杉8 1住	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	19.7	長石、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文	-	-	
39-33	杉8 1住中層	1号住	堀之内2	深鉢口縁部	波状口縁、突起あり	124.4	長石、石英、角閃石、小礫	外面ナデ口縁部付近横位ナデ、口唇部ミガキ、内面横位ナデ口縁部付近横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。波頂部に細長い貼付文。貼付文上に刺突文施文。胴部には弧状の沈線などによる文様。内面波頂部に文様あり。突起上には沈線による渦巻文。円形の深い窪みが2ヶ所あり、1ヶ所は内面からの穿孔で外面に貫通	-	胎土に小礫を多く含む。2号住17と同一個体の可能性あり	

第13表 第8次調査縄文時代土器観察表(2)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考	
39-34	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	77.6	長石、石英	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁部無文。沈線による三角状の文様。沈線間に縄文施文。充填縄文と思われる	RL縦位・斜位	-
39-35	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢口縁部付近	-	43.0	長石、石英、角閃石、小礫	内面横位ナデ	沈線による三角状、弧状の文様。沈線の文様を埋めるように縄文施文	RL縦位・横位	-
39-36	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	21.8	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	横位沈線施文。沈線による三角状の文様。沈線による文様間に縄文施文	LRか	-
39-37	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	16.2	長石、石英、角閃石、小礫	内面縦位ミガキ	2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状	LR横位	-
39-38	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	22.4	長石、角閃石	内面縦位ミガキ	2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位	-
39-39	杉8 IVa一括	1号住 堀之内2	深鉢口縁部	波状口縁	47.2	長石、角閃石、赤色粒子	口唇部ナデ、内面横位ミガキ	波頂部に楕円形の孔あり。波頂部から弧状の沈線が複数垂下。円形の刺突文施文	-	内面に黒色の付着物微量。遺構外出土。39-42同一個体
39-40	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	68.0	長石、角閃石、赤色粒子	内面横位ミガキ	沈線による文様。沈線間に刺突文充填	-	39-42同一個体
39-41	杉8 IVa一括	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	40.9	長石、角閃石、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ	縦位弧状の沈線を複数施文。刺突文施文	-	遺構外出土。39-42同一個体
39-42	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	28.2	長石、角閃石、赤色粒子	内面横位ミガキ	弧状の沈線を複数施文。刺突文施文	-	39-42同一個体
40-43	杉8 1号住中層	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	40.8	長石、角閃石、小礫	外面ミガキ、内面ナデ	2条1組の沈線によるV字状の文様。沈線間に円形刺突文を1列施文	-	-
40-44	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	55.6	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ミガキ、内面横位ナデ・口縁部横位ミガキ	口縁部内外面に1条ずつ沈線施文。2条の弧状に沈線間に縄文施文	無節L縦位	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-45	杉8 1号住中層	1号住 堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	27.0	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ・上部横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面ナデ・上部横位ミガキ	口縁上部無文。口縁に1条の沈線に沿う。2条の弧状に沈線間に縄文施文。充填縄文	無節L縦位・横位	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-46	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	74.7	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	縦位2条の沈線間に縄文施文	無節L縦位	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-47	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	40.6	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ナデ	2条の沈線間に縄文施文	不鮮明	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-48	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	93.9	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	横位の沈線。縦位2条の沈線間に疎らに縄文施文	無節L縦位	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-49	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	75.2	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	横位の沈線。縦位2条の沈線間に疎らに縄文施文	無節L縦位	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-50	杉8 1号住	1号住 堀之内2	深鉢胴部	-	69.9	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	横位の沈線。僅かに縦位2条の沈線が見られる。横位沈線下部無文	-	胎土に角閃石を多く含む。44-50同一個体
40-51	杉8 1号住中層	1号住 堀之内2	浅鉢口縁部	突起あり	36.6	長石、角閃石	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	主に突起上面及び内面に文様あり。沈線、円形刺突文による文様が見られる。外面に三角状の突起が見られる	-	-
40-52	杉8 1号住	1号住 堀之内2	浅鉢口縁部	平口縁	43.5	長石、石英、角閃石	外面横位ナデ	残存部外面無文。内面口縁部に沈線と円形刺突文による文様施文	-	-
40-53	杉8 No12イコウ	1号住 堀之内2	浅鉢口縁部	平口縁	40.8	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ	外面無文。内面3条の沈線による文様	-	-
40-54	杉8 P-No.3	1号住 堀之内	深鉢底部	平底	212.6	長石、石英、雲母、小礫	外面縦位・横位ミガキ、底面ナデ一部ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕なし。残存器高6.8cm、推定底径15.4cm、残存率底部1/4
40-55	杉8 一括	1号住 堀之内	深鉢底部	平底	92.5	長石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存器高5.5cm、推定底径9.6cm、残存率底部1/4。内面に幅1cmの長方形の工具で擦った様な痕跡が2cm程見られる
40-56	杉8 1号住中層	1号住 堀之内	深鉢底部	平底	103.2	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ・横位ミガキ、底面ナデ、内面縦位ミガキ・横位ミガキ	残存部無文	-	底面に網代痕なし。残存器高7.0cm、推定底径10.6cm、残存率底部1/4
40-57	杉8 1号住	1号住 堀之内	深鉢底部	平底	143.7	長石、雲母、角閃石、小礫	外面ナデ後縦位ミガキ、底面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存器高3.7cm、推定底径10.0cm、残存率底部1/2
40-58	杉8 1号住	1号住 堀之内	深鉢口縁部	平口縁	82.0	長石、雲母、角閃石、小礫	口唇部ナデ、内面ナデ	外面に擦痕のような痕跡が強く残る	-	-
40-59	杉8 1号住	1号住 堀之内	深鉢胴部	-	101.0	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面横位ミガキ	沈線による弧状の文様	-	-
40-60	杉8 1号住	1号住 堀之内	深鉢胴部～底部付近	-	66.2	長石、石英、角閃石、小礫	外面縦位ミガキ、内面横位ナデ	残存部無文	-	破断面に黒色の付着物が多量見られる
40-61	杉8 1号住+杉8 2号住	1号住 堀之内	浅鉢底部	平底	140.4	長石、石英、角閃石	外面ミガキ、内面横位ミガキ	沈線による弧状の文様が僅かに見られる	-	底面に網代痕。残存器高2.2cm、底径9.2cm、残存率底部3/4。2号住出土破片接合
40-62	杉8 1号住	1号住 堀之内	浅鉢又は注口土器底部	平底、広台状	84.6	長石、石英、雲母	外面横位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕。残存器高3.2cm、推定底径8.2cm、残存率底部1/2
40-63	杉8 1号住	1号住 後期	浅鉢口縁部	平口縁	27.4	長石、雲母、角閃石、小礫	外面外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	残存部無文	-	-
40-64	杉8 一括	1号住 不明	不明底部	平底	84.1	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	底面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高1.3cm、底径8.0cm、残存率底部1/1
40-65	杉8 1号住	1号住 不明	深鉢口縁部	平口縁	17.9	長石、角閃石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁に沿う1条の微隆起帯。縄文施文。沈線による弧状の文様	無節Lか	-
43-1	杉8 14イコウ	2号住 称名寺中段階	深鉢突起	突起あり	83.4	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ内面ナデ	筒状の突起で側面にも孔あり。沈線による文様を施す	-	-

第14表 第8次調査縄文時代土器観察表(3)

図番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
43-2	杉8 2住	2号住 称名寺中 段階	2号住	深鉢口縁部	波状口縁、 突起あり	34.5	長石、雲母、角閃石、 小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口 唇部横位後ミガ キ、内面横位ナ デ後横位ミガキ	2条1組の沈線による文様。 沈線間に縄文充填	LR横位・ 縦位	-
43-3	杉8 2住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁、 突起あり	23.8	長石、石英、角閃石、 小礫	外面横位ミガキ、 内面横位ミガキ	外面に縦位と思われる隆帯と 隆帯上に凹形刺突文が僅かに 見られる。口唇部から内面に かけて突起が見られ、沈線に よって渦巻文などの文様施文	-	-
43-4	杉8 2号住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁、 突起の痕 跡あり	64.9	長石、石英、小礫	外面横位・斜位ミ ガキ、内面横位ミ ガキ	欠損しているが突起の痕跡あり。 外面に僅かに斜位の微隆 起帯が見られる。微隆起帯上 に刺突文。内面突起下部に沈 線による重弧状の文様	-	-
43-5	杉8 110ピット	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁、 突起あり	42.2	長石、石英、雲母、 角閃石、小礫	外面ナデ、内面横 位ナデ	口縁に沿う1条の沈線。口縁 部から斜位の微隆起帯を1条 貼付、刺突文施文	-	-
43-6	杉8 90ピット	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁か、 突起あり	58.3	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面ナデ後横位ミ ガキ、内面横位ナ デ後横位ミガキ	突起部に貫通する孔1ヶ所。孔 の周囲に沈線によるC字状の文 様。口縁に沿って隆帯が巡ると 思われ、隆帯上に刺突文施文	-	-
43-7	杉8 2住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	波状口縁、 波頂部は 突起	53.1	長石、石英、小礫	内面ナデ後横位ミ ガキ	波頂部から1条の隆帯垂下、 隆帯上キザミ施文。縄文施文 後に沈線、キザミ等による文 様施文。凹形の孔が1ヶ所貫 通。凹形の窪み2ヶ所	沈線による 文様に潰さ れ不明	-
43-8	杉8 2号住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢胴部	-	90.4	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	内面横位ナデ	環状の貼付文。貼付文の上下 に2条ずつ隆帯を貼付、隆帯 上に押圧を加える。隆帯間 には沈線による文様	-	-
43-9	杉8 No.14イコ ウ	2号住 堀之内1	2号住	深鉢胴部	-	89.7	長石、石英、角閃石、 小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	複数の縦位弧状の沈線による 文様。沈線間に縄文を充填	RL縦位・ 斜位	-
43-10	杉8 2号住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢胴部	-	30.0	長石、雲母、角閃石、 小礫	内面横位ナデ	縄文施文。複数の弧状の沈線。 沈線間磨消し無文	RLか	-
43-11	杉8 2号住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢胴部	-	68.2	長石、角閃石、小礫	外面一部縦位ミ ガキ、内面横位ナ デ	縦位沈線、縦位弧状の沈線に よる文様	-	-
43-12	杉8 2住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢胴部	-	68.0	長石、雲母、角閃石、 小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内 面横位ナデ後横位 ミガキ	破片下部に横位2条の沈線。 沈線上部は無文	-	-
43-13	杉8 2号住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁	46.1	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面横位ナデ一部 横位ミガキ、口唇部 ナデ、内面横位ナ デ	口縁に沿う1条の沈線と隆帯。 隆帯上に凹形刺突文を1列施 文	-	-
43-14	杉8 2住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁	39.0	長石、雲母、角閃石、 小礫	口唇部ナデ、内面 横位ナデ	口縁部下がやや隆起、口縁部 に沿う2条の沈線と交互刺突文。 2条1組の沈線、横方向に施さ れた爪形文様の痕跡あり	-	-
43-15	杉8 2住	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁	25.0	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面ナデ口縁部付 近横位ミガキ、口 唇部ミガキ、内面 横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線。複数 の縦位弧状の沈線による文様。 縄文のような痕跡あり	LRか	-
43-16	杉8 P-No.1	2号住 堀之内1	2号住	深鉢口縁部	平口縁	57.1	長石、石英、角閃石、 小礫、赤色粒子	外面横位ナデ後横 位ミガキ、口唇部 ナデ、内面横位ナ デ後横位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯。右側 に向かって隆帯が幅広になる。 突起等になるか	-	-
43-17	杉8 2住+杉 8一括	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁、 口縁部に 突起1組	138.7	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面横位ナデ後一 部横位ミガキ、口 唇部ナデ、内面横 位ナデ	口唇部に沿う1条の隆帯、隆 帯上刺突文施文。隆帯上に8 字状の貼付文2ヶ所あり。1ヶ 所の貼付文上に突起1組作出。 2条1組の沈線による文様	-	残存器高8.0cm、口 径22.8cm、残存率口 縁部1/3。胎土に小 礫を多く含む。外面 に黒色の付着物微量。 1号住33と同一個体 の可能性あり
43-18	杉8 2住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	48.1	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面横位ナデ後横 位ミガキ、口唇部 ナデ、内面横位ナ デ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯 上刺突文施文。破片下部に縄文 と思われる痕跡が僅かにあり	-	胎土に角閃石を多く 含む
44-19	杉8 2号住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	40.4	長石、石英	外面横位ミガキ、 口唇部ミガキ、内 面横位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯 上に刺突文施文	-	-
44-20	杉8 2住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	43.9	長石、石英、角閃石、 小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、 口唇部ナデ、内面 ナデ一部横位ミガ キ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯 上刺突文施文。隆帯上に凹形 の刺突文を施した貼付文。口 唇部から貼付文に短隆帯が垂 下。横位沈線下部に縄文施文	RL横位・ 斜位	外面に黒色の付着物
44-21	杉8 2号住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	23.7	長石、石英、小礫	外面横位ナデ、口 唇部ナデ、内面横 位ナデ	口縁に沿う2条の隆帯、隆帯 上に刺突文施文。沈線下部に 縄文施文	LR横位	-
44-22	杉8 2住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	70.1	長石、雲母、角閃石、 小礫	外面横位ナデ後横 位ミガキ、口唇部 ミガキ、内面横位 ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯 上刺突文施文。2条の沈線間 に縄文を施した帯状の縄文に よる文様。三角状の文様か	RL縦位	胎土に角閃石と小礫 を多く含む
44-23	杉8 2住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	42.0	長石、石英、角閃石、 小礫	外面横位ナデ、内 面横位ナデ後横位 ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯 上刺突文施文。2条1組の沈 線による弧状の文様。沈線間 に僅かに縄文が見られる	RL縦位	-
44-24	杉8 2住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	192.0	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面ナデ後横位・ 斜位ミガキ、口唇 部ミガキ、内面ナ デ後上部ミガキ	横位沈線施文後、2条1組の 沈線による三角状の文様施文	-	胎土に小礫を多く含 む。24~26同一個体
44-25	杉8 1住中層	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部	平口縁	74.9	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面ナデ後横位ミ ガキ、口唇部ナ デ後ミガキ、内面 ナ デ	沈線による木の葉状の文様	-	胎土に小礫を多く含 む。1号住居出土。 24~26同一個体
44-26	杉8 2住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢胴部	-	108.5	長石、角閃石、小礫、 赤色粒子	外面ナデ一部斜位 ミガキ、内面ナ デ	沈線による三角状の文様	-	胎土に小礫を多く含 む。24~26同一個体
44-27	杉8 2号住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部付 近	-	54.9	長石、石英、雲母、 小礫	外面横位ミガキ、 内面横位ミガキ	微隆起帯を1条横位に貼付、 押圧施文	-	-
44-28	杉8 2号住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部付 近	-	21.6	長石、石英	外面横位ミガキ、 内面ナ デ	横位の隆帯、隆帯上刺突文施 文。隆帯上に刺突文を施した 貼付文。横位沈線下部に縄文 施文	LRか	胎土に石英を多く含む
44-29	杉8 2号住	2号住 堀之内2	2号住	深鉢口縁部付 近	-	41.3	長石、石英	外面ナデ後横位ミ ガキ、内面横位ナ デ	横位2条の隆帯とそれを繋ぐ 棒状の貼付文。隆帯上、隆帯 と貼付文の接点には刺突文施 文。貼付文中央には押圧施文	-	-

第15表 第8次調査縄文時代土器観察表(4)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
44-30	杉8 2号住	2号住	堀之内2	深鉢口縁部付近	-	19.2	長石、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	横位・縦位の隆帯。縦位隆帯上に刺突文施文	-	-
44-31	杉8 14イコウ	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	107.8	長石、角閃石、小礫	外面ナデ、内面横位ナデ	2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状の文様になるか	LR斜位	-
44-32	杉8 2住	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	50.3	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状の文様になるか	RL縦位	胎土に角閃石を多く含む
44-33	杉8 No.10イコウ	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	25.2	長石、石英、角閃石、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状の文様になるか	RL縦位	-
44-34	杉8 2住	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	21.8	長石、石英、角閃石、赤色粒子	外面ナデ後横位・縦位ミガキ、内面横位ミガキ	2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状の文様になるか	LR横位	-
44-35	杉8 2住	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	104.3	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ナデ後横位・縦位ミガキ、内面横位ナデ	横位沈線上部に縄文が見られる	RL横位	-
44-36	杉8 No.14イコウ	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	42.6	長石、石英、角閃石	内面ナデ	沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状か、沈線間を磨消し無文の部分も見られる	RL縦位	-
44-37	杉8 2住	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	24.6	長石、石英、角閃石	内面横位ナデ後横位ミガキ	縄文施文後、沈線による文様施文	無節L横位	-
44-38	杉8 2住	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	54.5	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位・斜位ナデ	縄文施文後、沈線による三角状の文様施文	RL横位	-
44-39	杉8 14イコウ	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	51.0	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ	残存部外無文。内面に横位1条の微隆起帯、刺突文施文	-	-
44-40	杉8 No.14イコウ	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	20.1	長石、角閃石、小礫	外面横位ナデ後横位ミガキ、内面横位ナデ	屈曲部に1条の隆帯を貼付。隆帯上に刺突文施文。隆帯と横位沈線間に縄文施文、縄文下部は無文。縦位沈線が僅かに見られる	LR横位	-
44-41	杉8 2号住	2号住	堀之内2	深鉢胴部	-	52.6	長石、石英、小礫	外面ナデ後一部縦位ミガキ、内面ナデ	縦位沈線による文様	-	-
45-42	杉8 2住	2号住	堀之内2	注口土器胴部	-	26.6	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ後横位ミガキ	横位・弧状等の沈線による文様	-	-
45-43	杉8 P-No.2	2号住	堀之内	深鉢底部	平底	268.1	長石、雲母、小礫	外面縦位ミガキ、内面ナデ、底面ナデ後ミガキ	残存部無文	-	残存部高6.4cm、底径9.4cm、残存率底部1/1。網代痕なし
45-44	杉8 2住	2号住	堀之内	深鉢底部	平底	36.6	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存部高1.5cm、底径7.2cm、残存率底部1/4
45-45	杉8 2住	2号住	堀之内	深鉢底部	平底、広台状	83.5	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存部高2.5cm、底径7.4cm、残存率底部1/2
45-46	杉8 2住	2号住	堀之内	深鉢底部	平底	62.8	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位・横位ミガキ、内面横位ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり
45-47	杉8 2住	2号住	堀之内	深鉢底部	平底	40.9	長石、角閃石、小礫	外面横位ナデ後横位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。胎土に小礫を多く含む
45-48	杉8 14イコウ	2号住	堀之内	深鉢底部	平底	37.3	長石、石英、角閃石、小礫	外面ナデ後斜位・横位ミガキ、内面横位ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり
45-49	杉8 2住	2号住	堀之内	浅鉢底部	平底	63.4	長石、石英、小礫	外面横位ナデ、内面ミガキ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存部高2.3cm、推定底径10.2cm、残存率底部1/4
45-50	杉8 2住	2号住	堀之内	浅鉢又は注口土器底部	平底	47.4	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存部高1.9cm、推定底径10.0cm、残存率底部1/4
45-51	杉8 2住	2号住	堀之内	注口土器注口部・胴部	注口部上部に突起	56.7	長石、石英、雲母、小礫、赤色粒子	外面ナデ一部ミガキ	残存部無文	-	-
45-52	杉8 P-No.4+杉8 2住	2号住	加曾利B1	注口土器口縁部～底部	-	358.4	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ナデ	口縁に沿って1条の隆帯を貼付し、隆帯上にキザミ施文。7条1組(一部2条1組)の条線による文様	-	残存部高12.3cm、推定口径8.2cm、底径9.8cm、残存率口縁部1/10～胴部1/2～底部1/1。注口部欠損。底面に網代痕あり
46-1	A区No.4	3号住	称名寺中段階	深鉢口縁部～底部	平口縁	3942.5	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面口縁部横位ミガキ、胴部下部縦位ミガキ、口唇部ナデ、内面口縁部付近横位ナデ・胴部横位ナデ・縦位ナデ、底面ナデ	帯縄文と無文帯による縦位S字状の文様。3単位残存するが、元は4単位と思われる	LR縦位・斜位	器高50.0cm、口径37.8cm、底径7.0cm、残存率口縁部3/4～胴部3/4～底部7/8。胎土に角閃石を多く含む。外面胴部に光沢のある黒色の付着物が見られる
47-2	杉8 A区P一括	3号住	中期	浅鉢口縁部	平口縁	156.8	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	残存部無文	-	内面に赤彩が見られる
47-3	杉8 A区P一括	3号住	中期後半～後期	深鉢胴部	-	50.7	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	内面ナデ後横位ミガキ	縦位沈線が複数見られ、沈線間は無文。縄文施文。縦位沈線から伸びる斜位の沈線が僅かに見られる	RL縦位	-
47-4	杉8 A区No.5	3号住	堀之内2	深鉢口縁部～胴部	平口縁	874.6	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ後口縁部横位ミガキ・胴部斜位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ縁部一部横位ミガキ・胴部大部分は器面荒れ	胴部上半に2条1組の沈線による三角文	-	残存部高31.5cm、推定口径28.0cm、残存率口縁部1/3～胴部1/3。胎土に小礫を多く含む。内面胴部下部に帯状に黒色の付着物が見られる。その他非接合同一物体19.247.4gあり
47-5	杉8 A区一括	3号住	堀之内1	深鉢胴部	-	54.4	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位ナデ、内面横位ナデ	縦位沈線1条、上部がやや弧状となった縦位1条の沈線を施文	-	-



第16表 第8次調査縄文時代土器観察表 (5)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
47-6	杉8 A区一括	3号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁か、突起有り(外面は欠損)	35.6	長石、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上キザミ施文。内面に沈線による文様。内面側突起部に横位沈線を複数施文。突起両脇、下に凹形刺突文	-	補修孔あり。外面から内側に向かっての穿孔で断面は楕円状。残存部の外面直径1.2cm、内面0.5cm
47-7	杉8 A区P一括	3号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	19.3	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後一部横位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上押圧	-	
47-8	杉8 A区P一括	3号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	26.1	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	口唇部ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上キザミ施文、8字状の貼付文	-	外面に黒色の付着物が微量見られる
47-9	杉8 A区一括	3号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	46.7	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上、口唇部縁に刺突文施文。破片下端に僅かに横位沈線が見られる	-	
47-10	杉8 A区P一括	3号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	29.3	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	2条の沈線間に縄文を施文した帯状の縄文による文様	RL縦位	
47-11	杉8 A区P一括	3号住	堀之内2	深鉢胴部	-	24.2	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ後横位ミガキ、内面横位ナデ	横位1条の隆帯。隆帯上に刺突文施文。横位1条の沈線、沈線下部に縄文施文	LRか	胎土に角閃石を多く含む
47-12	杉8 A区P一括	3号住	堀之内2	深鉢胴部	-	24.6	長石、角閃石、赤色粒子	外面横位ナデ、内面ナデ	2条の沈線間に縄文を施文した帯状の縄文による文様。三角状、X字状等になるか	RL縦位・横位	外面に黒色の付着物が微量見られる
47-13	杉8 A区表土～IV層一括	3号住	堀之内2	深鉢胴部	-	35.5	石英、雲母、角閃石	外面ナデ後縦位ミガキ	横位沈線上部に縄文が見られる	LRか	
47-14	杉8 A区P一括	3号住	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	28.4	長石、雲母、角閃石、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	縦位沈線による文様	-	
47-15	杉8 A区No.1	3号住	堀之内	深鉢底部	平底	92.8	長石、角閃石、小礫	内面ナデ、外面横位ミガキ	残存部無文	-	残存器高4.0cm、推定底径10.5cm、残存率底部1/4。底面に網代痕あり
47-16	杉8 A区西拡一括	3号住	堀之内	深鉢底部	平底	27.5	長石、石英、角閃石	外面横位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高2.8cm、推定底径9.2cm、残存率底部1/6。底面に網代痕あり
47-17	杉8 A区No.3	3号住	堀之内	深鉢底部	平底	68.1	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	残存部無文	-	残存器高1.4cm、推定底径12.8cm、残存率底部1/3。底面に網代痕あり
47-18	杉8 A区一括	3号住	堀之内	深鉢底部	平底	59.7	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高1.7cm、推定底径9.1cm、残存率底部1/2。底面に網代痕あり
47-19	杉8 A区一括	3号住	堀之内	深鉢底部	平底	49.3	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ・縦位ミガキ、内面ナデ	残存部無文	-	残存器高4.6cm、推定底径12.2cm、残存率底部1/5。底面に網代痕あり
48-20	杉8 A区西拡一括	3号住	加曾利B1	深鉢口縁部	平口縁	99.9	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、口唇部ミガキ、内面横位ナデ	沈線による斜格子文	-	
48-21	杉8 A区一括	3号住	加曾利B1	浅鉢口縁部	波状口縁	30.7	長石、角閃石、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ナデ	外面無文。内面に複数の横位沈線による文様。沈線間にキザミ施文。口唇部に突起状のものが見られる	-	
48-22	杉8 A区一括	3号住	加曾利B1	浅鉢口縁部	波状口縁か	18.5	長石、石英、角閃石	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ	外面無文。内面に複数の横位沈線による文様。同心円状の文様も見られる	-	外面にやや影らんだ部分が見られる。突起等の痕跡か
48-23	杉8 A区西拡一括	3号住	加曾利B1	浅鉢口縁部	波状口縁	23.5	長石、石英、雲母、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ	外面無文。内面に口縁に沿った沈線と微隆起帯による文様。沈線間にキザミ施文	-	
48-24	杉8 A区No.2	3号住	加曾利B1	注口土器胴部・把手あり	把手あり	96.5	長石、石英、赤色粒子	外面ミガキ、内面ナデ・粘土帯の痕跡が顕著	胴部に把手貼付。把手に沿って2条の沈線が沿う。沈線間の一部に細かいキザミが見られる	-	
48-25	杉8 A区P一括	3号住	加曾利B1	注口土器口縁部	波状口縁、突起あり	12.4	長石、石英、雲母、角閃石	内面ナデ	波頂部に8字状の突起あり。口縁に沿う複数の沈線。波頂部下に縦位4ヶの凹形刺突文	-	凹形刺突には竹管状工具を使用
48-26	杉8 A区P一括	3号住	後期	深鉢口縁部	平口縁	41.5	長石、石英、小礫	外面器面荒れ、口縁部ナデ、内面横位ナデ	無文と思われるが器面が荒れているため詳細は不明	-	
48-27	杉8 A区西拡一括	3号住	後期	深鉢口縁部	平口縁	48.1	長石、角閃石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ミガキ	上部無文、下部に縄文施文	LR横位	外面に黒色の付着物が多く見られる。胎土に角閃石を多く含む
48-土1	杉8 19土坑 No.1	1号土坑	堀之内2	深鉢口縁部～胴部	平口縁	720.5	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位ナデ・口縁部横位ミガキ、口唇部ナデ、内面ナデ・口縁部横位ミガキ	胴部に縦位沈線を複数施文する	-	残存器高23.5cm、推定口径29.4cm、残存率口縁部1/2～胴部1/2。その他非接合同一 個体17点517.2gあり
48-土2	杉8 19土坑 No.2	1号土坑	堀之内	注口土器胴部	-	172.9	長石、石英、角閃石	外面横位ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ	上部に横位沈線による文様。沈線内に縄文施文。横位沈線以下残存部は無文	RLか	残存器高10.4cm、胴部最大径19.4cm、残存率胴部1/4。その他非接合同一 個体1点89.4gあり
48-土3	杉8 19土坑	1号土坑	堀之内2	深鉢胴部	-	36.4	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	縦位沈線による文様	-	胎土に角閃石を多く含む
48-土4	杉8 19土坑	1号土坑	堀之内1	深鉢胴部	-	27.6	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	縄文施文後沈線による重弧文状の文様施文。沈線間磨消	RL縦位	外面に黒色の付着物が多く見られる
48-2	杉8 35ピット	JP35	勝坂2	深鉢胴部	-	37.3	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	隆帯による楕円状の区画。区画内縦位沈線充満	-	
48-3	杉8 37ピット	JP37	後期	深鉢口縁部	平口縁	27.1	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	口縁部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ	縄文施文	RL横位	
49-1	杉8 IVa一括	遺構外	早期	深鉢口縁部	平口縁	54.0	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	捺糸文を横位に施文	捺糸文R横位	

第17表 第8次調査縄文時代土器観察表(6)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等		備考	
49-2	杉8 IV中層	遺構外	勝坂2(7b)	深鉢口縁部	平口縁	75.8	長石、雲母、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁部、幅広の隆帯上に縄文施文。隆帯に沿って波状沈線、工具をロッキングしながら施文したと思われる波状沈線状の文様が見られる。左端に僅かに連続した縦位のキザミが見られる	RL縦位・横位	胎土に雲母を多く含む。補修孔が1ヶ所見られ、内外面の両方から穿孔している。外面は楕円形で長軸1.5cm、短軸1cm、内面は円形で径1.1cm。
49-3	杉8 IVa一括	遺構外	勝坂2(7b)	深鉢胴部	-	23.6	長石、雲母	内面ナデ	平行沈線による区画。区画を構成する平行沈線には縦斜文施文。区画内は縦位沈線充填	-	胎土に雲母を多く含む、脆い
49-4	杉8 IVa層	遺構外	勝坂3	深鉢胴部	-	37.1	石英、雲母	内面ナデ	環状の貼付文。隆帯を貼付し隆帯上に沈線を複数施文。僅かに平行沈線による文様が見られる	-	-
49-5	杉8 II層	遺構外	中期後半～後期	深鉢口縁部	平口縁	61.7	長石、石英、角閃石、小礫	口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	縦位条線文施文	-	-
49-6	杉8 IV中層	遺構外	中期～後期	深鉢底部	平底	280.0	長石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ、底面ナデ	残存部無文	-	残存器高7.2cm、底径8.4cm、残存率底部1/1。底面に明確な網代痕は見られないが、圧痕の様なものが所々見られる。胎土に赤色粒子を多く含む
49-7	杉8 IVa層	遺構外	中期～後期	浅鉢底部	平底	145.6	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、底面ナデ、内面ナデ	残存部無文	-	底面に網代痕なし。残存器高1.8cm、底径8.0cm、残存率底部1/1
49-8	杉8 IV中～下層	遺構外	称名寺古段階	深鉢口縁部	平口縁	51.7	長石、小礫	口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁部無文、横位1条の沈線で区画。沈線下部縄文施文。沈線による文様、沈線内側は無文	LR横位・斜位	胎土が脆い
49-9	杉8 IVa一括	遺構外	称名寺古段階	深鉢口縁部	平口縁	25.8	長石、角閃石	内面ナデ	弧状の沈線間に縄文施文	RL縦位	-
49-10	杉8一括	遺構外	称名寺古段階	深鉢胴部	-	37.4	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ後横位ミガキ	沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR縦位	胎土に角閃石が多く含まれる
49-11	杉8 IV中～下層	遺構外	称名寺中段階	深鉢胴部	-	58.4	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ後縦位ミガキ	垂下する隆帯、隆帯上に刺突文施文。縄文施文。磨消縄文による文様	無節L縦位	胎土に石英を多く含む
49-12	杉8東サブトレ	遺構外	堀之内1	深鉢突起	突起	48.5	長石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面ナデ	橋状の突起。両側面に円形の窪み。上面は椀状に窪む	-	-
49-13	杉8 II層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	波状口縁	27.2	長石、小礫	器面荒れ	波頂部に突起あり、突起上面に沈線による渦巻文。突起下部に円形の孔あり。口縁に沿う1条の沈線。縦位沈線を複数条施文。沈線間に楕円状の刺突文を充填	-	胎土に小礫を多く含む
49-14	杉8一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	52.9	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、口唇部ナデ、内面ナデ	口縁に沿う2状の沈線。縦位の円形刺突文。斜位の沈線	-	-
49-15	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	36.3	長石、石英、角閃石	外面横位ナデ、口唇部ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線	-	-
49-16	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	-	33.9	長石、石英、赤色粒子	外面横位ナデ後横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線	-	-
49-17	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	24.9	長石、雲母、角閃石、小礫	外面横位ナデ・縦位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線	-	-
49-18	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	18.7	長石、雲母、角閃石、小礫	外面横位ナデ・縦位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線	-	-
49-19	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	26.9	長石、雲母、角閃石、小礫	外面横位ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線	-	19、20同一個体
49-20	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	35.4	長石、雲母、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線	-	19、20同一個体
49-21	杉8 IV中～下層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	53.6	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ナデ後横位ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁部に円形刺突文、沈線による文様が見られる。隆帯が垂下。隆帯上に押圧	-	-
49-22	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁、突起あり	82.8	長石、雲母、角閃石、小礫	内面ナデ	口縁部に突起あり。突起上面は椀状に窪む。突起下部に楕円形の孔あり。突起よりやや斜め方向に隆帯垂下	-	-
49-23	杉8 IV中層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁、口縁一部が突出	51.9	長石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁突出部からややずれた部分に縦位2ヶ所の円形刺突文。縦位隆帯垂下、隆帯上に刺突文。内面口縁突出部に横位2ヶ所の円形刺突文施文	-	-
49-24	杉8 II層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	波状口縁	24.7	長石、石英、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ一部横位ミガキ	波頂部に円形の孔あり。下端に僅かに縦位沈線がみられる	-	-
49-25	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	波状口縁	61.6	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、口唇部ナデ、内面ナデ	波頂部下に円形の孔あり。孔の周囲に1条の弧状の沈線。孔から1条の隆帯が垂下。隆帯上に円形刺突文施文。内面には沈線による円形の文様、数条の弧状の文様が見られる	-	25、26同一個体
50-26	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	波状口縁	75.4	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ後縦位ミガキ・横位ミガキ、内面横位ミガキ	波頂部に円形の孔。孔の周囲に沈線による渦巻状の文様。隆帯が1条垂下し隆帯上に円形の刺突文。内面は孔を中心に同心円状の文様施文	-	25、26同一個体
50-27	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	91.2	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ、内面横位ナデ	横位1条の隆帯。隆帯上に刺突文施文。隆帯上部無文。隆帯下部は沈線による文様。隆帯上に8字状の貼付文	-	-

第18表 第8次調査縄文時代土器観察表(7)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考		
50-28	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	26.2	長石、石英、小礫	外面ナデ、内面ナデ一部横位ミガキ 横位2条の隆帯。隆帯上に円形刺突文。2条の隆帯を繋ぐ棒状の貼付文。棒状の貼付文に向かって1条の隆帯が垂下、隆帯上に浅い押圧。2条の隆帯下部には沈線による文様か	-	内面に黒色の付着物が多く見られる	
50-29	杉8一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	36.9	長石、石英、小礫	内面横位ナデ 縦位、横位の隆帯貼付。隆帯上に刺突文施文。隆帯の交点に8字状の貼付文。隆帯に沿う沈線。沈線内側に縄文と思われる文様が見られる	RLか	外面に黒色の付着物が見られる。胎土に石英が多く含まれる	
50-30	杉8表土一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	43.0	長石、石英、小礫	内面横位ナデ	沈線による渦巻文	-	-
50-31	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	102.0	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	内面横位ナデ	沈線による文様。渦巻文	-	-
50-32	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	31.3	長石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	沈線による文様	-	-
50-33	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	89.9	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面ナデ	隆帯によるH字状の文様。隆帯に沿う沈線による文様。円形の刺突文が3ヶ所見られる	-	円形刺突には竹管状工具を使用。33~35同一個体
50-34	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	43.8	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ後横位ミガキ	縄文施文。沈線による渦巻状の文様	LR斜位	33~35同一個体
50-35	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	54.3	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面ミガキ	縄文施文。沈線間を磨消し文様を施文	LR横位・斜位	33~35同一個体
50-36	杉8 II層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	46.1	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線。縦位弧状の沈線を施文。沈線間に縄文施文	LR横位	-
50-37	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	17.8	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線。縦位沈線。逆U字状の沈線による文様	-	-
50-38	杉8表土直下一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	33.8	長石、雲母、小礫	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線。沈線による文様	-	胎土に小礫を多く含む
50-39	杉8一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	25.7	長石、石英、雲母、小礫	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線。縦位の沈線が2条僅かに見られる	-	-
50-40	杉8一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	39.9	長石、石英、雲母、角閃石、小礫	外面ナデ一部ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線。沈線による文様	-	外面に黒色の付着物が微量見られる
50-41	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	66.3	長石、角閃石、小礫	口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線。1条の隆帯と左右に1条の沈線が垂下。縄文施文	LR縦位	41、42同一個体
50-42	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	46.3	長石、角閃石、小礫	外面ナデ、口唇部ナデ、内面ナデ	口縁に沿う1条の沈線。1条の隆帯が垂下し両側に沈線が沿う。不明瞭であるが縄文と思われる痕跡が見られる	不明瞭なため詳細不明	41、42同一個体
50-43	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢口縁部	平口縁	19.7	長石、石英、角閃石	口唇部ナデ、内面横位ナデ	口縁に沿う1条の沈線。5条の沈線が垂下し、左右に縄文を施文	LR斜位	外面に黒色の付着物が見られる
50-44	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	111.7	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面一部縦位ミガキ、内面ナデ	縦位・弧状の沈線による文様	-	胎土に小礫を多く含む。44、45同一個体
50-45	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	62.1	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面ナデ	縦位沈線による文様	-	胎土に小礫を多く含む。44、45同一個体
50-46	杉8一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	52.6	長石、石英、小礫	外面縦位ミガキ、内面器面荒れ	縦位沈線による文様	-	-
50-47	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	54.7	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ	縦位沈線による文様	-	-
50-48	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	52.7	長石、雲母、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ	縦位沈線による文様	-	-
51-49	杉8一括	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	66.9	長石、角閃石、小礫	外面縦位ミガキ、内面縦位ナデ	縦位沈線による文様	-	胎土に角閃石を多く含む
51-50	杉8 IV中層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	66.6	長石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ	縦位沈線による文様	-	胎土に小礫、赤色粒子を多く含む。外面に黒色の付着物が見られる。50、51同一個体
51-51	杉8 IV中層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	106.4	長石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ	残存部のほとんどが無文であるが僅かに縦位沈線が見られる	-	胎土に小礫、赤色粒子を多く含む。内面に黒色の付着物が見られる。50、51同一個体
51-52	杉8 IVa層	遺構外	堀之内1	深鉢胴部	-	28.7	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ナデ後横位ミガキ	縦位沈線による文様。沈線施文後縄文施文	LR縦位	-
51-53	杉8一括	遺構外	堀之内1	浅鉢突起	突起	109.6	長石、雲母、角閃石、小礫	内面ミガキ	突起上面は皿状で無文。外面に沈線による渦巻文、円形刺突文が見られる	-	-
51-54	杉8 IV中層	遺構外	堀之内1	浅鉢口縁部	平口縁	88.9	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	口唇部ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁に沿う2条の沈線。沈線間に刺突文施文。沈線による文様施文。口縁部に縦位2ヶ所の円形刺突文あり	-	-
51-55	杉8東サブトレ	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部、突起	平口縁、突起あり	19.7	長石、雲母、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ	非常に薄い隆帯を口縁に沿って貼付し、隆帯上に押圧を加える。8字状の貼付文。突起に円形の孔あり。突起内面に沈線による渦巻文	-	-
51-56	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	29.3	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ	口縁に沿う1条の沈線と隆帯。隆帯上に刺突文。内面にも口縁に沿う1条の沈線	-	-
51-57	杉8表土直下一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	19.9	長石、石英	外面横位ナデ・一部横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ	非常に薄い隆帯を貼付し、隆帯上に刺突文を施文したと思われる。横位沈線施文。沈線下部に縄文施文	RL縦位	外面に黒色の付着物が見られる
51-58	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	53.4	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面ナデ後上部ミガキ	口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上押圧施文。隆帯下部に2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位	胎土に角閃石を多く含む
51-59	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	30.1	長石、石英、角閃石	外面ナデ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ	口縁に沿う隆帯、隆帯刺突文施文。隆帯上に1ヶ所貼付文が見られ、貼付文上に円形刺突文	-	-

第19表 第8次調査縄文時代土器観察表(8)

図-番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考	
51-60	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	39.1	長石、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後一部横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯。隆帯上キザミ施文、楕円状の貼付文。2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LRか	-
51-61	杉8 II層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	32.9	長石、石英	外面横位ミガキ、内面横位ナデ後一部横位ミガキ 口縁に沿う隆帯、隆帯上刺突文施文	-	-
51-62	杉8 IV中層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	16.7	長石、石英、小礫、赤色粒子	口唇部ナデ、内面横位ミガキ 口縁に沿う2条の隆帯、隆帯上に刺突文施文。刺突文を施した貼付文。横位沈線が見られ、沈線下部に僅かに縄文が見られる	LRか	-
51-63	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	28.5	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ一部ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ後横位ミガキ 口縁に沿う2条の隆帯。隆帯上に刺突文施文。8字状の貼付文	-	63~65同一個体
51-64	杉8 II層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	13.8	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ナデ 口縁に沿う2条の隆帯、隆帯上キザミ施文	-	63~65同一個体
51-65	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	28.4	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面横位ナデ後横位ミガキ、内面横位ナデ後横位ミガキ 口縁に沿う2条の隆帯。隆帯上に刺突文施文	-	63~65同一個体
51-66	杉8一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	36.1	長石、角閃石	口唇部ナデ、内面ナデ後横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。隆帯下部に1条の帯状の縄文。複数の沈線による三角状または菱形状と思われる文様、周囲に帯状の縄文施文	RL縦位・横位	66、67同一個体
51-67	杉8一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	30.0	長石、角閃石	口唇部ナデ、内面ナデ後横位ミガキ 口縁に沿う1条の隆帯、隆帯上刺突文施文。楕円状の貼付文。帯状の縄文による三角状の文様。複数の沈線による三角状または菱形状と思われる文様	RL縦位・横位	66、67同一個体
51-68	杉8 IV中~下層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	54.2	長石、小礫、赤色粒子	外面器面荒れ、口唇部ナデ、内面ナデ・やや器面荒れ 口縁に沿う1条の隆帯。沈線による文様。器面が荒れているため縄文と思われる痕跡は僅かに見られるが詳細は不明	-	-
51-69	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	21.1	長石、石英	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位	-
51-70	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	25.2	長石、石英、角閃石	外面ナデ、口唇部ナデ、内面ナデ 沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。縄文は非常に細かい	RLか	-
51-71	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	18.1	長石、石英、角閃石	外面横位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ 沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。縄文は非常に細かい。三角形となるか	RLか	-
51-72	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部付近	-	38.0	長石、石英、角閃石、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 横位の隆帯を貼付。隆帯上に刺突文、8字状の貼付文。隆帯下部に横位沈線施文	-	-
51-73	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	21.9	長石、角閃石、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ナデ 横位1条の隆帯。隆帯上に刺突文施文。8字状の貼付文	-	-
52-74	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	94.3	長石、石英、角閃石、小礫	外面無文上部横位ミガキ下部縦位ミガキ、内面縦位ナデ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による三角状の文様か	RLか	外面に黒色の付着物が見られる
52-75	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	38.4	長石、雲母、角閃石、小礫	内面ナデ 2条1組の沈線による文様、横位・波状の文様。沈線による文様間に縄文が見られる。縄文は非常に細かい	器がやや荒れているため詳細は不明	-
52-76	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	口縁部	123.4	長石、角閃石、小礫	外面ナデ、内面ナデ 沈2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。三角状になるか	LR横位	-
52-77	杉8一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	35.3	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面縦位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様。縄文は不明瞭	RLか	-
52-78	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	63.7	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面縦位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した	無節L横位	-
52-79	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	32.0	長石、石英、角閃石、小礫	外面ミガキ、内面縦位ミガキ 横位沈線施文。沈線上部に縄文施文	LR横位	-
52-80	杉8一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	55.0	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面ナデ 2条の沈線間に縄文を施し、中央部分に沈線で囲われた長方形の無文部分を設ける	RL縦位	外面に黒色の付着物が見られる
52-81	杉8表土一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	39.3	長石、石英、小礫、赤色粒子	内面ナデ 沈線による文様	-	-
52-82	杉8表土一括	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	51.9	長石、石英、角閃石	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 横位の微隆起帯。微隆起帯上に刺突文施文、貼付文の痕跡が見られる	-	-
52-83	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	45.9	長石、雲母、角閃石、小礫	内面ナデ 沈線による区画か。沈線内側に縄文施文	RL縦位	-
52-84	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁	57.9	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面口縁部横位ミガキ下部縦位ミガキ、口唇部ナデ、内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	-
52-85	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	深鉢口縁部	平口縁か	13.5	長石、角閃石、赤色粒子	口唇部ナデ、内面横位ミガキ 沈線による文様	-	-
52-86	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	64.2	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ナデ 縦位沈線による文様。沈線間に縄文施文	LRか	胎土に角閃石を多く含む。86~91同一個体
52-87	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	46.3	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	外面に黒色の付着物が見られる。胎土に角閃石を多く含む。86~91同一個体
52-88	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	50.3	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	胎土に角閃石を多く含む。86~91同一個体
52-89	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	44.1	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	胎土に角閃石を多く含む。86~91同一個体
52-90	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	18.2	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	胎土に角閃石を多く含む。86~91同一個体

第20表 第8次調査縄文時代土器観察表(9)

図番号	注記	遺構名	時期	器種	形状	重量(g)	胎土	文様等	備考	
52-91	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	深鉢胴部	-	75.7	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ、内面横位ミガキ 縦位沈線による文様	-	胎土に角閃石を多く含む。86-91同一個体
52-92	杉8 IVa層	遺構外	堀之内2	浅鉢口縁部	波状口縁	62.4	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ナデ一部斜位ミガキ、内面横位ミガキ 波頂部から隆帯を斜位に貼付。隆帯上にキザミ施文。内面の口縁部区画に隆帯と沈線による文様施文。欠損しているが孔の痕跡あり	-	-
52-93	杉8 表土一括	遺構外	堀之内2	浅鉢口縁部	波状口縁、突起あり	65.3	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 外面残存部無文。口唇部に面を持ち、沈線による文様、円形刺突文を施す。突起上面に沈線による渦巻文	-	-
52-94	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内2	注口土器胴部	-	128.7	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 横位、弧状の隆帯貼付	-	-
53-95	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	59.9	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、底面ナデ、内面横位ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕なし。残存器高4.3cm、推定底径9.8cm、残存率底部1/4
53-96	杉8 II層	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	67.4	長石、石英、角閃石、小礫	外面横位ミガキ 残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存器高3.0cm、推定底径9.0cm、残存率底部1/4
53-97	杉8 IVa層	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	58.5	長石、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存器高4.0cm、推定底径9.0cm、残存率底部1/4
53-98	杉8 一括	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	92.5	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面横位ミガキ、内面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕なし。残存器高3.2cm、推定底径10.6cm、残存率底部1/4
53-99	杉8 表土一括	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	91.4	長石、角閃石、小礫	内面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存器高1.6cm、推定底径9.6cm、残存率底部1/4
53-100	杉8 II層	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	67.1	長石、角閃石、小礫、赤色粒子	外面ミガキ 残存部無文	-	底面に網代痕あり
53-101	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	46.4	長石、角閃石、小礫	外面縦位ミガキ、内面ナデ、底面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕なし
53-102	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	61.5	長石、小礫、赤色粒子	外面縦位ミガキ、内面ナデ・底面ミガキ 残存部無文	-	底面に網代痕なし
53-103	杉8 IVa層	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	48.6	長石、石英、角閃石、小礫	外面縦位ナデ、内面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕あり。内面に黒色の付着物が多く見られる
53-104	杉8 IVa層	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	30.5	長石、雲母、角閃石、小礫	外面ミガキ、内面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕あり
53-105	杉8 表土一括	遺構外	堀之内	深鉢底部	平底	48.2	長石、雲母、角閃石、小礫	外面縦位ミガキ、内面器面荒れ 残存部無文	-	底面に網代痕あり
53-106	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内	深鉢又は浅鉢把手	把手	51.9	長石、石英、小礫、赤色粒子	外面ナデ、側面ナデ、内面ナデ 残存部無文	-	-
53-107	杉8 IVa層	遺構外	堀之内	浅鉢又は注口土器底部	平底	56.7	長石、角閃石	外面横位ミガキ、底面ミガキ、内面横位ミガキ 残存部無文	-	底面に網代痕なし。107、108同一個体
53-108	杉8 IVa層	遺構外	堀之内	浅鉢又は注口土器底部	平底	37.2	長石、角閃石	外面横位ミガキ、底面ナデ、内面ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕なし。外面に黒色の付着物が見られる。107、108同一個体
53-109	杉8 IVa層	遺構外	堀之内	浅鉢又は注口土器底部	平底	33.0	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ナデ 残存部無文	-	底面に網代痕あり。残存器高1.4cm、推定底径9.2cm、残存率底部1/4
53-110	杉8 一括	遺構外	堀之内	注口土器注口部・胴部	把手あり	62.7	長石、石英、角閃石、小礫、赤色粒子	内面横位ミガキ 橋状の把手。外面残存部に沈線による文様	-	-
53-111	杉8 IVa一括	遺構外	堀之内	注口土器注口把手	把手	62.6	長石、小礫	ミガキ 残存部無文	-	-
53-112	杉8 IVa一括	遺構外	加曾利B1	深鉢口縁部	平口縁	18.9	長石、石英、角閃石	外面ナデ、内面横位ミガキ 多くは欠損しているが口唇部は小波状に成形されたと思われる。外面に3条の横位沈線施文。内面は口縁に沿う5条の沈線が見られ、沈線間にキザミが見られる	-	-
53-113	杉8 II層	遺構外	加曾利B1	浅鉢口縁部	波状口縁	16.5	長石、角閃石、小礫	外面ミガキ、口唇部ミガキ、内面ミガキ 外面無文。内面に沈線による文様。口縁に沿った刺突文	-	-
53-114	杉8 IVa一括	遺構外	加曾利B	深鉢胴部	-	37.9	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位	114~117同一個体
53-115	杉8 IVa一括	遺構外	加曾利B	深鉢胴部	-	16.5	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 帯状の縄文内に沈線で区切られた長方形状と思われる無文部分が見られる。縄文が一部羽状となる	LR縦位・横位	114~117同一個体
53-116	杉8 IVa一括	遺構外	加曾利B	深鉢胴部	-	14.2	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 2条の沈線間に縄文を施した帯状の縄文による文様	LR横位	114~117同一個体
53-117	杉8 IVa一括	遺構外	加曾利B	深鉢胴部	-	66.6	長石、石英、小礫	外面横位ミガキ、内面横位ミガキ 大部分が無文。上部に沈線と縄文が僅かに見られる	LR横位	114~117同一個体
53-118	杉8 IVa一括	遺構外	後期	深鉢胴部	-	85.5	長石、石英、雲母、角閃石、小礫、赤色粒子	内面ナデ 縄文施文。施文方向は様々	無節L横位・縦位・斜位	-
53-119	杉8 IVa層	遺構外	後期	浅鉢口縁部	平口縁	88.7	長石、角閃石	外面横位ミガキ、口唇部ミガキ、内面横位ミガキ 残存部無文	-	-

第21表 第8次調査縄文時代石器観察表

図-番号	注記	器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	遺存状況	備考
41-66	杉 8-15 土坑	敲石	閃緑岩	(110.5)	(60.4)	39.5	293.1	器体下半欠損	裏面に凹み有り 1号住居跡
41-67	杉 8s-N0.27	石皿	安山岩	(137.5)	200.9	80.6	3229.5	断片	湾曲部全体磨痕面。1号住居跡
41-68	杉 8s-N0.27	石皿	安山岩	(275.8)	269.1	88.9	7245.0	器体上半欠損	湾曲部全体磨痕面。1号住居跡
42-69	杉 8-1 住	打製石斧	ホルンフェルス	112.6	70.5	29.0	262.5	基部一部欠損	分銅形 1号住居跡
42-70	杉 8-1 住	石錘	砂岩	70.4	49.0	14.8	68.4	完形	上下端に打欠き 1号住居跡
42-71	杉 8-1 住	磨石	ホルンフェルス	(67.2)	(27.4)	(44.0)	85.7	断片	両側面に磨痕有り 1号住居跡
42-72	杉 8-1 住	砥石	安山岩	79.5	53.8	34.0	97.4	断片	正面に凹み有り 1号住居跡
45-53	杉 8s-N0.16・17 土坑	石皿	閃緑岩	195.6	(97.6)	64.2	1786.4	断片	2号住居跡
48-1	杉 8-35 ビット	石核	黒曜石	25.5	35.4	12.9	9.7	完形	JP35
54-120	杉 8 IV a 一括	打製石斧	片状砂岩	96.0	47.1	19.4	100.6	完形	撥形?
54-121	杉 8 一括	打製石斧	頁岩	93.7	79.1	26.0	199.3	基部一部欠損	分銅形
54-122	杉 8 表土直下一括	打製石斧	ホルンフェルス	107.5	70.6	20.8	158.0	基部一部欠損	分銅形
54-123	杉 8 A 区一括	打製石斧	ホルンフェルス	77.3	68.3	20.5	110.5	断片	形状不明
54-124	杉 8 IV a 一括	磨製石斧	砂岩	(69.2)	48.7	31.2	140.1	刃部断片	ほぼ全面が磨痕に覆われている
54-125	杉 8 A 区一括	石錘	安山岩	68.5	44.2	16.4	60.9	完形	上下端に打欠き
54-126	杉 8 A 区 s 一括	石錘	砂岩	62.8	45.8	16.7	75.8	完形	上下端に打欠き
54-127	杉 8 一括	石錘	砂岩	48.5	48.0	17.2	56.0	完形	上下端に打欠き
54-128	杉 8 A 区 s 一括	敲石	安山岩	(95.0)	58.8	41.6	350.3	器体上半欠損	両面に磨痕、下端に敲打痕有り
54-129	杉 8 A 区 s 一括	敲石	閃緑岩	(66.0)	71.8	52.1	405.0	器体上半欠損	両面に磨痕+凹み、下端に敲打痕有り
55-130	杉 8 IV 中~下層	敲石	砂岩	145.6	56.4	50.6	546.4	完形	上下端に敲打痕有り
55-131	杉 8 A 区一括	磨石	閃緑岩	(100.3)	63.2	33.5	350.0	器体上半欠損	正面に凹み、両面に磨痕有り
55-132	杉 8 一括	磨石	砂岩	(56.5)	89.0	46.0	333.4	断片	両面に磨痕有り
55-133	杉 8 IV a 一括	凹石	花崗岩	90.5	84.0	41.2	496.9	完形	両面に磨痕および凹み有り
55-134	杉 8 A 区一括	磨痕を有する石器	砂岩	(53.0)	38.5	18.8	57.0	断片	裏面に磨痕有り
55-135	杉 8 A 区 s 一括	石皿	砂岩	(82.1)	63.7	31.3	237.1	器体上半欠損	両面に磨痕有り

## 第6章 まとめ

杉久保遺跡第7次、8次調査では、中・近世、縄文時代中・後期の遺構と遺物を確認することができた。

### 中・近世

発見した遺構のうち、土坑やピット類については配置に規則性は認められず、建物跡を構成するような状況は認められなかった。

調査区西側市道沿いに認められた、第7、8次調査の2号溝状遺構は延長約20mを測り、推定上幅約4m、深さ1.6～2mの溝底の幅が狭い薬研堀状を呈する遺構である。この溝状遺構は、杉久保遺跡第1次調査時にその存在が確認されており、第3次調査地点でも中世溝の一部が確認されている（第56図）。第1次調査では北辺150m以上、東辺約180mにわたり調査が行われ、西辺は一部分の調査と平面プランの確認で約220mの長さを確認している。南辺は不明ながら、東西、北と丘陵の平坦部分を非常に広い範囲をこの溝状遺構により台形状に区画されており、区画面積は3.5ha以上はあるものと思われる。第1次調査の概要報告（1983 河野ほか）によれば「規模は確認面で上端幅3～3.5m、深さ1.8～2.3mで断面形は箱薬研をなし、埋積状態より同時期と考えられる長方形の土坑が溝と直交するものと、わずかにずれる形で、東側南北方向に10口、北側東西方向に1口検出され、規模は1～1.5×2～2.5m、深さは溝底よりさらに1～1.5m、確認面より3～4mである。」とされ、東辺の溝状遺構を中心に、付帯施設とみられる掘り込みがあったことがわかる。今回の調査では、2号溝状遺構の構築年代を示す遺物の出土はなかったが、第1次調査では、北東コーナー付近でかわらけと北宋銭（咸平元宝、祥符元宝）の出土が記録されている。溝状遺構に囲まれた内側に中世の建物遺構は確認されておらず、この溝状遺構がどのような目的で設けられたのかは不明である。杉久保北部土地区画整理事業前の航空写真を見ると、溝状遺構とほぼ同じ場所、方向に道路があり、中世から現代に至るまでの長い間、この地割が継承されてきたものとみられる。

市域では、他に大谷市場遺跡や河原口坊中遺跡等で同様の溝（堀）状遺構により土地を区画する様子が見られ、中世の土地利用の一端を示すものと思われる。

### 縄文時代

杉久保遺跡第1次調査では、縄文時代遺構として中期は勝坂式期約52軒、加曽利E式期約194軒、後期は称名寺式期約3軒、堀之内式期44軒、加曽利B1式期約3軒他、計299軒の住居跡が検出されており、他に中期、後期とも多数の土坑も検出されている。中期勝坂期の住居跡は丘陵上に広く分布しているが、加曽利E式期には丘陵南側のA地区を中心に環状集落が形成され、後期、堀之内式期になるとC地区の丘陵斜面部が集落の中心となる（第57図）。今回の調査地点は、第1次調査区の隣接地であり、第1次調査では堀之内式期の住居跡が集

中しており、後期集落の展開が予測された。

第7、8次調査の結果、時期がわかる住居跡としては、中期勝坂期とみられる住居跡1軒、後期とみられる住居跡が最低でも3軒確認できた。各住居跡とも黒色土中に構築され、深い掘り込みや壁溝もなく、明瞭な貼り床も見られなかった。特に後期の住居跡の平面プランの確認は難しく、炭化物を含有する土層に堀之内式期を中心とした土器等がまとまって出土する状況から、住居跡と判断し、遺物取り上げ・覆土除去後にピットプランを確認した。多数確認されたピットが住居跡に帰属するか否かの判別は非常に難しい状況である。

当該遺跡における縄文時代後期の住居形態の変遷としては、称名寺式段階から柄鏡形住居跡がみられるようになり、堀之内式期には張り出し部の規模などに変化がみられるとともに壁際柱穴の配列の不規則化、敷石が認められなくなり、加曽利B1式期にかけて住居部の平面形の方角化などの変遷がみられるとされている。(1983 河野ほか)。

第7・8次調査1号住居跡、第8次調査2号住居跡は、支柱穴と想定されるピットは認められず、一部は住居跡の壁際柱穴の配列の可能性もあるが、やや不規則な配列である。敷石は認められなかった。第7・8次調査1号住居跡は平面形が楕円形を呈し、第8次調査2号住居跡は不明瞭ながら入口施設を持つ柄鏡形住居跡の可能性が考えられる。また、確認された各住居跡の埋甕に注目してみると、第7・8次調査1号住居跡は後期の浅鉢、第8次調査2号住居跡は後期とみられる無文の深鉢、第8次調査3号住居跡は称名寺式の深鉢であった。各住居跡の重複関係については不明であるが、土器形式の比較からでは、第8次調査3号住居跡→第7・8次調査1号住居跡→第8次調査2号住居跡の年代順が想定され、大きくは縄文時代後期前葉から中葉の範囲でとらえられよう。

今回の調査により、本地点付近は杉久保遺跡内縄文時代後期の住居跡が集中することがより明白となり、杉久保遺跡の縄文時代後期集落跡としては第1次調査C地区東側斜面と、今回調査区付近の西側緩斜面の2か所を中心とすることが明らかとなった。この成果は杉久保遺跡の縄文時代集落の変遷をたどる資料となると同時に、市域において特に縄文時代後期の調査資料は少なく、該期の集落様相の一端を知るうえで貴重なものとなった。

## 参考・引用文献

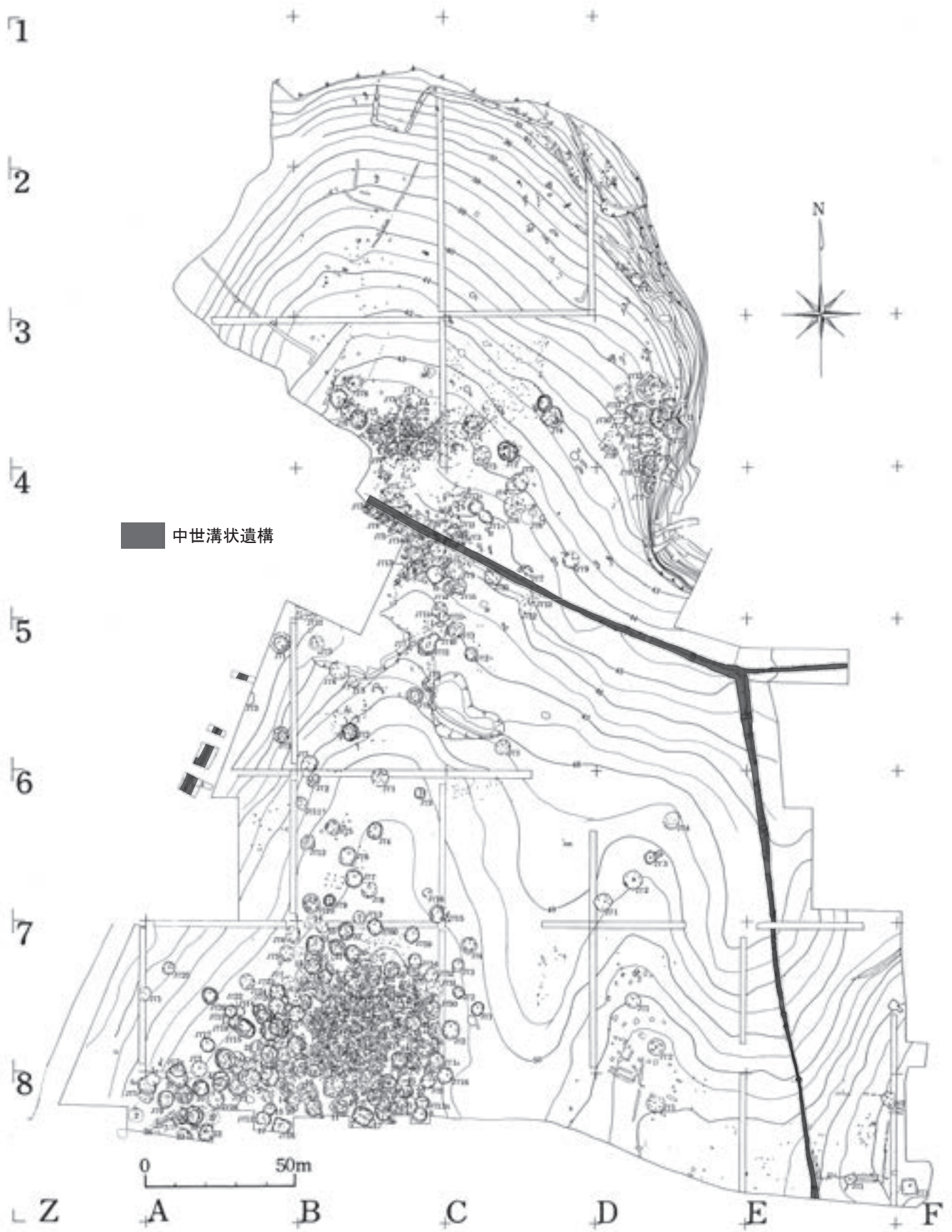
海老名市 1998 『海老名市史』資料編 原始・古代

河野一也ほか 1983 「杉久保遺跡」『日本窯業史研究所年報』Ⅱ 日本窯業史研究所

河野一也ほか 1984 「杉久保遺跡」『日本窯業史研究所年報』Ⅲ 日本窯業史研究所

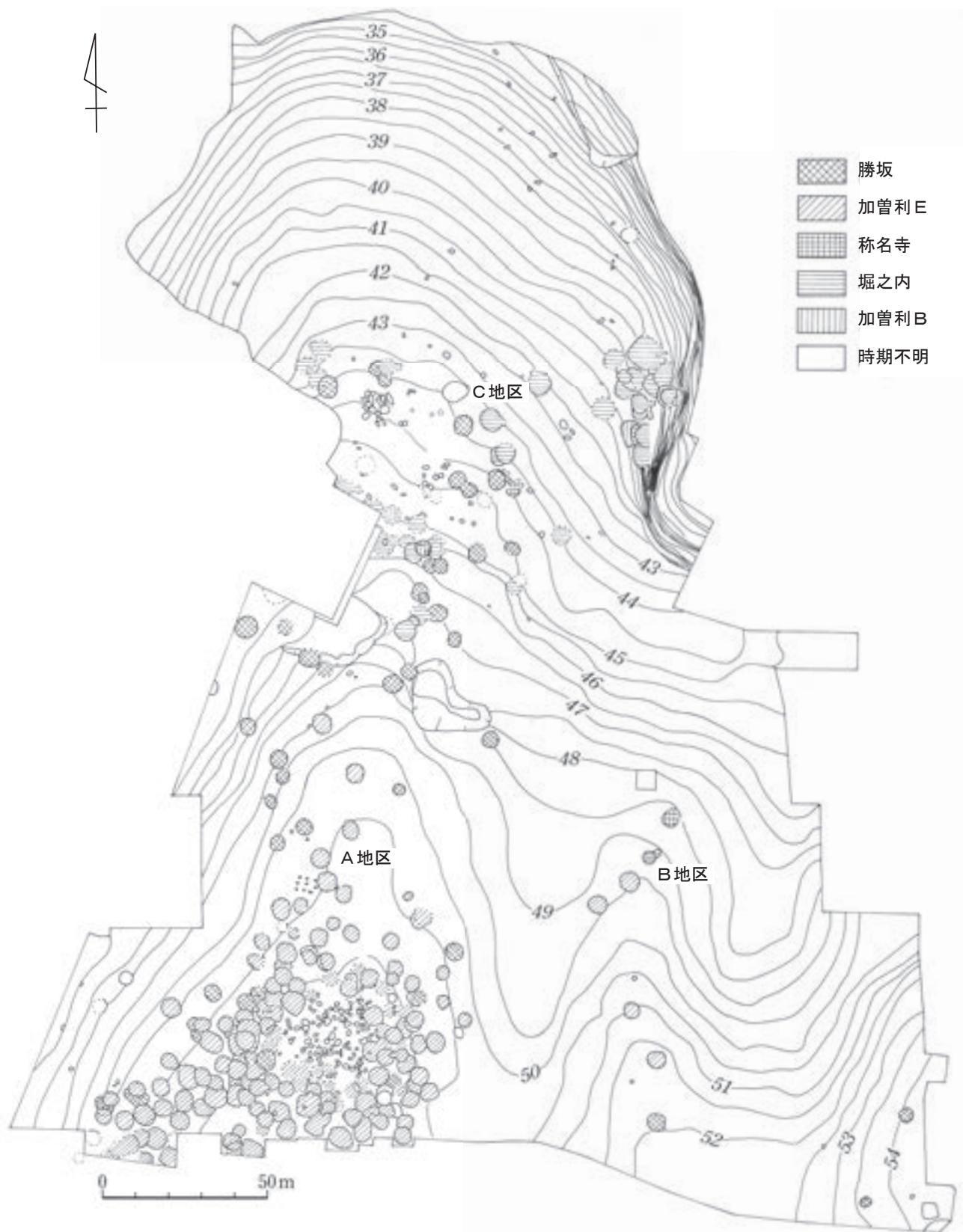
縄文時代研究プロジェクトチーム 2015・2016 「神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅷ」『研究紀要21 かながわの考古学』（公財）かながわ考古学財団





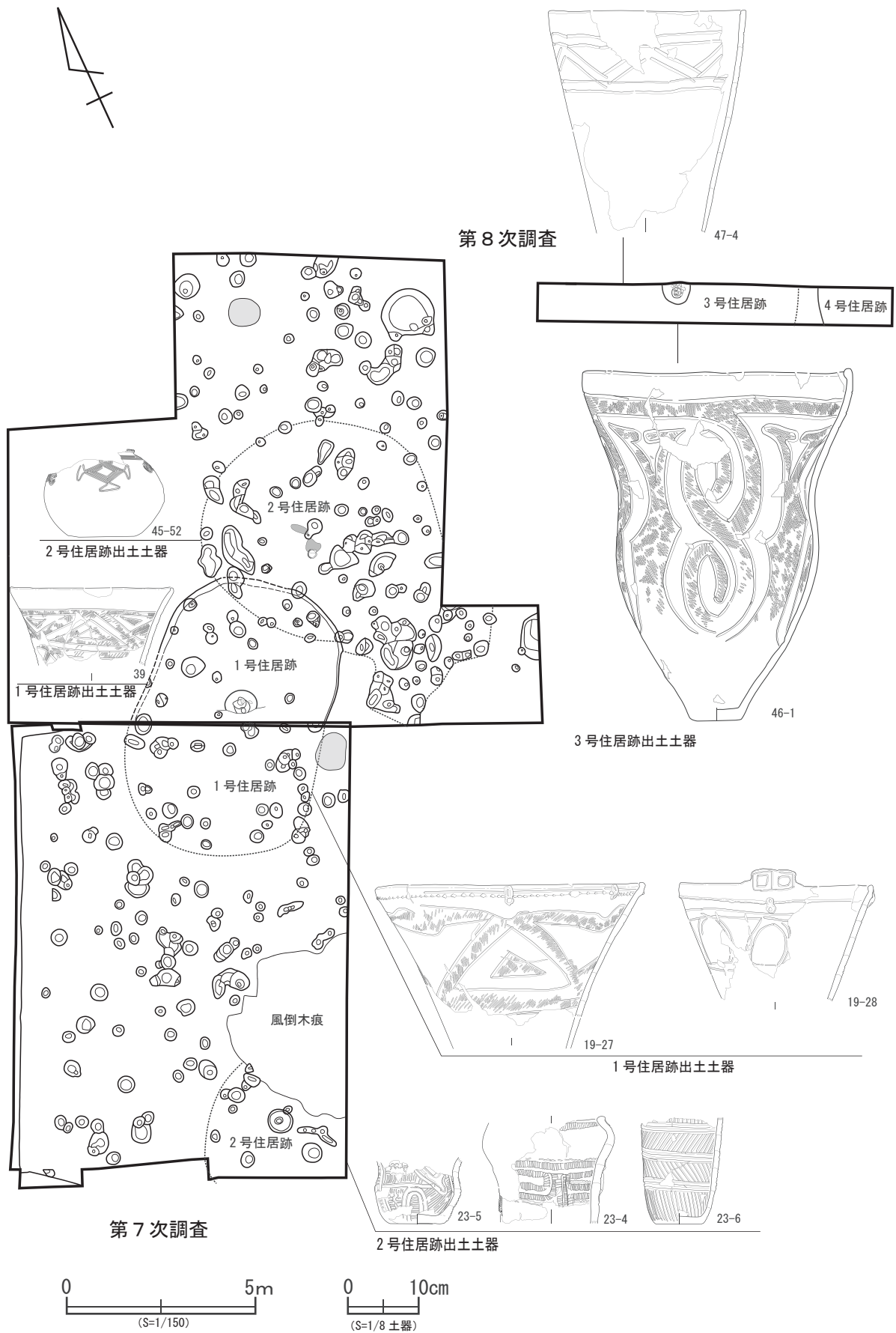
河野ほか 1984年 付図を一部改編転載

第56図 杉久保遺跡中世溝状遺構全体図



海老名市 1998年 掲載図を一部改編転載

第57図 杉久保遺跡第1次調査縄文時代集落展開図



第58図 第7・8次調査縄文時代主要遺構・出土土器図



# 写真図版



第8次調査風景





海老名市 H27.9.30 撮影

調査地点周辺空撮



1. 昭和31(1956)年 杉久保遺跡周辺空撮 (国土地理院所蔵)



2. 第7次調査地点調査前近景(北から)





1. 1・2号溝状遺構（北から）



2. 1・2号溝状遺構（南から）



3. 2号溝状遺構ピット調査状況（東から）



4. 2号溝状遺構土層堆積状況（北から）



5. 1・2号溝状遺構土層堆積状況（北から）

写真図版 4  
(第7次調査)



1. 1号土坑（南から）



2. 2号土坑土層堆積状況（西から）



3. 1号住居跡遺物出土状況（南東から）



1. 1号住居跡遺物出土状況（南西から）



2. 1号住居跡遺物出土状況（南から）

写真図版 6  
(第7次調査)



1. 1号住居跡付近ピット確認状況（南から）



2. 1号住居跡完掘状況（南から）



1. 2号住居跡埋甕炉（北から）



2. 2号住居跡確認状況（東から）



3. 2号住居跡遺物出土状況（南から）



4. 2号住居跡掘り方、土層堆積状況（北から）



5. 風倒木痕（東から）



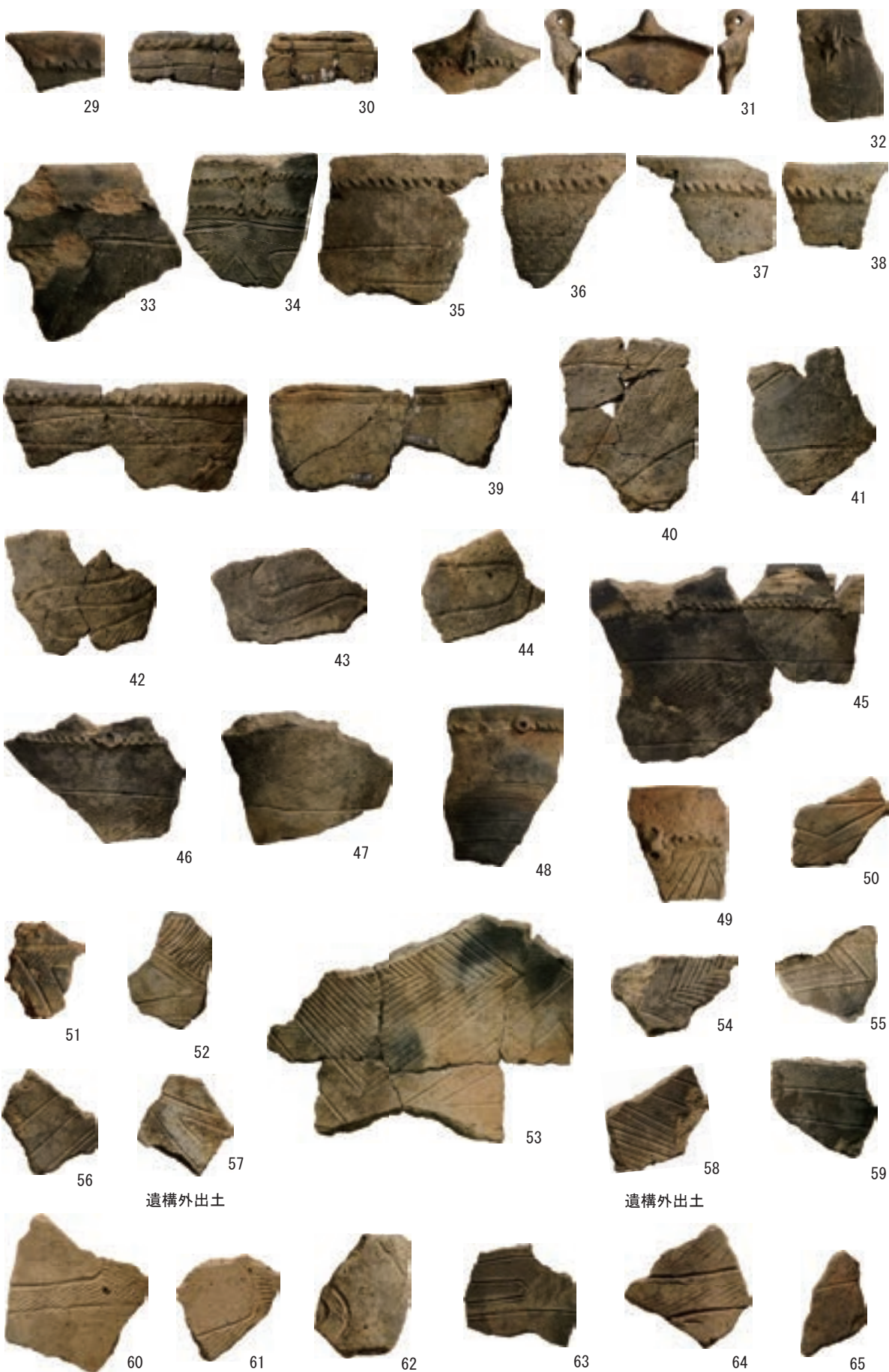
1. 調査区東壁、風倒木痕土層堆積状況（西から）



2. 縄文時代ピット完掘状況全景（北から）



第7次調査1号住居跡出土遺物(1)



第7次調査1号住居跡出土遺物(2)





第7次調査1号住居跡出土遺物(3)



第7次調査1号住居跡出土遺物(4)



第7次調査2号住居跡出土遺物



1 (JP34)

第7次調査ピット出土遺物



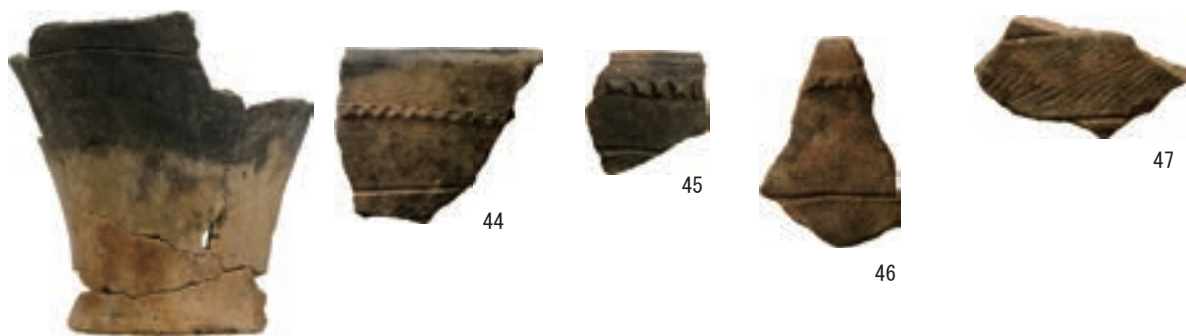
第7次調査2号溝状遺構出土遺物



第7次調査遺構外出土遺物(1)



第7次調査遺構外出土遺物(2)



第7次調査遺構外出土遺物(3)



第7次調査遺構外出土遺物(4)



75



76



77

第7次調査遺構外出土遺物(5)

写真図版 18  
(第8次調査)



1. 第8次調査No.1調査区近景(西から)



2. No.1調査区調査状況(西から)



3. 3号住居跡埋甕(南から)



4. No.1調査区東側遺構(4号住居跡)確認状況



5. 3号住居跡遺物出土状況(南から)





1. 第8次調査No.2調査区近景（南西から）



2. 2号溝状遺構調査状況（南から）



1. 中・近世1号土坑、ピット (南から)



2. 1号住居跡遺物出土状況 (北から)



3. 1号住居跡埋甕 (南から)



4. 1号住居跡石器出土状況



5. 1号住居跡完掘状況 (東から)



1. 2号住居跡埋甕調査状況（南から）



2. 2号住居跡埋甕（南から）



3. 2号住居跡炭化物出土状況（南から）



4. 2号住居跡出土土器



5. 2号住居跡土層堆積状況（西から）



1. 2号住居跡完掘状況（南東から）



2. 2号住居跡推定入口施設付近完掘状況（西から）



1. 1号土坑（東から）



2. 1号土坑遺物出土状況



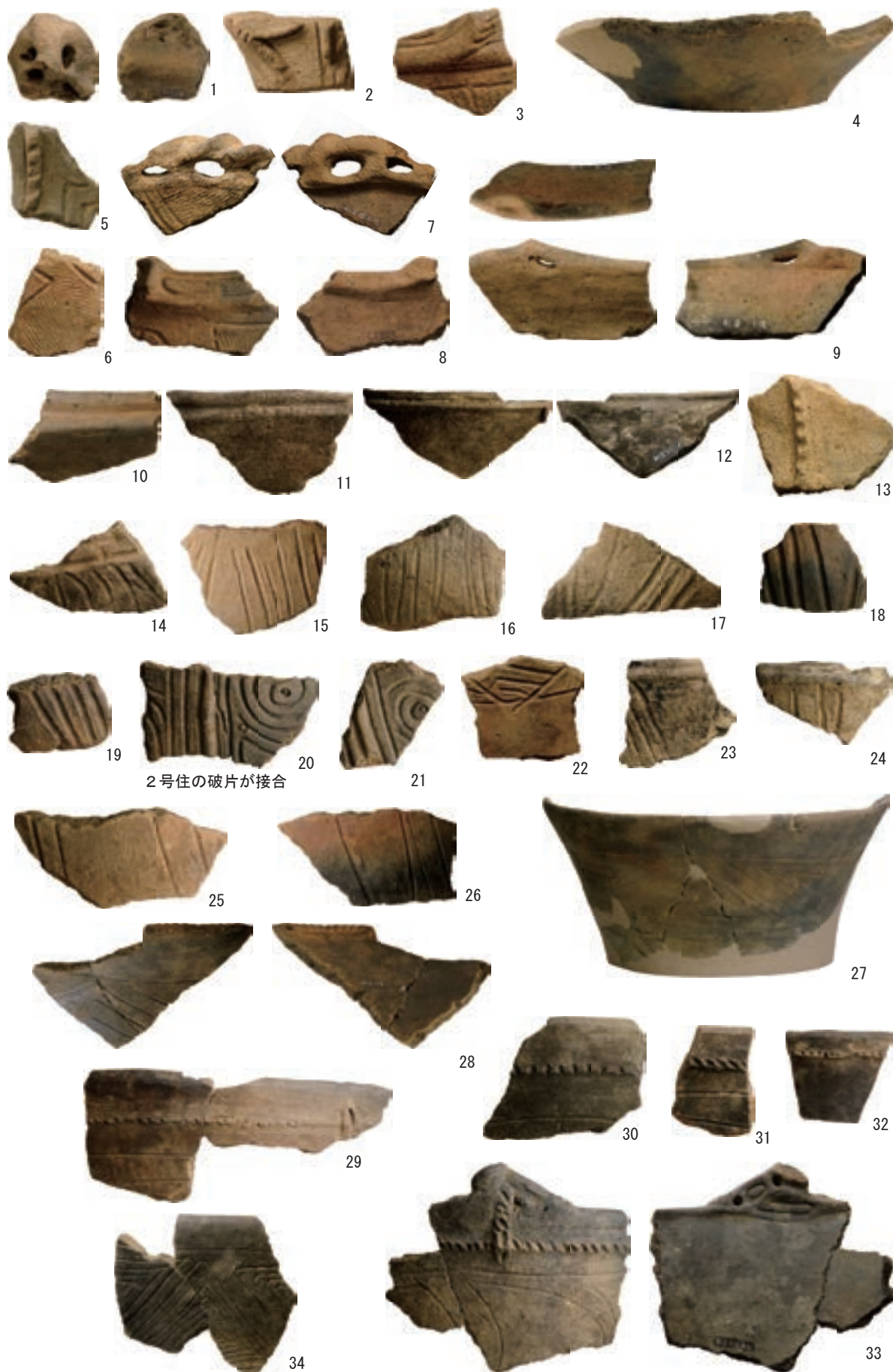
3. 1号土坑完掘（西から）



4. 2号土坑（西から）



5. 縄文時代ピット完掘状況（東から）



第8次調査1号住居跡出土遺物(1)



遺構外出土

遺構外出土

2号住の破片が接合

第8次調査1号住居跡出土遺物(2)







第8次調査 1号住居跡出土遺物 (4)



第8次調査 2号住居跡出土遺物 (1)



第8次調査2号住居跡出土遺物(2)



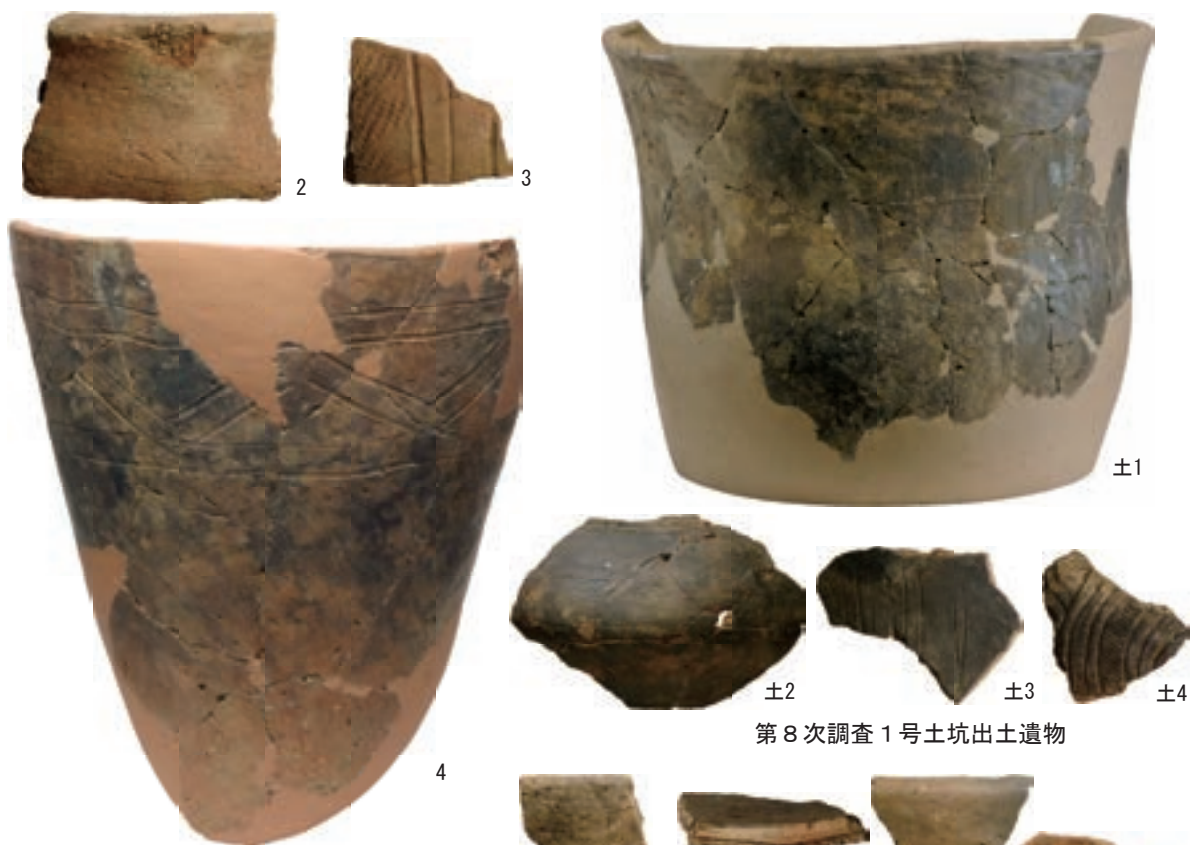
第8次調査2号住居跡出土遺物(3)



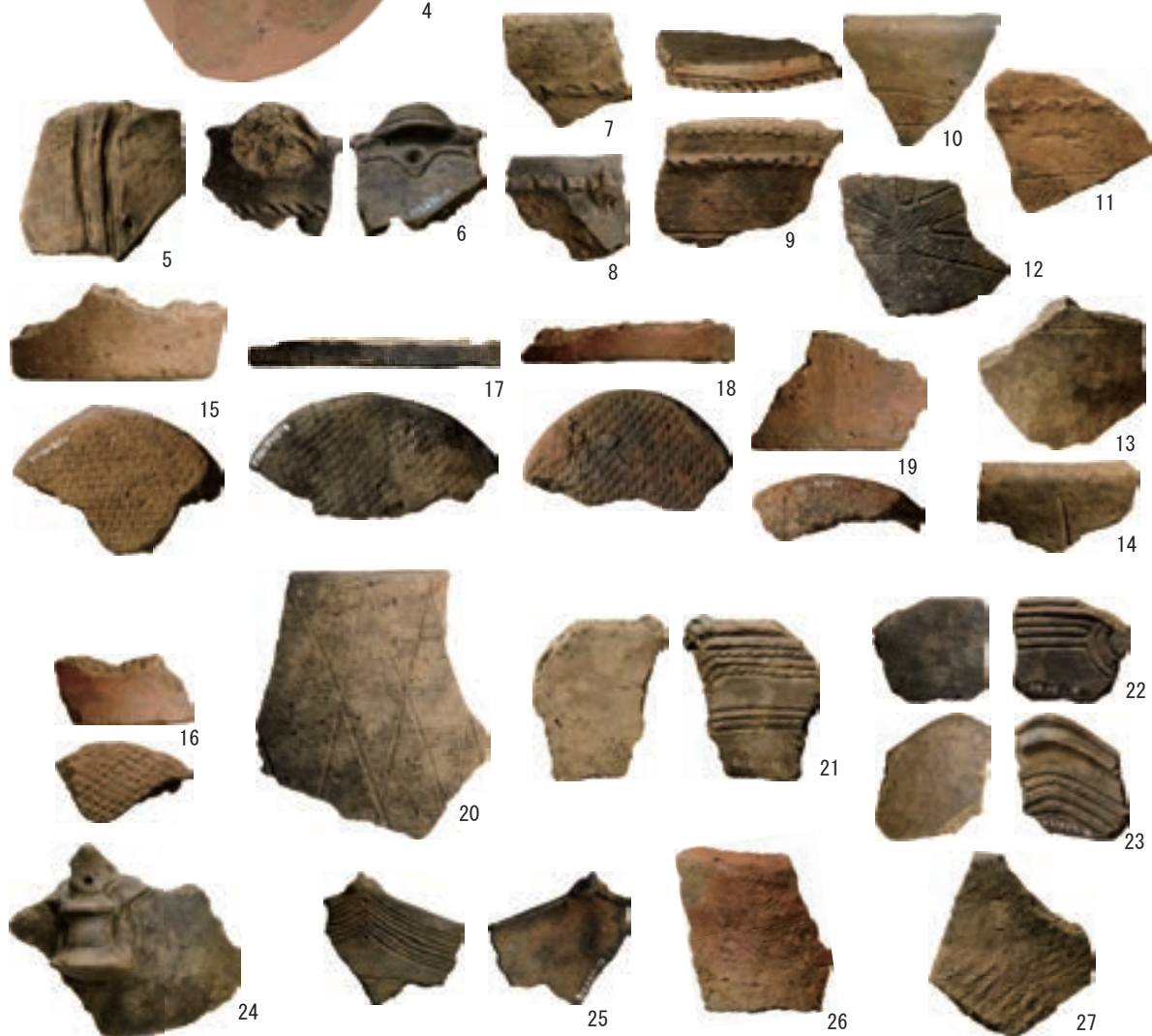
第8次調査ピット出土遺物



第8次調査3号住居跡出土遺物(1)



第8次調査1号土坑出土遺物



第8次調査3号住居跡出土遺物(2)



第8次調査遺構外出土遺物(1)



第8次調査遺構外出土遺物(2)



第8次調査遺構外出土遺物(3)



第8次調査遺構外出土遺物(4)





131



132



133



134



135

第8次調査遺構外出土遺物(5)

# 報告書抄録

ふりがな	すぎくほいせきはくつちょうさほうこくしょーだい7・8じちょうさー							
書名	杉久保遺跡発掘調査報告書－第7・8次調査－							
編著者名	押方みはる、和田山千暁							
編集機関	海老名市教育委員会							
所在地	〒243-0422 神奈川県海老名市中新田377番地 TEL046-235-4925							
発行年月日	2022年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村   遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すぎくほいせきだい じちょうさ 杉久保遺跡第7次調査	かながわけん 神奈川県 えびな 海老名市 すぎくほきた 杉久保北 よんちようめ 四丁目1903番2	14215	10	35° 25′ 35″	139° 24′ 00″	20170111～ 20170210	108	個人専用 住宅
すぎくほいせきだい じちょうさ 杉久保遺跡第8次調査	かながわけん 神奈川県 えびな 海老名市 すぎくほきた 杉久保北 よんちようめ 四丁目1903番5	14215	10	35° 25′ 36″	139° 24′ 00″	20170206～ 20170210 20170414～ 20170529	9.3 130	個人専用 住宅 個人専用 住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
すぎくほいせきだい じちょうさ 杉久保遺跡第7次調査	しゅうらくあと 集落跡	中・近世 縄文時代	溝状遺構2、 土坑2、 性格不明遺構1 (中・近世) 住居跡2、 ピット101 (縄文)	陶磁器、 縄文土器、 石器				
すぎくほいせきだい じちょうさ 杉久保遺跡第8次調査	しゅうらくあと 集落跡	中・近世 縄文時代	溝状遺構2、 ピット9、 土坑1(中・近世) 住居跡4、土坑2、 ピット141 (縄文)	縄文土器、 石器				
要約	第7・8次調査では、南北方向に中世の2号溝状遺構が確認され、これまでに杉久保遺跡で確認されている大規模な中世区画溝の一部とみられる。縄文時代の遺構としては、中期勝坂期の住居跡1軒のほか称名寺式期から堀之内式期後期の住居跡が調査区内に少なくとも3軒以上あったことがわかった。また、縄文時代のピットが非常に多く確認された。杉久保遺跡は丘陵の南西側に縄文時代中期の住居跡が集中しており、北側に縄文時代後期の住居跡が多くみられる傾向にある。今回の調査区周辺に縄文時代後期集落の一つのまとまりがあったものとみられる。							

- ・文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なくこの報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出展を明記してください。
- ・この報告書に係る記録図面(写真類を含む)は、海老名市教育委員会で保管していますので、利用する場合は連絡の上、必要な手続きをとってください。

神奈川県海老名市

## 杉久保遺跡発掘調査報告書－第7・8次調査－

発行日 令和4年3月25日

編集 海老名市教育委員会

発行 海老名市教育委員会教育部教育総務課文化財係  
神奈川県海老名市中新田377番地 TEL046-235-4925



